

登記ヲ終結シタル登記簿ニ付キ裁判所又ハ豫審判事ノ命令アリタルトキハ此限ニ在ラス

第十三條 何人ト雖モ手数料ヲ納付シテ身分登記簿ノ閲覧又ハ登記ノ謄本若クハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者アルトキハ戶籍吏之ヲ作り原本ト相違ナキ旨ヲ附記シ職氏名ヲ署シ職印ヲ捺捺シテ之ヲ交付スルコトヲ要ス

手数料ノ外郵送料ヲ納付シテ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者アルトキハ戶籍吏之ヲ送付スルコトヲ要ス

戶籍吏方閲覧又ハ交付ノ請求ヲ許ササル場合ニ於テハ書面ヲ以テ其旨ヲ請求者ニ告知スルコトヲ要ス

第十四條 身分登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタルトキハ司法大臣ハ其旨ヲ告示シ且身分登記簿ノ再製又ハ補充ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ要ス

第三章 登記手續

第十五條 身分登記ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス

- 一 戶籍吏カ身分ニ關スル届出ヲ受ケ又ハ其届書ノ送付ヲ受ケタルトキ
- 二 戶籍吏カ身分ニ關スル報告ヲ受ケタルトキ
- 三 戶籍吏カ身分ニ關スル證書ノ謄本ヲ受ケ又ハ其謄本ノ送付ヲ受ケタルトキ

四 戶籍吏カ身分ニ關スル事項ヲ記載シタル航海日誌ノ謄本ノ送付ヲ受ケタルトキ

五 戶籍吏カ登記ノ取消又ハ變更ノ申請若クハ請求ヲ受ケタルトキ

六 戶籍吏カ登記ヲ爲スヘキ旨ノ裁判ヲ受ケタルトキ

第十六條 前條ニ掲ケタル場合ト雖モ届出送付其他ノ手續カ本法ノ規定ニ依リタルモノニ非サレハ登記ヲ爲スコトヲ得ス

第十七條 登記ハ法律ニ特別ノ規定アル場合ヲ除ク外之ヲ取消シ又ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第十八條 戶籍吏カ届出、報告其他登記ニ關スル書類ヲ受理シタルトキハ其書類ニ受附ノ番號及ヒ年月日ヲ記載シ遲滞ナク登記ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

第十九條 登記ハ本籍人、非本籍人及ヒ登記ヲ爲スヘキ事件ノ區別ニ從ヒ相當ノ登記簿ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十條 被登記者ノ本籍カ届出其他ノ事由ニ因リ戶籍吏ノ管轄ニ歸シ又ハ其管轄ヲ離ルル場合ニ於テハ本籍人身分登記簿ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

一箇ノ登記ニシテ本籍人及ヒ非本籍人ニ關スルトキハ同時ニ本籍人身分登記簿及ヒ非本籍人身分登記簿ニ登記ヲ爲シ各登記ノ欄外ニ交互參看ノ符號ヲ附スルコトヲ要ス

第二十一條 被登記者ノ本籍カ分明ナラサルトキハ非本籍人身分登記簿ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二十二條 登記ニハ第四章ノ規定ニ依リ届出、報告、申請若クハ請求ヲ爲シ又ハ航海日誌ノ謄本ニ記



載シタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

證書ノ謄本ニ依リテ爲ス登記ニハ其謄本ニ記載シタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第二十三條 裁判ニ依リテ爲ス登記ニハ其裁判ヲ以テ命セラレタル登記事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第二十二條 登記ヲ爲スヘキ事實カ第四章第二節乃至第二十一節ニ掲ケタル届出事件ノ二箇以上ニ涉ルトキハ各別ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ登記ニハ各登記ニ付キ必要ナル事項ノミヲ記載シ各登記ノ欄外ニ交互參看ノ符號ヲ附記スルコトヲ要ス

第二十四條 登記取消ノ登記ハ取消ノ申請又ハ請求ノ目的タル登記ノ欄外ニ之ヲ爲シ原登記ヲ抹消スルコトヲ要ス

第二十五條 登記變更ノ登記ハ其目的タル登記ノ欄外ニ之ヲ爲シ且其申請ノ基本タル裁判ノ趣旨ニ從ヒテ原登記ヲ變更スルコトヲ要ス

第二十六條 本籍分明ナラサル者ノ登記ヲ爲シタル後其者ノ本籍カ分明ト爲リタル旨ノ届出又ハ報告アリタルトキハ原登記ノ欄外ニ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

本籍分明ト爲リタル者カ本籍人ナリシトキハ前項ノ規定ニ依ラス更ニ本籍人身分登記簿ニ登記ヲ爲シ其登記及ヒ前登記ノ欄外ニ交互參看ノ符號ヲ附記スルコトヲ要ス

前二項ノ登記ヲ爲シタル後其者ノ本籍ニ付キ更ニ届出又ハ報告アリタルトキハ届出又ハ報告アリタ

ルコト及ヒ其年月日ヲ登記ノ欄外ニ記載スルヲ以テ足ル

第二十七條 日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ國籍喪失ノ届出ヲ爲サザリシトキハ戶籍吏ハ戶籍役場ノ所在

地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ國籍喪失ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二十八條 登記ニハ第二十二條ニ規定シタルモノノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 届出又ハ申請ノ受附ノ年月日但他ノ戶籍吏又ハ官廳ヨリ届書ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テハ發送者ノ官職、氏名及ヒ發送ノ年月日ヲ併記スルコトヲ要ス

二 報告又ハ請求ノ發送及ヒ受附ノ年月日並ニ報告者又ハ請求者ノ官職、氏名

三 證書又ハ航海日誌ノ謄本ノ發送及ヒ受附ノ年月日並ニ證書又ハ航海日誌ノ作製者及ヒ謄本發

送者ノ官職、氏名

四 登記ヲ命シタル裁判ノ年月日及ヒ裁判所ノ名

第二十九條 登記ヲ爲スニハ略字又ハ符號ヲ用キス字畫明瞭ナルコトヲ要ス

年月日時及ヒ年齢ヲ記スル數字ニハ一二三ノ字ヲ用キスシテ壹貳參拾ノ字ヲ用ユルコトヲ要ス

文字ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス若シ訂正、挿入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其字數ヲ欄外ニ記載シ又

ハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ戶籍吏之ニ認印シ其削除ニ係ル文字ハ尙ホ明カニ讀得ヘキ爲メ字體ヲ存

スルコトヲ要ス

第三十條 登記ハ特別ノ規定アル場合ヲ除ク外日次ヲ逐ヒ事件受附ノ順序ニ從ヒテ之ヲ爲シ一事件毎



ニ番號ヲ附シ用紙ニ空行ヲ存セス前後ノ登記ヲ接續セシムルコトヲ要ス

第三十一條 戶籍吏ハ登記ヲ爲シタル毎ニ其文末ニ認印スルコトヲ要ス

第三十二條 欄外登記ヲ爲スヘキ場合ニ於テ用紙ニ餘白ナキトキハ掛紙ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得此場合ニ於テハ戶籍吏ハ職印ヲ以テ掛紙ト本紙トニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第三十三條 被登記者ノ本籍カ届出ニ因リテ戶籍吏ノ管轄ヨリ他ノ戶籍吏ノ管轄ニ轉屬スル場合ニ於テハ戶籍吏ハ登記ヲ爲シタル後遲滞ナク届書ノ正本ヲ新管轄ノ戶籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

被登記者ノ本籍カ他ノ戶籍吏ノ管轄ヨリ戶籍吏ノ管轄ニ轉屬スル場合ニ於テハ戶籍吏ハ登記ヲ爲シタル後遲滞ナク届書ノ副本ヲ舊管轄ノ戶籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

第三十四條 被登記者ノ本籍カ届出ヲ受ケタル戶籍吏ノ管轄以外ニ於テ一ノ戶籍吏ノ管轄ヨリ他ノ戶籍吏ノ管轄ニ轉屬スル場合ニ於テハ其届出ヲ受ケタル戶籍吏ハ登記ヲ爲シタル後遲滞ナク届書ノ正本ヲ新管轄ノ戶籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

本ヲ新管轄ノ戶籍吏ニ送付シ其副本ノ一通ヲ舊管轄ノ戶籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

第三十五條 前二條ノ場合ヲ除ク外被登記者ノ本籍カ戶籍吏ノ管轄ニ屬セサルトキハ戶籍吏ハ登記ヲ爲シタル後遲滞ナク届書ノ正本ヲ管轄戶籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

第三十六條 第三十三條及ヒ第三十四條ノ規定ハ届出以外ノ事由ニ因リ被登記者ノ本籍カ移轉スル場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ戶籍吏ハ其受附ケタル書面ノ謄本ヲ作り其謄本ヲ以テ届書ノ副本ニ代フルコトヲ要ス届出以外ノ事由ニ因リ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ被登記者ノ本籍カ戶籍吏ノ管轄ニ屬セサルトキ亦同シ

第三十七條 登記ヲ爲シタルトキハ届書其他登記ニ關シテ受附ケタル書類ニ登記ノ番號及ヒ年月日ヲ記載シ登記簿ノ區別ニ從ヒ各別ニ之ヲ編綴シ且之ニ目錄ヲ附スルコトヲ要ス

第三十八條 前條ノ書類ハ一ヶ月毎ニ遲滞ナク之ヲ監督區裁判所ニ送付シ監督區裁判所ハ之ヲ保存スルコトヲ要ス

書類ヲ保存スヘキ期間ハ司法大臣之ヲ定ム

第三十九條 戶籍吏ハ登記ヲ爲シタル毎ニ登記ヲ爲スト同一ノ手續ニ依リ遲滞ナク其全文ヲ登記簿ノ副本ニ謄寫スルコトヲ要ス

登記簿ノ副本ヲ地方裁判所ニ送付シタル後欄外登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ戶籍吏ハ遲滞ナク其登記ノ謄本ヲ作り職氏名ヲ署シ職印ヲ捺捺シ之ヲ地方裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

地方裁判所長ハ前項ノ規定ニ依リ送付ヲ受ケタル登記ノ謄本ヲ登記簿ノ副本中相當登記ノ欄外ニ貼付シ職印ヲ以テ謄本ト本紙トニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第四十條 登記ヲ爲シタル後其登記ニ付キ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ戶籍吏ハ遲滞ナク之ヲ届出人又ハ登記事件ノ本人ニ通知スルコトヲ要ス

第四十一條 戶籍吏ハ毎年末ニ於テ最終登記ノ次行ニ終結ノ旨ヲ記載シ職氏名ヲ署シ職印ヲ捺捺スル

戸 籍 法



コトヲ要ス

前項ノ規定ハ最終登記ヲ爲ス前登記簿ノ用紙ヲ用キ盡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四章 身分ニ關スル届出

第一節 通則

第四十二條 身分ニ關スル届出ハ其届出人ノ本籍地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但其届出人カ本籍地外ニ在ル場合ニ於テハ其所在地ノ戸籍吏ニ届出ヲ爲スコトヲ得

届出人カ本籍ヲ有セサルトキハ其届出ニ關シテハ所在地ヲ以テ本籍地ト看做ス

第四十三條 届出ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス但正當ノ事由アルトキハ届出人ハ戸籍吏ニ其理由ヲ陳述シ口頭ニテ届出ヲ爲スコトヲ得

第四十四條 届書ニハ左ノ事項ヲ記載シ届出人之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

一 届出事件

二 届出ノ年月日

三 届出人ノ族稱、職業、出生ノ年月日及ヒ本籍地

第四十五條 届出人ト届出事件ノ本人ト異ナルトキハ届書ニ其間ノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

届出人カ家族ナルトキハ届書ニ戸主ノ氏名及ヒ届出人ト戸主トノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十六條 届出ヲ爲スヘキ者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ以テ届

出義務者トス

前項ノ場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 届出ヲ爲スヘキ者ノ氏名、族稱、出生ノ年月日及ヒ本籍地

二 無能力ノ原因

三 届出人カ親權ヲ行フ者又ハ後見人タルコト

第四十七條 前條ノ規定ハ無能力者カ其法定代理人ノ同意ヲ得スシテ爲スコトヲ得ヘキ行爲ノ届出ニハ之ヲ適用セス

禁治産者カ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ届書ニ届出人カ届出事件ノ性質及ヒ效果ヲ理會スルニ足ルヘキ能力ヲ有スル者ナルコトヲ證スヘキ醫師ノ診斷書ヲ添フルコトヲ要ス

第四十八條 證人ヲ要スル事件ノ届出ニ付テハ證人ハ届書ニ其證人タルコト、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地ヲ記載シテ署名、捺印スルコトヲ要ス

第四十九條 届出人、届出事件ノ本人又ハ届出ノ證人カ本籍地外ニ在ルトキハ届書ニ其所在地ヲ記載スルコトヲ要ス

第五十條 本法ノ規定ニ依リ届書ニ記載スヘキ事項中其事實ノ存セサルモノ又ハ知レサルモノアルトキハ其旨ヲ記載スルコトヲ要ス但戸籍吏ハ各届出事件ニ付キ特ニ重要ト認ムル事項ヲ記載セサル届書ヲ受理スルコトヲ得ス



第五十一條 届書ニハ本法其他ノ法令ニ定メタル事項ニ非サレハ之ヲ記載スルコトヲ得ス

第五十二條 第二十九條ノ規定ハ届書ノ記載ニ之ヲ準用ス

第五十三條 本籍地ノ戸籍吏ノ管轄地外ニ於テ届出ヲ爲ストキハ届書ハ正副二本ヲ作ルコトヲ要ス

届出ニ因リ一人又ハ數人ノ本籍カ一ノ家ヨリ他ノ家ニ移轉スル場合ニ於テ兩家ノ本籍地カ戸籍吏ノ管轄ヲ異ニスルトキハ届書ハ正副二本ヲ作り届出地ト兩家ノ本籍地トカ各戸籍吏ノ管轄ヲ異ニスルトキハ正本一通副本二通ヲ作ルコトヲ要ス

第五十四條 口頭ヲ以テ届出ヲ爲スニハ届出人ハ戸籍吏ノ面前ニ出頭シ其届出事件ヲ陳述シ戸籍吏ハ直チニ其口述並ニ届出ノ年月日、届出人ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地ヲ筆記シ之ヲ届出人ニ讀聞カセ且届出人ヲシテ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

第五十五條 前條ノ規定ニ依リテ戸籍吏カ作ルヘキ書面ニハ届書ニ關スル規定ヲ準用ス

第五十六條 第四十三條、第五十四條及ヒ前條ノ規定ハ届出事件ニ關スル同意、承諾又ハ承認ノ證明ニ之ヲ準用ス

第五十七條 本法ニ別段ノ規定アル場合ノ外法令ノ規定ニ依リ届出事件ニ付キ官廳ノ許可ヲ要スルトキハ届出人ハ届書ニ許可書ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

第五十八條 届出人カ疾病其他ノ事故ニ因リ自ラ戸籍吏ノ面前ニ出頭スルコト能ハサルトキハ代理人ヲ差出タスコトヲ得

第五十九條 外國ニ在ル日本人ハ本法ノ規定ニ從ヒ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ届出ヲ爲スコトヲ得

第六十條 外國ニ在ル日本人カ其國ノ法式ニ從ヒ届出事件ニ關スル證書ヲ作ラシメタルトキハ二个月内ニ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ其證書ノ謄本ヲ差出タスコトヲ要ス

日本ノ公使又ハ領事カ其國ニ駐在セサルトキハ本人歸國ノ後一个月内ニ本籍地ノ戸籍吏ニ證書ノ謄本ヲ差出タスコトヲ要ス

第六十一條 前二條ノ規定ニ依リテ公使又ハ領事カ受取リタル届書又ハ證書ノ謄本ハ其公使又ハ領事ヨリ三个月内ニ之ヲ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日内ニ之ヲ本人ノ本籍地ノ戸籍吏ニ發送スルトコトヲ要ス

第六十二條 本法ニ定メタル届出期間ハ届出事件ノ發生シタル日ヨリ之ヲ起算ス  
裁判確定ノ日ヨリ期間ヲ起算スヘキ場合ニ於テ届出義務者カ裁判ノ送達又ハ交付ヲ受ケル前裁判方確定シタルトキハ其送達又ハ交付ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス

第六十三條 本法ノ規定ニ依リ期間内ニ爲スヘキ届出ヲ怠リタル爲メ過料ニ處セラレタル者アルトキハ裁判所ハ遲滞ナク其者カ届出ヲ爲スヘキ地ノ戸籍吏ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス但戸籍吏ヨリ既ニ届出ヲ受理シタル旨ノ通知アリタル場合ハ此限ニ在ラス

戸籍吏カ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ届出義務者ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ届出ヲ爲スヘキ



キ旨ヲ催告スルコトヲ要ス

届出義務者カ前項ノ期間内ニ届出ヲ爲ササルトキハ戶籍吏ハ更ニ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲スコトヲ要ス爾後届出義務者カ戶籍吏ノ催告ニ應セサルトキ亦同シ

第六十四條 戶籍吏カ其管轄内ニ本法ノ規定ニ違反シテ届出ヲ爲ササル者アルコトヲ知リタルキハ遲滯ナク之ヲ其事件ノ管轄裁判所ニ通知スルコトヲ要ス

第六十五條 届出期間ヲ經過シタル後ニ届出ヲ爲シタル場合ト雖モ戶籍吏ハ其届出ヲ受理スルコトヲ要ス

第六十六條 届出人ハ手数料ヲ納付シテ届出受理ノ證明書ヲ請求スルコトヲ得

第六十七條 届出ニ關スル規定ハ登記ノ取消又ハ變更ノ申請ニ之ヲ準用ス

第二節 出生

第六十八條 子ノ出生アリタルトキ六十日内ニ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 子ノ名及ヒ男女ノ別
- 二 子カ私生子ナルトキ又ハ出生前ニ認知セラレタル爲メ庶子ト爲リタル者ナルトキハ其旨
- 三 出生ノ年月日時及ヒ場所
- 四 父母ノ氏名、族稱、職業及ヒ本籍地但私生子ノ届出ニ付テハ母ノ氏名、族稱、職業及ヒ本籍地ノミヲ記載スルコトヲ要ス

五 出生子ノ入ルヘキ家ノ戶主ノ氏名、族稱、職業及ヒ本籍地

六 出生子カ一家ヲ創立スル者ナルトキハ其旨及ヒ創立ノ原因

七 國籍ヲ有セサル者ノ子ナルトキハ其旨

第六十九條 嫡出子出生ノ届出ハ出生地又ハ父母ノ本籍地若クハ寄留地ノ戶籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

庶子出生ノ届出ハ出生地又ハ父ノ本籍地若クハ寄留地ノ戶籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但庶子カ父ノ家ニ入ルコトヲ得サル場合ハ此限ニ在ラス

私生子又ハ父ノ家ニ入ルコトヲ得サル庶子ノ出生ノ届出ハ出生地又ハ母ノ本籍地若クハ寄留地ノ戶籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第七十條 漁車又ハ航海日誌ヲ備ヘサル船舶中ニテ出生アリタル場合ニ於テハ其届出ニ付テハ到着地ヲ以テ出生地ト看做ス

第七十一條 嫡出子出生ノ届出ハ父ヨリ之ヲ爲シ父カ届出ヲ爲スコト能ハサル場合及ヒ民法第七百三十四條第一項、第二項但書ノ場合ニ於テハ母ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス

庶子出生ノ届出ハ父ヨリ之ヲ爲シ私生子出生ノ届出ハ母ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス  
前二項ニ掲ケタル者ヨリ届出ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ左ニ掲ケタル者ハ其順序ニ從ヒ届出ヲ爲ス義務ヲ負フ



第一 戶主

第二 同居者

第三 分娩ニ立會ヒタル醫師又ハ產婆

第四 分娩ヲ介抱シタル者

同順位ノ届出義務者數人アルトキハ其中ノ一人ヨリ届出ヲ爲スヲ以テ足ル

第七十二條、夫ハ妻ノ子ノ嫡出ナルコトヲ否認セントスル場合ト雖モ前條第一項ノ規定ニ依リ出生ノ

届出ヲ爲スコトヲ要ス

第七十三條、民法第八百二十一條ノ規定ニ依リ裁判所カ出生子ノ父ヲ定ムヘキトキハ出生ノ届出ハ母

ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ其届書ニ父ノ未定ナル事由ヲ記載スルコトヲ要ス

父カ裁判ニ依リテ定マリタルトキハ其父ハ裁判確定ノ日ヨリ一个月内ニ第六十八條ニ掲ケタル諸件

ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ届出ヲ爲シ且第一項ノ届出ニ依リテ爲シタル登記ノ取消ヲ申請スルコト

ヲ要ス

第七十四條、病院、監獄其他ノ公設所ニ於テ子ノ出生アリタル場合ニ於テ父又ハ母ヨリ届出ヲ爲スコ

ト能ハサルトキハ病院、監獄又ハ其他ノ公設所ノ長若クハ管理人ヨリ出生ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第七十五條、棄兒ヲ發見シタル者ハ二十四時内ニ其旨ヲ戶籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス

棄兒發見ノ届出アリタルトキハ戶籍吏ハ其兒ニ氏名ヲ命シ且之ニ附屬スル衣服、物品、發見ノ場所、

年月日時其他ノ景況並ニ其兒ノ出生ノ推定年月、氏名、男女ノ別、引受人ノ氏名、職業、本籍地及ヒ所

在地又ハ育兒院ノ稱號並ニ場所及ヒ引渡ノ年月日ヲ調査ニ記載シテ之ヲ届書ニ添ヘ置クコトヲ要ス

引受人又ハ育兒院ニ變換アリタルトキハ雙方ヨリ十日内ニ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

第二項ノ調査ハ登記ニ付テハ之ヲ届書ト看做ス

第七十六條、棄兒ノ父又ハ母カ現出シテ其兒ヲ引取ルトキハ一个月内ニ第六十八條ノ届出ヲ爲シ且棄

兒發見ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第七十七條、出生又ハ棄兒發見ノ届出ヲ爲ササル前出生子又ハ棄兒カ死亡シタルトキハ出生又ハ棄兒

發見及ヒ死亡ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第七十八條、航海中ニ子ノ出生アリタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ乗船者中ヨリ選ミタル證

人ノ前ニ於テ第六十八條ニ掲ケタル諸件ヲ航海日誌ニ記載シ證人ト共ニ署名捺印シ且證人ノ出生ノ

年月日、職業及ヒ本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタル後艦船カ日本ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ其出生ニ關

スル航海日誌ノ謄本ヲ其地ノ戶籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

艦船カ外國ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ遲滞ナク其出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其國ニ

駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ送付シ公使又ハ領事ハ三ヶ月内ニ之ヲ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ

十日内ニ之ヲ父母ノ本籍地ノ戶籍吏ニ發送スルコトヲ要ス



第三節 嫡出子否認

第七十九條 嫡出子否認ノ裁判カ確定シタルトキハ否認者ハ裁判確定ノ日ヨリ一ヶ月内ニ左ノ諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出テ且既ニ出生ノ登記ヲ爲シタル者ニ付テハ登記ノ變更ヲ申請スルコトヲ要ス

- 一 子ノ名及ヒ男女ノ別
- 二 出生ノ年月日
- 三 否認ノ裁判カ確定シタル年月日

第四節 私生子認知

第八十條 私生子認知ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 子ノ名及ヒ男女ノ別
- 二 出生ノ年月日
- 三 死亡シタル子ヲ認知スル場合ニ於テハ死亡ノ年月日
- 四 父カ認知ヲ爲ス場合ニ於テハ母ノ氏名、職業及ヒ本籍地

前項第四號ノ場合ニ於テ母カ家族ナルトキハ其戸主ノ氏名、職業、本籍地及ヒ其戸主ト母トノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十一條 民法第八百三十一條第一項ノ規定ニ依リテ認知ヲ爲ス場合ニ於テハ認知者ハ母ノ氏名、

職業及ヒ本籍地ヲ具シテ其胎内ニ在ル子ヲ認知スル旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

第八十二條 民法第八百三十條及ヒ第八百三十一條ノ規定ニ依リ子、母又ハ直系與屬ノ承諾ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ承諾ノ證書ヲ添ヘ又ハ承諾ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ承諾ノ旨ヲ附記シ之ニ署名捺印セシムルコトヲ要ス

第八十三條 遺言ニ依リテ認知ヲ爲シタル場合ニ於テハ遺言執行者ハ遺言カ效力ヲ生シタル日ヨリ十日内ニ其認知ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添ヘ前三條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

遺言ニ依ル認知ノ届書ニハ認知者ノ死亡ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十四條 胎内ニテ認知セラレタル子カ死體ニテ分娩シタルトキハ出生届出義務者ハ其事實ヲ知りタル日ヨリ一ヶ月内ニ認知ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス但遺言執行者カ認知ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ遺言執行者ヨリ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第五節 養子縁組

第八十五條 縁組ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 當事者ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 二 養子ノ實父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 三 當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地

養子カ婚家又ハ養家ヨリ更ニ縁組ニ因リテ他家ニ入ル場合ニ於テハ前項ニ掲ケタル事項ノ外婚家ノ



戸主又ハ前養親ノ氏名、職業及ヒ本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十六條 民法第八百四十三條ノ規定ニ依リテ縁組ノ承諾ヲ爲シタル者ハ養子ニ代ハリテ縁組ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第八十七條 民法第七百四十一條第一項、第七百五十條第二項、第八百四十一條第二項及ヒ第八百四十三條乃至第八百四十六條ノ規定ニ依リ戸主、父母、配偶者、後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

第八十八條 民法第八百四十二條ノ規定ニ依リ配偶者ノ一方カ雙方ノ名義ヲ以テ縁組ヲ爲ス場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十九條 民法第八百四十八條ノ規定ニ依リ縁組ノ届出ヲ爲ストキハ届書ニ第八十五條ニ掲ケタル諸件及ヒ遺言者ノ死亡ノ年月日ヲ記載シ且之ニ養子ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

第九十條 縁組ノ届出ハ養親ノ本籍地又ハ所在地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第九十一條 縁組カ無効ナルトキハ届出人ハ其無効ナル事由ノ證明書ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第九十二條 縁組ノ無効又ハ取消ノ裁判カ確定シタルトキハ其訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一ヶ月内ニ裁判ノ謄本ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第九十三條 第八十五條及ヒ第八十七條乃至第八十九條ノ規定ハ口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第九十四條 第五十八條ノ規定ハ縁組ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第六節 養子離縁

第九十五條 雜縁ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 當事者ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 二 養子ノ實父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 三 當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 四 縁組ノ年月日
- 五 離縁カ協議又ハ裁判ニ因ルコト
- 六 養子ノ妻カ養子ト共ニ養家ヲ去ルトキハ其旨及ヒ妻ノ名
- 七 養子カ復籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 八 養子カ復籍スヘキ家ナキトキハ其事由

第九十六條 民法第八百六十二條第二項ノ規定ニ依リテ離縁ヲ爲ス場合ニ於テハ養親及ヒ養子ニ代ハリテ協議ヲ爲シタル者ヨリ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第九十七條 民法第八百六十二條第三項ノ規定ニ依リテ離縁ヲ爲ス場合ニ於テハ養子ヨリ届出ヲ爲ス



ヲ以テ足ル

第九十八條 民法第八百六十二條第三項及ヒ第八百六十三條ノ規定ニ依リ戸主、父母、後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

第九十九條 離縁ノ裁判ヲ確定シタルトキハ其訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第一百條 第九十五條及ヒ第九十八條ノ規定ハ口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第五十八條ノ規定ハ離縁ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第七節 婚姻

第一百二條 婚姻ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 當事者ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ本籍地
- 二 父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 三 當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 四 入夫婚姻又ハ婿養子縁組ナルトキハ其旨
- 五 入夫婚姻ノ場合ニ於テ入夫カ戸主ト爲ラサルトキハ其旨
- 六 婚姻ニ因リテ嫡出子タル身分ヲ取得スル庶子アルトキハ其名及ヒ出生ノ年月日

當事者ノ一方カ婚家又ハ養家ヨリ更ニ婚姻ニ因リテ他家ニ入ル場合ニ於テハ前項ニ掲ケタル事項ノ外前婚家ノ戸主又ハ養親ノ氏名、職業及ヒ本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス

第一百三條 民法第七百四十一條第一項、第七百五十條第一項、第七百七十二條及ヒ第七百七十三條ノ規定ニ依リ戸主、父母、後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名捺印セシムルコトヲ要ス

第一百四條 婚姻ノ届出ハ夫ノ本籍地又ハ所在地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但入夫婚姻及ヒ婿養子縁組ナルトキハ妻ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ其届出ヲ爲スコトヲ要ス

第一百五條 婚姻カ無効ナルトキハ届出人ハ其無効ナル事由ノ證明書ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第十六條 婚姻ノ無効又ハ取消ノ裁判ヲ確定シタルトキハ其訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一ヶ月内ニ裁判ノ謄本ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

檢事カ訴ヲ提起シタル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ從ヒ檢事ヨリ登記ノ取消ヲ請求スルコトヲ要ス

第一百七條 第一百二條及ヒ第一百三條ノ規定ハ口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第一百八條 第五十八條ノ規定ハ婚姻ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第八節 離婚



- 一 當事者ノ氏名、職業及ヒ本籍地
  - 二 父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地
  - 三 當事者カ家族ナルトキハ戶主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
  - 四 婚姻ノ年月日
  - 五 離婚カ協議又ハ裁判ニ因ルコト
  - 六 當事者カ復籍スヘキ家ノ戶主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
  - 七 當事者カ復籍スヘキ家ナキトキハ其事由
- 第百十條 民法第八百九條ノ規定ニ依リ父母、後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ屆出人ハ屆書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ屆書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス
- 第百十一條 離婚ノ裁判カ確定シタルトキハ其訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ届出ヲ爲スコトヲ要ス
- 第百十二條 第百九條及ヒ第百十條ノ規定ハ口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
- 第百十三條 第五十八條ノ規定ハ離婚ノ届出ニハ之ヲ適用セス
- 第九節 後見
- 第百十四條 後見ノ開始アリタルトキハ後見人ハ就職ノ日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツ

ルコトヲ要ス

- 一 後見人ノ氏名、出生ノ年月日、職業、本籍地及ヒ住所
  - 二 被後見人ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
  - 三 被後見人カ家族ナルトキハ戶主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
  - 四 後見開始ノ原因及ヒ年月日
  - 五 後見人就職ノ年月日
- 第百十五條 後見人ノ更迭アリタルトキハ後任ノ後見人ハ其就職ノ日ヨリ十日内ニ前條ニ掲ケタル諸件及ヒ前任者ノ氏名ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス
- 第百十六條 後見人カ遺言ヲ以テ指定セラレタル者ナルトキハ屆書ニ其指定ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス
- 後見人カ親族會ニ於テ選任セラレタル者ナルトキハ屆書ニ其選任ニ關スル證明書ヲ添フルコトヲ要ス
- 第百十七條 後見人ノ任務カ終了シタルトキハ後見人ハ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス
- 一 被後見人ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
  - 二 就職ノ年月日



三 任務終了ノ原因及ヒ年月日

後見人ノ任務カ其死亡ニ因リテ終了シタルトキハ前項ノ届出ハ後見監督人ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス  
第百十八條 後見ニ關スル届出ハ被後見人ノ本籍地又ハ所在地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十節 隠居

第百十九條 隠居ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 隠居者ノ氏名、族稱、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
- 二 家督相續人ノ名、出生ノ年月日、職業及ヒ家督相續人ト隠居者トノ續柄
- 三 隠居ノ原因

第百二十條 裁判所ノ許可ヲ得テ隠居ヲ爲ス場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ裁判ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

第百二十一條 隠居ノ届出人ハ届書ニ家督相續人ノ承認ノ證書ヲ添へ又ハ承認ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ其旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ民法第七百五十五條第二項ノ規定ニ依リ夫ノ同意ヲ要スル場合ノ届出ニ之ヲ準用ス

第百二十二條 隠居ノ取消ノ裁判カ確定シタルトキハ其訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一ヶ月内ニ裁判ノ謄本ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第百六條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十一節 失踪

第百二十三條 失踪ノ宣告アリタルトキハ其宣告ヲ請求シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 失踪者ノ氏名、出生年月日、職業及ヒ本籍地
- 二 失踪ノ宣告アリタル年月日
- 三 失踪者家族ナルトキハ戶主ノ氏名、族稱及ヒ戶主ト失踪者トノ續柄

第百二十四條 失踪ノ宣告ノ取消アリタルトキハ其取消ヲ請求シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一ヶ月内ニ裁判ノ謄本ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第十二節 死亡

第百二十五條 死亡者アリタルトキハ届出義務者カ其死亡ヲ知リタル日ヨリ五日内ニ左ノ諸件ヲ具シ醫師ノ診断書若クハ検案書又ハ警察官ノ檢視調書ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 死亡者ノ氏名、出生ノ年月日、男女ノ別及ヒ本籍地
- 二 死亡ノ年月日時及ヒ場所
- 三 死亡者カ家族ナルトキハ戶主ノ氏名、族稱及ヒ戶主ト死亡者トノ續柄

前項ノ届出期間ハ衛生ノ爲メ特別ノ必要アルトキハ命令ヲ以テ之ヲ短縮スルコトヲ得  
第百二十六條 左ニ掲ケタル者ハ其順序ニ從ヒ死亡ノ届出ヲ爲ス義務ヲ負フ



第一 戸主

第二 同居者

第三 家主、地主又ハ土地若クハ家屋ノ管理人

同順位ノ届出義務者數人アルトキハ其中ノ一人ヨリ届出ヲ爲スヲ以テ足ル

第二百二十七條 死亡ノ届出ハ死亡地又ハ死亡者ノ本籍地若クハ寄留地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百二十八條 第七十條及ヒ第七十四條ノ規定ハ死亡ノ届出ニ之ヲ準用ス

第二百二十九條 死刑ノ執行アリタルトキハ監獄ノ長ハ遲滞ナク第二百二十五條ニ掲ケタル諸件ヲ具シ監獄所在地ノ戸籍吏ニ死亡ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ハ在監中死亡シタル者アリテ死體ノ引取人ナキ場合ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ報告書

ニ醫師ノ診斷書又ハ檢案書ヲ添フルコトヲ要ス

第二百三十條 航海中ニ死亡者アリタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ乗船者中ヨリ選ミタル證人

ノ前ニ於テ第二百二十五條ニ掲ケタル諸件ヲ航海日誌ニ記載シ證人ト共ニ署名、捺印シ且證人ノ出生

ノ年月日、職業及ヒ本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタル後艦船カ日本ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ死亡ニ關ス

ル航海日誌ノ謄本ヲ其地ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

艦船カ外國ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ遲滞ナク死亡ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其國ニ駐

在スル日本ノ公使又ハ領事ニ送付シ公使又ハ領事ハ三ヶ月内ニ之ヲ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十

日内ニ之ヲ死亡者ノ本籍地ノ戸籍吏ニ發送スルコトヲ要ス

第三百三十一條 艦船ノ難破ニ因リテ乗組員及ヒ乗客ノ全部又ハ一部カ死亡シタルトキハ其難破ノ取調

ヲ爲シタル官廳又ハ公署ハ死亡者ノ本籍地ノ戸籍吏ニ報告ヲ爲スコトヲ要ス

第三百三十二條 死亡者ノ本籍分明ナラス且其何人タルコトヲ認識スルコト能ハサルトキハ警察官ハ檢

視圖書ヲ作り遲滞ナク之ヲ其地ノ戸籍吏ニ報告スルコトヲ要ス

死亡者ノ本籍分明ナルニ至リ又ハ其何人タルコトヲ認識スルコトヲ得ルニ至リタルトキハ警察官ハ

遲滞ナク前ニ報告ヲ受ケタル戸籍吏ニ之ヲ報告スルコトヲ要ス

第二百二十六條 第一項第一號及ヒ第二號ニ掲ケタル死亡届出義務者カ前項ノ事實ヲ知リタルトキハ十

日内ニ死亡ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ醫師ノ診斷書又ハ檢案書ニ代ヘ警察官ノ檢視調

書ノ謄本ヲ添フルコトヲ得

第十三節 家督相續

第三百三十三條 家督相續ニ因リテ戸主ト爲リタル者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ一ヶ月内ニ左ノ諸件ヲ

具シ之ヲ被相續人ノ本籍地ノ戸籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス

一 家督相續ノ原因及ヒ戸主ト爲リタル年月日

二 前戸主ノ名及ヒ前戸主ト家督相續人トノ續柄



家督相續人カ外國ニ在ル場合ニ於テハ前項ノ届出ハ三ヶ月内ニ届書ヲ發送スルヲ以テ足ル

第百三十四條 家督相續回復ノ裁判カ確定シタルトキハ相續權ヲ回復シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一  
个月内ニ前條ニ掲ケタル諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出テ且前ニ爲シタル家督相續ノ登記  
ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第百三十五條 家督相續人カ胎兒ナルトキハ其母ハ相續ノ開始アリタルコトヲ知リタル日ヨリ一  
月内ニ左ノ諸件ヲ具シ醫師ノ診斷書ヲ添ヘテ家督相續ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

一 相續開始ノ年月日

二 家督相續人ノ胎兒ナルコト

三 前戸主ノ名及ヒ前戸主ト家督相續人トノ續柄

第百三十三條第二項ノ規定ハ前項ノ届出ニ之ヲ準用ス

第百三十六條 胎兒ヲ家督相續人トシテ届出テタル場合ニ於テ其胎兒カ死體ニテ生レタルトキハ母ハ  
出産ノ日ヨリ一ヶ月内ニ醫師又ハ出産ニ立會ヒタル産婆ノ檢案書ヲ提出シテ家督相續ノ登記ノ取消  
ヲ申請スルコトヲ要ス

母カ登記取消ノ申請ヲ爲ササルトキハ家督相續人ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ一ヶ月内ニ登記ノ取消  
ヲ申請スルコトヲ要ス

第十四節 推定家督相續人ノ廢除

第百三十七條 推定家督相續人廢除ノ裁判カ確定シタルトキハ被相續人ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ  
左ノ諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 廢除セラレタル者ノ名、出生ノ年月日及ヒ職業

二 廢除ノ原因

三 廢除ノ裁判カ確定シタル年月日

第百三十八條 被相續人カ遺言ヲ以テ推定家督相續人ヲ廢除スル意思ヲ表示シタル場合ニ於テ廢除ノ  
裁判カ確定シタルトキハ前條ノ届出ハ遺言執行者ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ届書ニ被相續人ノ死亡ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第百三十九條 推定家督相續人廢除ノ取消ノ裁判カ確定シタルトキハ其取消ヲ請求シタル者ハ裁判確  
定ノ日ヨリ一ヶ月内ニ裁判ノ謄本ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第十五節 家督相續人ノ指定

第四百十條 家督相續人指定ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

一 指定家督相續人タルヘキ者ノ氏名、族稱、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地  
二 法定ノ推定家督相續人ナキコト

第四百十一條 民法第九百八十一條ノ規定ニ依リテ家督相續人指定ノ届出ヲ爲ストキハ届書ニ前條ニ  
掲ケタル諸件及ヒ被相續人ノ死亡ノ年月日ヲ記載シ且之ニ其指定ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添フルコト



ヲ要ス

第四百二十二條 家督相續人指定ノ取消ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

一 指定家督相續人ノ氏名、族稱、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地

二 指定ノ年月日

第四百二十三條 家督相續人指定ノ取消ノ届出ヲ爲ス者ハ同時ニ家督相續人指定ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第四百二十四條 民法第九百八十一條ノ規定ニ依リテ指定ノ取消ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ前二條ノ規定ニ依ル外届書ニ被相續人ノ死亡ノ年月日ヲ記載シ且之ニ指定ノ取消ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

第四百二十五條 家督相續人ノ指定方其效力ヲ失ヒタルトキハ指定ヲ爲シタル者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ一ヶ月内ニ其效力ヲ失ヒタル事由ノ證明書ヲ提出シテ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

第十六節 入籍、離婚及ヒ復籍拒絶

第四百二十六條 民法第七百三十五條第一項若クハ第七百三十七條ノ規定ニ依リ他家ノ家族ト爲ラント欲スル者又ハ民法第七百三十八條ノ規定ニ依リ自己ノ親族ヲ婚家、養家又ハ自家ノ家族ト爲サント欲スル者ハ左ノ諸件ヲ具シテ入籍ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

一 入籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地

二 入籍スヘキ家ノ戸主又ハ家族ト入籍スヘキ者トノ親族關係

三 入籍スヘキ者カ廢家シテ他家ニ入ルトキハ其旨

四 入籍スヘキ者カ家族ナルトキハ其去ルヘキ家ノ戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業、本籍地及ヒ其戸主ト入籍スヘキ者トノ續柄

第四百二十七條 民法第七百三十五條第一項、第七百三十七條及ヒ第七百三十八條ノ規定ニ依リ戸主、配偶者、養親、親權ヲ行フ者又ハ後見人ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

第四百二十八條 戸主カ其家族ヲ離婚セントスルトキハ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 離婚セラルヘキ者ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ職業

二 離婚ノ原因及ヒ其原因發生ノ年月日

三 離婚セラルヘキ者ト共ニ家ヲ去ルヘキ者アルトキハ其名、出生ノ年月日、職業及ヒ其者ト離婚セラルヘキ者トノ續柄

第四百二十九條 離婚ニ因リテ一家ヲ創立シタル者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シテ其旨ヲ届出ルコトヲ要ス

一 離婚ヲ爲シタル戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地

二 離婚ヲ爲シタル戸主ト届出人トノ續柄



三 離籍ノ原因及ヒ年月日

四 届出人ノ家ニ入ルヘキ者アルトキハ其名、出生ノ年月日、職業及ヒ其者ト届出人トノ續柄

第百五十條 戸主カ其家族タリシ者ノ復籍ヲ拒マント欲スルトキハ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコ

トヲ要ス

一 復籍ヲ拒マルヘキ者ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地

二 復籍ヲ拒マルヘキ者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地

三 復籍拒絶ノ原因及ヒ其原因發生ノ年月日

第百五十一條 復籍拒絶又ハ復籍スヘキ家ノ廢絶ニ因リテ復籍ヲ爲スコト能ハサル者カ一家ヲ創立シ

タルトキハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シテ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 復籍ヲ拒ミタル戸主又ハ廢絶シタル家ノ最終ノ戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地

二 復籍拒絶又ハ復籍スヘキ家ノ廢絶ノ原因及ヒ年月日

三 届出人ノ家ニ入ルヘキ者アルトキハ其名、出生ノ年月日、職業及ヒ其者ト届出人トノ續柄

第十七節 廢家及ヒ絶家

第百五十二條 廢家ヲ爲サント欲スル者ハ左ノ諸件ヲ具シ家督相續ニ因リテ戸主ト爲リタル者ニ非サ

ルコトノ證明書又ハ廢家ノ許可ニ關スル裁判ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 廢家シタル者カ入ルヘキ家ノ戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地

二 廢家シタル者ニ隨ヒテ他家ニ入ル者ノ名、出生ノ年月日及ヒ職業

第百五十三條 絶家ノ家族ニシテ一家ヲ創立シタル者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ

具シテ絶家及ヒ一家創立ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

一 絶家ノ最終ノ戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地

二 絶家ノ原因及ヒ年月日

三 一家ヲ創立シタル者ニ隨ヒテ他家ニ入ル者ノ名、出生ノ年月日及ヒ職業

第十八節 分家及ヒ廢絶家再興

第百五十四條 分家ヲ爲サント欲スル者ハ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 分家ノ戸主ト爲ルヘキ者ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地

二 本家ノ戸主ノ氏名、職業、本籍地及ヒ其戸主ト分家ノ戸主ト爲ルヘキ者トノ續柄

三 分家ノ家族ト爲ルヘキ者アルトキハ其名、出生ノ年月日、及ヒ職業

四 分家ノ戸主及ヒ家族ト爲ルヘキ者ノ父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地

第百五十五條 廢絶家ヲ再興セント欲スル者ハ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 廢絶家ノ最終ノ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地

二 廢絶ノ原因及ヒ年月日

三 廢絶シタル家ト再興ヲ爲ス者ノ家トノ續柄



四 再興ヲ爲ス者ノ戸主ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地  
五 再興ヲ爲ス者ニ隨ヒテ其家ニ入ルヘキ者ノ名、出生ノ年月日及ヒ職業

第百五十六條 分家又ハ廢絶家再興ノ届出人ハ届書ニ戸主ノ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ戸主ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ民法第七百四十三條但書ノ規定ニ依リ親權ヲ行フ者又ハ後見人ノ同意ヲ要スル場合ニ之ヲ準用ス

第十九節 國籍ノ得喪

第百五十七條 外國人カ婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得スヘキトキハ婚姻又ハ縁組ノ届出人ハ届書ニ國籍取得者ノ原國籍ヲ記載スルコトヲ要ス

入夫婚姻又ハ養子縁組ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依ル外届書ニ内務大臣ノ許可書ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

第百五十八條 外國人カ認知ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得スヘキトキハ認知者ハ認知ノ届書ニ子ノ原國籍ヲ記載スルコトヲ要ス

子ノ母カ外國人ナルトキハ認知者ハ届書ニ母ノ國籍ヲ記載スルコトヲ要ス  
第百五十九條 歸化ヲ爲シタル者ハ歸化ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ内務大臣ノ許可書ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 歸化人ノ氏名、出生ノ年月日、職業、住所及ヒ原國籍

二 父母ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ國籍

三 歸化人ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得シタル者アルトキハ其名、出生ノ年月日、職業及ヒ其者ト歸化人トノ續柄

四 許可ノ年月日

歸化人ノ妻又ハ子カ歸化人ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得セサルトキハ届書ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第百六十條 日本ノ國籍ヲ失フヘキ者ハ其國籍喪失前ニ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 國籍喪失ノ原因

二 國籍喪失ノ期日ヲ知り得ヘキトキハ其年月日

三 法定ノ推定家督相續人アルトキハ其名、出生ノ年月日、職業及ヒ其者ト届出人トノ續柄

四 新ニ取得スヘキ國籍

五 届出人ノ妻又ハ子カ共ニ國籍ヲ失フヘキトキハ其妻又ハ子ノ名、出生ノ年月日及ヒ職業  
第百六十一條 日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ國籍喪失前ニ前條ノ届出ヲ爲スコト能ハサリシトキハ國籍喪失後十日内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ハ國籍喪失者カ日本ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ之ヲ適用セス



第六十二條、日本ノ國籍ヲ失フヘキ者カ滿十七年以上ノ男子ナルトキハ國籍喪失ノ届出人ハ届書ニ其者カ既ニ陸海軍ノ現役ニ服シタルコト又ハ之ニ服スル義務ナキコトノ證明書ヲ添フルコトヲ要ス

日本ノ國籍ヲ失フヘキ者カ官職ヲ帶フル者ナルトキハ國籍喪失ノ届出人ハ届書ニ所屬長官ノ許可書ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

第六十三條、日本ノ國籍ヲ回復シタル者ハ國籍回復ノ許可ヲ得タル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ内務大臣ノ許可書ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 日本ノ國籍ヲ失ヒタル原因及ヒ年月日
- 二 國籍回復前ニ有セシ國籍

- 三 國籍回復ノ許可ヲ得タル年月日
- 四 國籍回復者ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得シ又ハ之ヲ回復シタル者アルトキハ其名、出生ノ年月日、職業及ヒ其者ト國籍回復者トノ續柄

第二十節 氏名及ヒ族稱ノ變更

第六十四條、氏ヲ復舊シ又ハ名ヲ改稱シタル者ハ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ管轄官廳ノ許可書ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 復舊又ハ改稱前ノ氏名

二 復舊シタル氏又ハ改稱シタル名

三 復舊又ハ改稱ノ原因及ヒ許可ノ年月日

第六十五條、新ニ華族ニ列セラレ又ハ華十族ノ稱ヲ失ヒタル者ハ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ辭令書又ハ管轄官廳ノ許可書ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

- 一 新舊族稱

二 族稱變更ノ原因

三 族稱變更ノ辭令又ハ許可アリタル年月日

前項ノ届出ハ其族稱ニ變更アリタル者カ家族ナルトキハ戶主ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六十六條、前條ノ規定ハ分家、廢絶家再興又ハ處刑ニ因リテ族稱ヲ失ヒタル者ニハ之ヲ適用セス但處刑ニ因リテ族稱ヲ失ヒタル場合ニ於テハ裁判所ハ其者ノ本籍地ノ戶籍吏ニ其旨ヲ報告スルコトヲ要ス

第二十一節 身分登記ノ變更

第六十七條、身分登記ノ變更ヲ請求セント欲スル者ハ原登記ヲ爲シタル戶籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ其申請ヲ爲スコトヲ要ス

第六十八條、身分登記變更ノ申請ハ許可ノ裁判カ確定シタル日ヨリ一个月内ニ左ノ諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ原登記ヲ爲シタル戶籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス



一 原登記ノ件名及ヒ年月日

二 變更スヘキ事項

第六十九條 前條ノ規定ハ確定判決ニ依リテ身分登記ノ變更ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

第五章 戶籍簿

第七十條 戶籍ハ戶籍吏ノ管轄地内ニ本籍ヲ定メタル者ニ付キ之ヲ編製ス

日本ノ國籍ヲ有セサル者ハ本籍ヲ定ムルコトヲ得ス

第七十一條 戶籍ハ地番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ編綴シテ帳簿ト爲ス

戶籍吏ノ管轄地内ニ各別ニ地番號ヲ附シタル二個以上ノ區畫アル場合ニ於テハ其區畫ノ順序ハ戶籍吏之ヲ定ム

第七十二條 戶籍簿ハ正副二本ヲ設ク

戶籍簿ノ正本ハ之ヲ戶籍役場ニ備ヘ其副本ハ監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ保存ス

第七十三條 家督相續、廢絕家其他ノ事由ニ因リ戶籍ノ全部ヲ抹消シタルモノハ之ヲ戶籍簿ヨリ除

キ別ニ編綴シテ帳簿ト爲シ之ヲ戶籍役場ニ保存ス

前項ノ帳簿ヲ保存スヘキ期間ハ同法大臣之ヲ定ム

第七十四條 第十二條乃至第十四條ノ規定ハ戶籍簿並ニ戶籍ノ謄本及ヒ抄本ニ之ヲ準用ス

第六章 戶籍ノ記載手續

第七十五條 戶籍ハ一戶毎ニ一本ヲ作ル

第七十六條 戶籍ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 戶主、前戶主、及ヒ家族ノ氏名

二 戶主ノ族稱及ヒ本籍地但家族ト戶主ト族稱ヲ異ニスル場合ニ於テハ家族ニ付テモ其族稱ヲ記載スルコトヲ要ス

三 戶主及ヒ家族ノ出生ノ年月日

四 戶主又ハ家族ト爲リタル原因及ヒ年月日但出生ニ因リテ家族ト爲リタル者ニ付テハ此記載ヲ要セス

五 戶主並ニ家族ノ父母ノ氏名及ヒ其父母ト戶主又ハ家族トノ續柄

六 戶主ト前戶主トノ續柄及ヒ家族ト戶主トノ續柄但家族ノ中他家ヨリ入リテ他ノ家族ノ配偶者ト爲リタル者又ハ他ノ家族ヲ經テ戶主トノ親族關係ヲ有スル者ニ付テハ其者ト戶主トノ續柄ノ外他ノ家族トノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

七 他家ヨリ入リテ戶主又ハ家族ト爲リタル者ニ付テハ其原籍地、原籍ノ戶主ノ氏名、族稱及ヒ其戶主ト戶主又ハ家族ト爲リタル者トノ續柄

八 他家ヨリ入リテ家族ト爲リタル者ニシテ他ノ家族トノ親族關係ヲ有スル者ニ付テハ其者ト他ノ家族トノ續柄



九 戸主又ハ家族ノ身分ノ變更及ヒ其原因並ニ年月日

十 後見人アル者ニ付テハ後見人ノ氏名、住所及ヒ後見人ノ就職並ニ任務終了ノ年月日

第七十七條 戸主及ヒ家族ノ氏名ヲ戸籍ニ記載スルニハ左ノ順序ニ依ル

第一 戸主

第二 戸主ノ直系尊屬

第三 戸主ノ配偶者

第四 戸主ノ直系卑屬及ヒ其配偶者

第五 戸主ノ傍系親及ヒ其配偶者

第六 戸主ノ親族ニ非サル者

直系尊屬ノ間ニ在リテハ親等ノ遠キ者ヲ先ニシ直系卑屬又ハ傍系親ノ間ニ在リテハ親等ノ近キ者ヲ先ニス

直系尊屬、直系卑屬又ハ傍系親ノ間ニ在リテ親等ノ同シキ者ハ親族間ノ順位ニ依リ親族間ノ順位ノ同シキ者ハ出生ノ前後ニ依リテ其順序ヲ定ム

前二項ノ規定ハ戸主ノ親族ニ非サル者ノ記載ニ之ヲ準用ス

第七十八條 戸籍吏カ身分登記ヲ爲シ又ハ戸籍ニ關スル届出ヲ受理シタルトキハ次條以下ノ規定ニ從ヒテ戸籍ノ記載ヲ爲スコトヲ要ス

第七十九條 家督相續又ハ家督相續回復ノ登記ヲ爲シタルトキハ其登記及ヒ前戸主又ハ戸主ノ名義ヲ有セシ者ノ戸籍ニ基キテ新戸主ノ戸籍ヲ編製スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ前戸主又ハ戸主ノ名義ヲ有セシ者ノ戸籍ニ事由ヲ記載シテ其戸籍ヲ抹消シ且其戸籍ト新戸主ノ戸籍トニ職印ヲ以テ契印ヲ爲スコトヲ要ス

胎兒カ家督相續人ナル場合ニ於テハ其出生ニ至ルマテ前二項ノ手續ヲ爲スコトヲ要セス此場合ニ於テハ前戸主ノ戸籍中戸主ニ關スル部分ノミヲ抹消シ家督相續人ノ胎兒ナル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十條 分家、廢絶家再興其他新家ヲ立ツヘキ事件ノ登記ヲ爲シ又ハ轉籍若クハ無籍戸主ノ就籍ノ届出ヲ受理シタルトキハ其ノ登記又ハ届出ニ基キテ戸籍ヲ編製シ轉籍届書ノ副本ハ遲滞ナク之ヲ舊管轄ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リテ戸籍ヲ編製スルニハ第七十六條ニ掲ケタル事項ノ外各場合ニ付キ特殊ナル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十一條 復籍拒絕ノ登記ヲ爲シタルトキハ復籍ヲ拒絕シタル者ノ戸籍ニ登記ノ要旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十二條 廢絶家ノ登記ヲ爲シタルトキハ最終戸主ノ戸籍ニ事由ヲ記載シテ其戸籍ヲ抹消スルコトヲ要ス

第八十三條 單身戸主ノ死亡又ハ失踪ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其家ニ家督相續人ナキコト分明



ナルトキハ戸籍吏ハ戸籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ死亡者又ハ失踪者ノ戸籍ニ絶家ノ原因及ヒ年月日ヲ記載シテ其戸籍ヲ抹消スルコトヲ要ス

第百八十四條 戸籍吏ノ管轄地内ニ於ケル本籍地變更ノ届出ヲ受理シタルトキハ事由ヲ戸籍ニ記載シ

舊本籍地ニ關スル記載ヲ抹消シ新本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス

第百八十五條 前六條ノ場合ヲ除ク外身分登記ヲ爲シ又ハ戸籍ニ關スル届出ヲ受理シタルトキハ其登

記又ハ届出ニ基キ第七十六條ニ掲ケタル事項ヲ戸籍ニ記載スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ第百八十條第二項ノ規定ニ依リテ戸籍ニ記載シタル事項ノ變更アルトキハ其變更

ヲ記載スルコトヲ要ス

第百八十六條 戸籍ヲ編製シタル後一人又ハ數人ヲ戸籍ニ入ルヘキトキハ第七十七條ノ順序ニ拘ハ

ラス戸籍ノ末尾ニ之ヲ記載スルコトヲ得

第百八十七條 一戸ノ全員又ハ一戸内ノ一人若クハ數人ヲ戸籍ヨリ除クヘキトキハ事由ヲ戸籍ニ記載

シテ戸籍ノ全部又ハ一部ヲ抹消スルコトヲ要ス

第百八十八條 入籍ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テ入籍ヲ爲スヘキ者ノ本籍カ他ノ戸籍吏ノ管轄ヨリ戸籍吏

ノ管轄ニ轉屬スルモノナルトキハ身分ニ關スル届書其他ノ書類又ハ戸籍ニ關スル届書ヲ送付スルト

同時ニ入籍ヲ爲シタル旨ヲ舊管轄ノ戸籍吏ニ通知スルコトヲ要ス

第百八十九條 除籍ノ手續ヲ爲スヘキ場合ニ於テ除籍ヲ爲スヘキ者ノ本籍カ戸籍吏ノ管轄ヨリ他ノ戸

籍吏ノ管轄ニ轉屬スルモノナルトキハ新管轄ノ戸籍吏ヨリ入籍ヲ爲シタル旨ノ通知ヲ受ケタル後其

通知ノ發送及ヒ受附ノ年月日ヲ戸籍ニ記載シテ除籍ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

轉籍ニ因リテ除籍ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ前項ニ掲ケタル事項ノ外轉籍地及ヒ轉籍ノ年月日ヲ記載

スルコトヲ要ス

第百九十條 身分登記又ハ戸籍ニ關スル届出ニ基キテ戸籍ノ記載ヲ爲ス場合ニ於テハ前十一條ニ規

定シタル事項ノ外身分ニ關スル届書其他ノ書類又ハ戸籍ニ關スル届書ノ受附年月日ヲ記載スルコト

ヲ要ス

第百九十一條 第十八條、第二十九條及ヒ第三十一條ノ規定ハ戸籍ノ記載ニ之ヲ準用ス

第百九十二條 戸籍用紙中ノ一部分ヲ用キ盡シタルトキハ掛紙ヲ以テ用紙ニ充ツルコトヲ得

掛紙ヲ爲シタルトキハ戸籍吏ハ職印ヲ以テ掛紙ト本紙トニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第百九十三條 行政區畫、土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキハ戸籍ニ記載シタル區画、名稱又

ハ番號ハ當然之ヲ改正シタルモノト看做ス

第百九十四條 第七十九條及ヒ第八十條ノ規定ニ依リテ戸籍ヲ編製シタルトキハ戸籍吏ハ遲滯ヲ

ク其副本ヲ監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

第七章 戸籍ニ關スル届出

第百九十五條 戸籍吏ノ管轄地外ニ本籍ヲ轉セント欲スルトキハ戸主ヨリ左ノ諸件ヲ具シ戸籍ノ謄本



ヲ添ヘテ之ヲ轉籍地ノ戶籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス

- 一 轉籍者ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ職業
- 二 原籍地及ヒ轉籍地

前項ノ届書ハ正副二本ヲ作ルコトヲ要ス

第九十六條、戶籍吏ノ管轄地内ニ於テ本籍地ヲ變更セント欲スルトキハ戶主ヨリ原籍地及ヒ新本籍地ヲ具シテ其旨ヲ戶籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス

第九十七條、届出ノ闕漏其他ノ事由ニ因リ本籍ヲ有セス又ハ複本籍ヲ有スル者ハ就籍又ハ除籍ノ届出ヲ爲サントスル戶籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ其届出ヲ爲スコトヲ要ス

第九十八條、就籍ノ届出ハ許可ノ裁判ヲ確定シタル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ就籍スヘキ地ノ戶籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

- 一 就籍スヘキ者ノ氏名、族稱、出生ノ年月日時、職業及ヒ就籍スヘキ地
- 二 就籍スヘキ者ノ父母ノ氏名及ヒ其者ト父母トノ續柄
- 三 本籍ヲ有セザリシ原因
- 四 就籍スヘキ者カ前ニ本籍ヲ有セントキハ其舊本籍地
- 五 就籍スヘキ者カ戶主ナルトキハ其旨
- 六 就籍スヘキ者カ家族ナルトキハ戶主ノ氏名、族稱、職業及ヒ其者ト戶主トノ續柄

七 就籍スヘキ者カ戶主及ヒ家族ナルトキハ戶主、家族ノ別及ヒ家族ト戶主トノ續

八 就籍スヘキ者カ他家ヨリ入りテ戶主又ハ家族ト爲リタル者ナルトキハ其原籍地、原籍ノ戶主ノ氏名、族稱及ヒ其戶主ト就籍スヘキ者トノ續柄

前項第六號及ヒ第七號ノ場合ニ於テ就籍スヘキ家族カ他家ヨリ入りテ他ノ家族ノ配偶者ト爲リタル者ナルトキ又ハ他ノ家族ヲ經テ戶主トノ親族關係ヲ有スル者ナルトキハ届書ニ其者ト戶主トノ續柄ノ外他ノ家族トノ續柄ヲ記載シ若シ他ノ家族トノ親族關係ヲ有スル者ナルトキハ其者ト他ノ家族トノ續柄ノミヲ記載スルコトヲ要ス

第九十九條、除籍ノ届出ハ許可ノ裁判ヲ確定シタル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ除籍スヘキ地ノ戶籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

- 一 除籍スヘキ者ノ氏名、族稱、職業、本籍地及ヒ複本籍地
- 二 複本籍ヲ有セル原因
- 三 除籍スヘキ者カ本籍ト複本籍トニ於テ身分ヲ異ニスルトキハ本籍並ニ複本籍ニ於ケル身分及ヒ其身分ノ異ナル原因

第一百條、就籍又ハ除籍スヘキ者カ家族ナルトキ又ハ戶主及ヒ家族ナルトキハ前二條ノ届出ハ戶主ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス

第一百一條、第九十八條及ヒ第九十九條ノ規定ハ確定判決ニ依リテ就籍又ハ除籍ノ届出ヲ爲ス場



合ニ之ヲ準用ス

第二百二條、第四十三條、第四十四條、第四十六條、第四十九條乃至第五十二條、第五十四條、第五十五條、第五十八條及ヒ第六十二條乃至第六十六條ノ規定ハ本章ノ届出ニ之ヲ準用ス

第八章 抗告

第二百三條 身分登記又ハ戶籍ニ關スル事件ニ付キ戶籍吏ノ處分ヲ不當トスル者ハ戶籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百四條 抗告ハ管轄區裁判所ニ抗告狀ヲ差出シテ之ヲ爲ス

抗告狀ニハ届書又ハ申請書及ヒ其他ノ關係書類ヲ添フルコトヲ要ス

第二百五條 抗告ヲ受ケタル裁判所ハ抗告ニ關スル書類ヲ戶籍吏ニ送付シテ其意見ヲ求ムルコトヲ要ス

第二百六條 戶籍吏ハ抗告ヲ理由アリト認ムルトキハ處分ヲ變更シテ其旨ヲ裁判所及ヒ抗告人ニ通知スルコトヲ要ス

抗告ヲ理由ナシト認ムルトキハ其意見ヲ附シ送付ヲ受ケタル書類ヲ五日內ニ裁判所ニ返還スルコトヲ要ス

第二百七條 裁判所ハ抗告ヲ理由ナシトスルトキハ之ヲ却下シ其理由アリトスルトキハ戶籍吏ニ相當ノ處分ヲ命スルコトヲ要ス

抗告ヲ却下シ又ハ處分ヲ命スル裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲シ之ヲ戶籍吏及ヒ抗告人ニ送達スルコトヲ要ス

第二百八條 裁判所ノ決定ニ對シテハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限り民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百九條 抗告ノ費用ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

第九章 罰則

第二百十條 本法ノ規定ニ依リ期間內ニ爲スヘキ届出又ハ申請ヲ怠リタル者ハ十圓以下ノ過料ニ處セラル

第二百十一條 期間內ニ届出又ハ申請ヲ爲ササルニ因リ戶籍吏カ期間ヲ定メテ届出又ハ申請ノ催告ヲ爲シタル場合ニ於テ尙ホ其届出又ハ申請ヲ怠リタル者ハ二十圓以下ノ過料ニ處セラルニ回以上戶籍吏ノ催告ニ應セサル者亦同シ

第二百十二條 戶籍吏ハ左ノ場合ニ於テハ三十圓以下ノ過料ニ處セラル

一、正當ノ理由ナクシテ身分又ハ戶籍ニ關スル届出若クハ申請ヲ受理セサルトキ

二、身分登記又ハ戶籍ノ記載ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

第二百十三條 戶籍吏ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以下ノ過料ニ處セラル

一、正當ノ理由ナクシテ身分登記簿又ハ戶籍簿ノ閲覧ヲ拒ミタルトキ

二、正當ノ理由ナクシテ身分登記又ハ戶籍ノ謄本若クハ抄本ヲ交付セス又ハ身分若クハ戶籍ニ關



スル届出又ハ申請ノ受理ノ證明書ヲ交付セザルトキ

第二百十四條 本章ニ定メタル過料ノ裁判ハ過料ニ處セラルヘキ者ノ住所又ハ居所ノ地ヲ管轄スル區  
裁判所之ヲ爲ス其裁判及ヒ裁判ノ執行ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

第二百十五條 自己又ハ他人ノ利ヲ圖リ若クハ他人ヲ害スル目的ヲ以テ身分又ハ戶籍ニ關シ詐僞ノ届  
出若クハ申請ヲ爲シタル者ハ十一日以上四年以下ノ重禁錮又ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處セラル

附則

第二百十六條 町市村長ヲ置カサル地ニ於テハ市町村長ノ職務ヲ行フ吏員ヲ以テ戶籍吏トシ其吏員ノ  
職務ヲ行フ役場ヲ以テ戶籍役場トス

市町村長ノ職務ヲ行フ吏員ノ事務ヲ代理スヘキ者ナキ地ニ在リテハ監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁  
判所ノ長司法大臣ノ認可ヲ得テ豫メ其事務ヲ代理スヘキ者ヲ定ム

市參事會員其他戶籍吏ノ職務ヲ行フヘキ吏員ナキ地ニ於テ此等ノ者ニ代ハリテ戶籍吏ノ職務ヲ行フ  
ヘキ者モ亦前項ノ手續ニ依リテ之ヲ定ム

第二百十七條 本法ノ規定ニ依リテ納付スル手数料ハ之ヲ市町村ノ收入トス但國庫ヨリ戶籍役場ノ經  
費ヲ支辨スル地ニ在リテハ之ヲ國庫ノ收入トス

手数料ノ金額ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二百十八條 本法ノ規定ニ依リ届出人其他ノ者ノ署名、捺印ヲ要スル場合ニ於テ其者カ印ヲ有セザ

ルトキハ署名スルヲ以テ足ル署名スルコト能ハサルトキハ名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル若シ

署名スルコト能ハス且印ヲ有セザルトキハ名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル

前項ノ規定ニ依リ捺印セス又ハ名ヲ代署セシメ若クハ捺印シタル場合ニ於テハ書面ニ其事由ヲ附記  
スルコトヲ要ス

第二百十九條 明治三十一年十二月三十一日マテハ従前登記目錄トシテ備ヘタル帳簿ヲ以テ身分登記  
簿ニ代用スルコトヲ得

第二百二十條 登記目錄ノ冊數又ハ紙數カ身分登記簿ニ代用スルニ足ラサル場合ニ於テハ明治三十一  
年十二月三十一日マテノ身分登記簿ニ限り戶籍吏ハ第九條ノ規定ニ拘ハラズ登記目錄ヲ作製スルト  
同一ノ手續ニ依リテ之ヲ作製スルコトヲ得

前項ノ規定ハ登記目錄ノ設ナカリシ地ノ身分登記簿ニ之ヲ準用ス

第二百二十一條 本法ノ規定ニ依リ戶籍ヲ改製スヘキ時期ハ各地又ハ一般ニ付キ司法大臣之ヲ定ム

本法施行後戶籍ノ記載ヲ爲シ又ハ新ニ戶籍ヲ編製スル場合ニ於テハ其記載又ハ編製ニ付テハ本法ノ  
規定ニ從フコトヲ要ス但記載ヲ要スル事項ニシテ其事實ヲ知ルコト能ハサルモノ又ハ従前ノ戶籍用  
紙中其事項ヲ記載スヘキ區畫ノ設ナキモノハ其記載ヲ省クコトヲ得

第二百二十二條 明治四年四月四日布告戶籍法、明治十九年内務省令第十九號及ヒ同年内務省令第二  
十二號ハ寄留ニ關スル規定ヲ除ク外本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止シ其他ノ法令ニシテ本法ノ規定ニ抵



觸シ又ハ重複スルモノハ同日ヨリ之ヲ廢止ス

寄留ニ關スル事務ノ監督ニ付テハ第五條ノ規定ヲ準用ス

第二百二十三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔参照〕

三十一年司法省訓令第七號戸籍法取扱手續

同年同省令第十三號戸籍法ニ依ル手續

十九年内務省令第十九號寄留ノ件(次頁)

### ◎寄留届ニ關スル件

明治十九年九月  
内務省令第十九號

寄留届ニ關スル件

〔明治四年四月四日布告戸籍法第五則出生死去出入等届出方〕及明治五年(正月)第四號布告第八項寄留者届出方左ノ通相定メ來十二月一日ヨリ施行ス

(第一條乃至第五條ハ戸籍法ニ依リ消滅)

第六條 他府縣又ハ他郡市區町村ニ寄留シタルトキ自己ノ所有地ニ於テハ寄留者ヨリ他人ノ所有地若クハ自己又ハ他人ノ借地借家ニ於テハ寄留者及地主又ハ家主又ハ其地所其家ヲ管理スル者ヨリ十日以内ニ其地戸長ニ届出且同時ニ本籍地戸長ヘ届書ヲ發送スヘシ(二十九年内務省令第十一號ヲ以テ改正)

第七條 寄留地ヲ去ルトキ自己ノ所有地ニ於テハ寄留者ヨリ借地借家ニ於テハ地主又ハ家主又ハ其地

其家ヲ管理スル者ヨリ十日以内ニ其地戸長ニ届出ヘシ

第八條 寄留者本籍地ニ歸リタルトキハ戸主又ハ本人ヨリ十日以内ニ届出ヘシ

第九條 外國ニ渡航シタルトキハ戸主又ハ本人ヨリ出發前ニ届出歸朝シタルトキハ十日以内ニ届出ヘシ(同上ヲ以テ追加)

第十條 正當ノ理由ナクシテ前數條ニ違背シタル者ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

### ◎民事訴訟法(抄)

明治二十三年三月  
法律第二十九號

民事訴訟法

第二編 第一審ノ訴訟手續

第一章 地方裁判所ノ訴訟手續

第六節 人證

第二百八十九條 何人ヲ問ハス法律ニ別段ノ規定ナキ限リハ民事訴訟ニ關シ裁判所ニ於テ證言スル義務アリ

第二百九十條 官吏公吏ハ退職ノ後ト雖モ其職務上默秘ス可キ義務アル事情ニ付テハ其所屬處又ハ其最後ノ所屬處ノ許可ヲ得タルトキニ限り證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得大臣ニ付テハ勅許ヲ得

民事訴訟法



ルコトヲ要ス

此許可ハ證言カ國家ノ安寧ヲ害スル恐アルトキニ限り之ヲ拒ムコトヲ得  
右許可ハ受訴裁判所ヨリ之ヲ求メ且證人ニ之ヲ通知ス可シ

第二百九十一條

人證ノ申出ハ證人ヲ指名シ及ヒ證人ノ訊問ヲ受ク可キ事實ヲ表示シテ之ヲ爲ス

第二百九十二條

證人ノ呼出狀ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス  
第一 證人及ヒ當事者ノ表示  
第二 證據決定ノ旨趣ニ依リ訊問ヲ爲ス可キ事實ノ表示

第三 證人ノ出頭ス可キ場所及ヒ日時

第四 出頭セサルトキハ法律ニ依リ處罰ス可キ旨

第五 裁判所ノ名稱

第二百九十三條

豫備後備ノ軍籍ニ在ラサル軍入軍屬ヲ證人トシテ呼出スニハ其所屬ノ長官又ハ隊長  
ニ囑託シテ之ヲ爲ス其長官又ハ隊長ハ期日ヲ遵守セシムル爲ニ其呼出ヲ受ケタル者ノ闕勤ヲ許ス可  
シ若シ軍務上之ヲ許ス能ハサルトキハ其旨ヲ裁判所ニ通知シ且他ノ期日ヲ定ムル求テ爲ス義務アリ  
第二百九十四條 合式ニ呼出サレタル證人ニシテ正當ノ理由ナク出頭セサル者ニ對シテハ申立ナシト  
雖モ決定ヲ以テ其不參ニ因リ生シタル費用ノ賠償及ヒ貳拾圓以下ノ罰金ヲ言渡ス可シ  
證人カ再度出頭セサル場合ニ於テハ更ニ費用ノ賠償及ヒ罰金ヲ言渡ス可シ及其勾引ヲ命スルコトヲ得

證人ハ右ノ決定ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有ス

豫備後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人軍屬ニ對スル罰金ノ言渡及ヒ執行ハ軍事裁判所又ハ所屬ノ長官又ハ  
隊長ニ囑託シテ之ヲ爲ス其勾引ニ就テモ亦同シ

第二百九十五條

證人其出頭セサリシコトヲ後日ニ正當ノ理由ヲ以テ辯解スルトキハ罰金及ヒ賠償ノ  
決定ヲ取消ス可シ

證人ノ不參届及ヒ決定取消ノ申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第二百九十六條

皇族證人ナルトキハ受命判事又ハ受託判事所在ニ就キ訊問ヲ爲ス  
各大臣ニ就テハ其官廳ノ所在地ニ於テ之ヲ訊問ス若シ其所在地外ニ滞在スルトキハ其現在地ニ於テ  
之ヲ訊問ス

帝國議會ノ議員ニ付テハ開會期間其會議ノ所在地ニ滞在中ハ其所在地ニ於テ之ヲ訊問ス

第二百九十七條

左ニ掲グル者ハ證言ヲ拒ムコトヲ得  
第一 原告若ハ被告又ハ其配偶者ト親族ナルトキ但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖モ亦同シ

第二 原告若クハ被告ノ後見ヲ受クル者

第三 原告若クハ被告ト同居スル者又ハ雇人トシテ之ニ仕フル者

裁判長ハ訊問前ニ前項ノ者ニ證言ヲ拒ムノ權利アル旨ヲ告グ可シ

第二百九十八條

左ノ場合ニ於テハ證言ヲ拒ムコトヲ得



- 第一 官吏、公吏又ハ官吏、公吏タリシ者カ其職務上黙秘ス可キ義務アル事情ニ關スルトキ
  - 第二 醫師、藥商、穩婆、辯護士、公證人、神職及ヒ僧侶カ其身分又ハ職業ノ爲メ委託ヲ受ケタルニ因リテ知リタル事實ニシテ黙秘ス可キモノニ關スルトキ
  - 第三 問ニ付テノ答辯カ證人又ハ前條ニ掲ケタル者ノ耻辱ニ關スルカ又ハ其刑事上ノ訴追ヲ招ク恐アルトキ
  - 第四 問ニ付テノ答辯カ證人又ハ前條ニ掲ケタル者ノ爲メ直接ニ財產權上ノ損害ヲ生セシム可キトキ
  - 第五 證人カ其技術又ハ職業ノ秘密ヲ公ニスルニ非サレハ答辯スルコト能ハサルトキ
- 第二百九十九條 證人ハ第二百九十七條第一號及ヒ第二百九十八條第四號ノ場合ニ於テ左ノ事項ニ付キ證言ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第一 家族ノ出產婚姻又ハ死亡
  - 第二 家族ノ關係ニ因リ生スル財產事件ニ關スル事實
  - 第三 證人トシテ立會ヒタル場合ニ於ケル權利行爲ノ成立及ヒ旨趣
  - 第四 原告若クハ被告ノ前主又ハ代理人トシテ係争ノ權利關係ニ關シ爲シタル行爲
- 前條第一號第二號ニ掲ケタル者其黙秘ス可キ義務ヲ免除セラレタルトキハ證言ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第三百條 證言ヲ拒ム證人ハ其訊問ノ期日前ニ書面又ハ口頭ヲ以テ又ハ期日ニ於テ其拒絕ノ原因タル事實ヲ開示シ且之ヲ説明ス可シ

- 實ヲ開示シ且之ヲ説明ス可シ
- 期日前ニ證言ヲ拒ミタル證人ハ期日ニ出頭スル義務ナシ
- 裁判所書記ハ拒絕ノ書面ヲ受領シ又ハ其陳述ニ付キ書ヲ作リタルトキハ之ヲ當事者ニ通知ス可シ
- 第三百一條 拒絕ノ當否ニ付テハ受訴裁判所當事者ヲ審訊シタル後決定ヲ以テ其裁判ヲ爲ス但第二百九十八條第一號ノ場合ニ於テ爲シタル拒絕ノ當否ニ付テハ所屬廳又ハ最後ノ所屬廳ノ裁定ニ任ス
- 原告若クハ被告カ出頭セサルトキハ出頭シタル者ノ申述ヲ斟酌シテ決定ヲ爲ス
- 右決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有ス
- 第三百二條 原因ヲ開示セスシテ證言ヲ拒ミ又ハ開示シタル原因ノ棄却確定シタル後ニ之ヲ拒ミタルトキハ申立ヲ要セスシテ決定ヲ以テ證人ニ對シ其拒絕ニ因リテ生シタル費用ノ賠償及ヒ四十圓以下ノ罰金ヲ言渡ス
- 證人ハ費用ノ賠償及ヒ罰金ノ言渡ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行ヲ停止スル効力ヲ有ス
- 豫備後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人軍屬ニ對スル罰金ノ言渡及ヒ執行ハ軍事裁判所ニ囑託シテ之ヲ爲ス
- 第八節 書證
- 第三百五十一條 公正證書又ハ檢眞ヲ經タル私署證書ヲ偽造若クハ變造ナリト主張スル者ハ其證書ノ眞否ヲ確定センコトノ申立ヲ爲ス可シ
- 此場合ニ於テハ裁判所ハ其證書ノ眞否ニ付キ中間判決ヲ以テ裁判ヲ爲ス可シ



第三百五十二條 私署證書ノ眞否ニ付キ争アルトキハ裁判所ハ舉證者ノ申立ニ因リ檢眞ヲ爲スコトヲ得

第三百五十三條 私署證書ノ檢眞ハ總テノ證據方法及ヒ手跡若クハ印章ノ對照ニ因リテ之ヲ爲ス  
證書ノ眞否ヲ證セントスル當事者ハ裁判所ノ定ムル期間内ニ手跡若クハ印章ヲ對照スル爲ニ適當ナル書類ヲ提出ス可シ

眞正ナリト自白又ハ證明シタル適當ノ對照書類ナキトキハ對照ノ爲メ原告若クハ被告ニ對シ裁判所ニ於テ一定ノ語辭ノ手記ヲ命スルコトヲ得其手記シタル語辭ハ調書ノ附録トシテ之ニ添附ス可シ  
裁判所ハ手跡若クハ印章ヲ對照シタル結果ニ付キ自由ナル心證ヲ以テ裁判ヲ爲シ又必要ナル場合ニ於テハ鑑定ヲ爲サシメタル後之ヲ爲ス

原告若クハ被告ハ裁判所ノ定メタル期間内ニ對照書類ヲ提出セサルトキ又ハ對照ス可キ語辭ヲ手記ス可キ裁判所ノ命ニ對シ十分ナル辯解ヲ爲サスシテ之ニ從ハサルトキ又ハ書様ヲ變シテ手記シタルトキハ證書ノ眞否ニ付テノ相手方ノ主張ハ其他ノ證據ヲ要セスシテ之ヲ眞正ナリト看做スコトヲ得  
第三百五十四條 提出シタル證書ハ直ニ之ヲ還付シ又適當ナル場合ニ於テハ其謄本ヲ記録ニ留メテ之ヲ還付ス可シ

然レトモ證書ノ偽造又ハ變造ナリト争フトキハ檢事ノ意見ヲ聽キタル後ニ非サレハ之ヲ還付スルコトヲ得ス

第三百五十五條 公正證書ノ偽造若クハ變造ナルコトヲ眞實ニ反キテ主張シタル原告若クハ被告ニ惡意若クハ重過失ノ責アルトキハ五十圓以下ノ過料ヲ言渡ス

又私署證書ノ眞正ナルコトヲ眞實ニ反キテ争フトキハ前項ト同一ナル條件ヲ以テ二十圓以下ノ過料ヲ言渡ス

第三百五十六條 本節ノ規定ハ事件ノ性質ニ於テ許ス限リハ事跡ノ紀念又ハ權利ノ證徴ノ爲メ作リタル割符、界標等ノ如キモノニモ之ヲ準用ス

〔參照〕

二十三年法律第五十號施行條例

### ●非訟事件手續法(抄)

明治三十一年六月  
法律第十四號

#### 非訟事件手續法

##### 第一篇 總則

第十條 期日、期間、疏明ノ方法、人證及ヒ鑑定ニ關スル民事訴訟法ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス

〔參照〕

二十三年法律第二十九號民事訴訟法



●民事訴訟用印紙法

明治二十三年八月  
法律第六十五號

民事訴訟用印紙法

第一條 民事訴訟ノ書類ニハ以下數條ノ規定ニ從ヒ其正本ニ印紙ヲ貼用ス可シ但裁判所書記ニ口述シテ調書ヲ作ラシメタルトキハ其調書ニ印紙ヲ貼用ス可シ

第二條 財産權上ノ請求ニ係ル第一審ノ訴狀ニハ訴訟物ノ價額ニ應シ左ノ區別ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ

訴訟物ノ價額金五圓マテ	二十錢
同 十圓マテ	三十錢
同 二十圓マテ	六十錢
同 五十圓マテ	一圓五十錢
同 七十五圓マテ	二圓二十錢
同 百圓マテ	三圓
同 二百五十圓マテ	六圓五十錢
同 五百圓マテ	十圓
同 七百五十圓マテ	十三圓

同 千圓マテ	十五圓
同 二千五百圓マテ	二十圓
同 五千圓マテ	二十五圓
同 五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ二圓ヲ加フ	

訴訟物ノ價額ヲ算定スルニハ民事訴訟法第三條乃至第六條ノ規定ニ從フ

第三條 財産權上ノ請求ニ非サル訴訟ニ付テハ其訴訟物ノ價額百圓ト看做シ印紙ヲ貼用ス可シ

財産權上ノ請求ニ非サル訴訟ト其訴訟ニ由テ生スル財産權上ノ訴訟ト併合スルトキハ其多額ナル一方ノ訴訟物ノ價額ニ依リ印紙ヲ貼用ス可シ

第四條 本訴ト反訴ト其目的方同一ノ訴訟物ナルトキハ反訴ノ訴狀ニ印紙ヲ貼用スルヲ要セス

第五條 控訴狀ニハ第二條ノ規定ニ從ヒ其半額上告狀ニハ其全額ノ印紙ヲ加貼ス可シ

第六條 左ニ掲グル書類ニハ五十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

- 第一 抗告
- 第二 故障
- 第三 證據調ノ申立
- 第四 假差押及ヒ假處分ノ申請
- 第五 判決ノ送達アランコトヲ求ムル申立

民事訴訟用印紙法



第六 執行力アル正本ヲ求ムル申立但此正本ノ數通ヲ求ムルトキハ其一通毎ニ五十錢ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用ス可シ

第七條 和解及ヒ督促手續ニ付キ民事訴訟法第三百八十一條第三項及ヒ第三百九十條ノ規定ニ依リ訴カ區裁判所ニ繫屬スルトキハ第二條第三條ノ規定ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ

第八條 再審ヲ求ムルノ訴狀ニハ其訴ヲ爲ス可キ裁判所ノ審級ニ依リ相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第九條 原狀回復ノ申立ニハ其書面ヲ差出ス可キ裁判所ノ審級ニ依リ相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第十條 答辯書其他前數條ニ掲ケサル申立及ヒ申請ニハ二十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第十一條 民事訴訟法第九十七條第一號ノ場合ノ外此法律ニ從ヒ印紙ヲ貼用セサル民事訴訟ノ書類ハ其效ナキモノトス但印紙ヲ貼用セス又ハ貼用スルモ不足アルトキハ裁判所ハ相當印紙ヲ貼用セシメ之ヲ有效ナラシムルヲ得

第十二條 印紙ノ種類及ヒ貼用方ハ明治十七年第四號布達ニ依ル

第十三條 印紙ハ管轄處ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム其他ニ於テ賣買スルコトヲ許サス

第十四條 官許賣捌所外ニ於テ印紙ヲ販賣シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ハ印紙ヲ沒收ス其情ヲ知テ之ヲ買取シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ハ印紙ヲ沒收ス

第十五條 前條ノ規定ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用キス

第十六條 第六條第十條乃至第十二條ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス

### ●公證人規則

明治十九年八月  
法律第二號

#### 公證人規則

##### 第一章 總則

第一條 公證人ハ人民ノ囑託ニ應シ民事ニ關スル公正證書ヲ作ルヲ以テ職務ト爲ス

第二條 公證人ハ法律命令ニ背キタル事件ノ公正證書又ハ他ノ官吏ノ作ル可キ公證書類ヲ作ルコトヲ得ス若シ之ヲ作りタルトキハ公正ノ効ヲ有セス

第三條 公證人ノ作りタル公正證書ハ完全ノ證據ニシテ其正本ニ依リ裁判所ノ命令ヲ得テ執行スル力アルモノトス但刑事裁判所ニ偽造ノ訴アルトキハ其證書ノ執行ヲ中止ス可シ又民事裁判所ニ偽造ノ申立アルトキハ其證書ノ執行ヲ中止スルコトヲ得

第四條 公證人ハ治安裁判所ノ管轄地ヲ以テ受持區トシ其區内ニ於テ司法大臣ノ認可ヲ受ケタル町村内ニ住居シ其居宅ニ役場ヲ設ケ役場ニ於テ職務ヲ行フ可シ但役場外ニ住居セントスルトキハ管轄始審裁判所ノ認可ヲ受ケ可シ

已ムヲ得サル事件ニ付テハ受持區内ニ限り役場外ニ於テ其職務ヲ行フ可シ

第五條 各區内公證人ノ員數ハ司法大臣之ヲ定ム



第六條 公證人ハ司法大臣ニ隸屬シ控訴院長始審裁判所長ノ監督ヲ受クルモノトス

第七條 公證人其受持區内ニ於テハ區外人ノ爲メニモ職務ヲ行フ可シ但受持區外ニ於テハ何人ノ爲メ

ニモ職務ヲ行フコトヲ得ス若シ之ヲ行ヒタルトキハ其書類ハ公正ノ効ヲ有セス

第八條 公證人ハ理由ナクシテ人民ノ囑託ヲ拒ムコトヲ得ス若シ之ヲ拒ミタルトキ囑託人ノ求メアレ

ハ其理由ヲ記シテ渡ス可シ

第九條 公證人ノ職務執行上ニ關シ不服アル者ハ管轄始審裁判所ニ抗告スルコトヲ得

第十條 公證人ハ公證人何某ト刻シタル方六分ノ役印ヲ作り其印鑑ニ氏名ヲ手書シ之ヲ管轄始審裁判

所及治安裁判所ニ差出ス可シ

前項ノ印鑑ヲ差出ササル間ハ職務ヲ行フコトヲ許サス若シ之ヲ行ヒタルトキハ其書類ハ公正ノ効ヲ

有セス

第十一條 公證人已ムヲ得サル事故アリテ職務ヲ行フコト能ハサルトキハ近隣ノ公證人ニ代理ヲ囑シ

管轄始審裁判所ニ其旨ヲ届出ツ可シ

第十二條 公證人ハ筆生ヲ置キ書類ヲ作ル補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第十三條 公證人ノ作ル證書及謄本ノ用紙ハ其始審裁判所管内公證人役場ト刻シタル罫紙ヲ用フ可シ

第十四條 公證人ノ取扱フ可キ書類左ノ如シ

第一 原本 證書ノ本紙ニシテ公證人ノ保存スルモノ

第二 正本 原本ノ全文ヲ記シタルモノニシテ本文義務ノ執行ヲ裁判所ニ願出可キ旨ヲ其末尾ニ記載シタルモノ

第三 抄録正本 原本ノ一部分ヲ記シ其末尾ニ前項ト同一ノ記載アルモノ

第四 正式謄本 原本ノ全文ヲ寫シタルモノニシテ原本ニ代ヘ得可キモノ

第五 抄録正式謄本 原本ノ一部分ヲ抄寫シタルモノニシテ原本ニ代ヘ得可キモノ

第六 謄本 原本ノ全文ヲ寫シタルモノ

第七 抄録謄本 原本ノ一部分ヲ抄寫シタルモノ

第八 見出帳 日々授受シタル書類ノ番號種類等ヲ順次ニ記入スルモノ

第十五條 原本其他書類ノ本書ハ役場ニ之ヲ保存シ他ノ官吏ノ公證ヲ受クル爲メノ外裁判所ノ命令ニ

依ルニ非サレハ役場外ニ出スコトヲ得ス

第十六條 裁判所ノ命令ニ依ルノ外關係外ノ者ニ書類ノ謄本ヲ渡ス可カラス

第十七條 公證人ハ其取扱ヒタル公證事件ヲ漏洩ス可カラス

第二章 公證人ノ選任及試験

第十八條 公證人タル可キ者ハ左ノ件々ヲ具備スルヲ要ス

第一 滿二十五歳以上ナル事

第二 身元保證金ヲ管轄始審裁判所ニ差入ルル事



第三 定式試験ノ及第證書ヲ有スル事但裁判官檢察官タリシ者及法學士法科大學卒業生代言人ハ此條件ヲ要セス

第四 丁年者二名以上ニテ其品行ヲ保證スル證書ヲ有スル事

第十九條 保證金ノ額ハ土地ノ狀況ニ從ヒ二百圓以上五百圓以下ニ於テ豫メ司法大臣之ヲ定ム

第二十條 左ニ掲グル者ハ公證人タルコトヲ得ス

第一 公權剝奪若クハ停止中ノ者

第二 盜罪詐僞罪賄賂收受ノ罪及贓物ニ關スル罪ヲ犯シ刑ヲ受ケタル者

第三 身代限リノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第四 官吏懲戒令ニ依リ免職セラレタル者

第二十一條 公證人ヲ試験スル場所及期日ハ司法大臣之ヲ定メ少クモ二箇月前ニ告示ス可シ

第二十二條 試験委員ハ控訴院若クハ始審裁判所ノ裁判官二名檢察官一名トシ司法大臣臨時之ヲ命ス

第二十三條 試験ノ科目ハ公證人規則、民法、訴訟法、商法其他公證人ノ職務ニ關スル法律命令トス

第二十四條 公證人タラント欲スル者ハ願書ニ試験及第證書ノ寫ヲ添ヘ管轄始審裁判所若クハ控訴院

ヲ經テ司法大臣ニ差出ス可シ但裁判官檢察官タリシ者ハ其官記法學士ハ其學位記法科大學卒業生ハ

其卒業證書代言人ハ其免許狀ヲ以テ及第證書ニ代フルコトヲ得

第二十五條 公證人ハ司法大臣之ヲ任ス

第二十六條 試験ノ方法ハ筆記口述ノ二種トス筆記試験ニ合格セサル者ハ口述試験ヲ受グルコトヲ得

ス

第二十七條 試験及第者ニハ及第證書ヲ授與ス

第三章 證書

第一節 證書ノ原本

第二十八條 公證人證書ヲ作ルニハ其囑託人ノ氏名ヲ知り面識アルヲ必要トシ且丁年者一名ノ立會人

ヲ要ス之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

公證人囑託人ノ氏名ヲ知ラス面識ナキトキハ其本籍或ハ寄留地ノ郡區長若クハ戸長ノ證明書又ハ公

證人氏名ヲ知り面識アル丁年者二人以上ヲ以テ其人ヲ證セシム可シ之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公

正ノ効ヲ有セス

第二十九條 左ニ掲グル者ハ立會人タルコトヲ得ス

第一 公證人及囑託人ノ親屬雇人又ハ公證人ノ筆生

第二 第二十條ニ掲ケタル者

第三十條 證書ニハ其本旨ノ外左ノ件々ヲ記載ス可シ

第一 囑託人及立會人ノ族籍住所職業氏名年齡

第二 囑託人代理人ナルトキハ委任狀ヲ所持シタルコト其本人ノ族籍住所職業氏名年齡



第三 囑託人後見人ナルトキハ後見人タルノ證書ヲ所持シタルコト及其本人ノ族籍、住所、職業、氏名年齢

第四 郡區長戸長ノ證明書ヲ以テ證シタルトキハ其旨又證人ヲ要シタルトキハ其族籍、住所、職業、氏名年齢

第五 證書ヲ作リシ場所及其年月日若シ場所ヲ記セス又ハ年月日ノ記入ヲ遺脱シタルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

第三十一條 證書ヲ作ルニハ普通平易ノ語ヲ用ヒ字畫明瞭ナルヲ要ス  
接続ス可キ字行ニ空白アルトキハ墨線ヲ以テ之ヲ接続ス可シ

數量並ニ年月日ヲ記スルニハ壹貳參肆伍陸柒捌玖拾陌阡萬ノ字ヲ用フヘシ

第三十二條 度量衡貨幣ノ數量、名稱及曆法ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ記スヘシ  
既ニ廢シタル度量衡貨幣曆法又ハ外國ノ度量衡貨幣曆法ヲ記セサルヲ得サル場合ニ於テハ之ヲ用フルコトヲ得

第三十三條 證書ニ追加改正ヲ爲ストキハ其文字並ニ何行ニ追加改正ヲ爲シタルコトヲ欄外又ハ末尾ノ餘白ニ附記シ公證人並ニ關係人捺印ス可シ又文中消字ヲ爲ストキハ其原字ノ尙ホ明カニ讀得可キコトヲ要ス且何行ニ若干字ヲ消シタルコトヲ欄外又ハ末尾ノ餘白ニ附記シ公證人並ニ關係人捺印スヘシ之ニ違ヒタルトキハ追加改正消字ノ効ヲ有セス

第三十四條 證書ヲ作リタルトキハ關係人ニ讀聞セ其旨ヲ記入シ然ル後ニ公證人並ニ關係人各自署名捺印シ公證人ハ某治安裁判所管内某地住居ト肩書ス可シ公證人並ニ關係人ノ捺印ナキトキハ其ノ證書ハ公正ノ効ヲ有セス

若シ署名スル能ハサル者アルトキハ明治十年第五十號ノ布告ニ從フ可シ之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

第三十五條 證書ノ綴目合目ニハ公證人並ニ囑託人之ニ捺印ス可シ

第三十六條 公證人ハ自己及親屬ノ爲メニ證書ヲ作ルコトヲ得ス其親屬他人ノ代理人タルトキモ亦同シ之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

第三十七條 公證人若シ囑託人ノ爲メ訴訟代人若クハ代言人トナリ又ハ爲リタルコトアルトキハ其訴訟事件ニ付キ證書ヲ作ルコトヲ得ス之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

第三十八條 公證人ハ自己親屬立會人又ハ證人ノ爲メニ利益アル條件ヲ證書中ニ記ス可カラス若シ之ヲ記シタルトキハ其條件ハ無効トス

第三十九條 公證人ハ證書ノ原本ヲ保存ス可シ若シ之ヲ保存セス又ハ亡失シタル場合ニ於テ第四十七條ノ手續ヲ爲ササルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

第四十條 囑託人若シ代理人又ハ後見人ナルトキハ其委任狀又ハ其證書ノ寫ヲ原本ニ連續ス可シ其寫ニハ本書ト對點シ相違ナキ旨ヲ附記シ公證人並ニ關係人署名捺印シ其寫ト本書トニ割印ス可シ



第四十一條、證書ニ關係ノ書類ハ之ヲ原本ニ連続スルコトヲ得之ヲ連続シタルトキハ其旨ヲ原本ノ欄外又ハ末尾ニ附記シ公證人並ニ關係人捺印ス可シ

第四十二條、原本ニハ證券印稅規則ニ定メタル印紙ヲ貼用ス可シ

第二節 正本及謄本

第四十三條、正本ハ數量ノ定リタル金錢其他換用物若クハ有價證券ノ支辨ニ限り權利者ノ請求ニ依リ之ヲ渡ス可シ之ニ違ヒタルトキハ正本ノ効ヲ有セス

正式謄本及抄録正式謄本ハ權利者ノ請求ニ依リ之ヲ渡ス可シ

第四十四條、正本又ハ正式謄本ハ原本ト同時ニ又ハ原本ヲ作りタル後ニ於テ之ヲ作ルコトヲ得原本ト同時ニ作ルトキハ關係人ノ面前ニ於テシ原本ヲ作りタル後ニ作ルトキハ更ニ義務者ノ立會ヲ以テス可シ義務者出席セザルトキハ正本又ハ謄本ヲ求ムル者ヨリ管轄始審裁判所ニ出願シ其命令ニ依テ他ノ公證人一員又ハ裁判所ノ裁判官檢察官又ハ書記一員ノ立會ヲ以テ之ヲ作ル可シ之ニ違ヒタルトキハ其効ヲ有セス

裁判所ノ命令ニ依テ正本又ハ正式謄本ヲ作りタルトキハ其末尾并ニ原本ノ末尾ニ其旨ヲ附記シ其命令書ハ之ヲ原本ニ連続ス可シ

第四十五條、正本又ハ正式謄本ヲ作ルトキハ第三十一條第三十三條第三十四條第三項及第二十五條ノ規定ニ依ル可シ

正本又ハ正式謄本ニハ權利者ノ氏名並ニ之ヲ作りタル年月日及場所ヲ記シ公證人並ニ義務者署名捺印ス可シ前條第一項ノ場合ニ於テハ公證人及他ノ公證人又ハ裁判所ノ官吏署名捺印ス可シ之ニ違ヒタルトキハ其効ヲ有セス

第四十六條、正本又ハ正式謄本ヲ渡シタルトキハ原本ノ末尾ニ其旨ト年月日トヲ附記シ權利者ヲシテ署名捺印セシム可シ

第四十七條、正本又ハ正式謄本ハ原本亡失シタルトキ管轄始審裁判所ノ認可ヲ經之ヲ原本トシテ保存ス可シ

第四十八條、數事件ヲ列記シ數人各自ニ關係ヲ異ニスル證書ハ權利者ノ請求ニ依リ其有用ノ部分ヲ抄録シテ正本又ハ正式謄本ヲ作ルコトヲ得

正本又ハ正式謄本ヲ渡シタル者ニハ更ニ抄録正本又ハ抄録正式謄本ヲ渡ス可ラス又抄録正本又ハ抄録正式謄本ヲ渡シタル者ニハ更ニ正本又ハ正式謄本ヲ渡ス可カラス之ヲ渡スト雖モ其効ヲ有セス

第四十九條、正本又ハ正式謄本ハ管轄始審裁判所ノ命令アルニ非サレハ再度之ヲ渡スコトヲ得ス之ヲ渡スト雖モ其効ヲ有セス

再度以上正本又ハ正式謄本ヲ得ント欲スル者ハ其事由ヲ具シテ管轄始審裁判所ニ願出ツ可シ管轄始審裁判所ハ原本ヲ保存スル公證人ニ正本又ハ正式謄本ヲ渡スコトヲ命スルコトアル可シ

其正本又ハ正式謄本ニハ幾度ノ正本又ハ正式謄本ナルコトヲ末尾ニ附記シ公證人署名捺印ス可シ之



ニ違ヒタルトキハ其効ヲ有セス

第五十條 抄録正本又ハ抄録正式謄本ハ總テ正本又正式謄本ト同一ノ手續ニ依リ之ヲ作ル可シ其効力モ亦同シ

第五十一條 證書ノ謄本及其附屬書類ノ寫ハ關係人ノ求メニ應シ之ヲ渡ス可シ

第五十二條 謄本ニハ原本ノ全文ヲ寫シ其末尾ニ謄本ト記シ公證人署名捺印ス可シ

第五十三條 抄録謄本ニハ原本ノ年月日及囑託人ノ族籍住所職業氏名ヲ記シ末尾ニ抄録謄本ト記シ公證人署名捺印ス可シ

第五十四條 管轄始審裁判所ノ命令ニ依リ關係外ノ者ニ謄本ヲ渡シタルトキハ其命令書ヲ原本ニ連續シ末尾ニ命令書ヲ受ケタル旨並ニ年月日ヲ附記シ受取人ヲシテ署名捺印セシム可シ

第五十五條 公證人ハ見出帳ヲ作り記入前管轄始審裁判所ニ差出シ綴目合目ニ其所長ノ官印ヲ受ク可シ

第五十六條 見出帳ニハ日々取扱ヒタル書類中ヨリ第三十一條及第三十三條ノ規定ニ從ヒ左ノ件々ヲ記入ス可シ

第三節 見出帳

第五十七條 公證人死去失踪免職辭職轉職又ハ他ノ役場ニ轉シテ直ニ後任者ノ命セラレサル場合又ハ停職ノ場合ニ於テハ管轄始審裁判所ハ近隣ノ公證人ニ命シテ其事務ヲ兼任セシム可シ

第五十八條 前條ノ場合ニ於テ兼任者ナキトキ其他必要ト見認ムル場合ニ於テハ管轄始審裁判所ハ直ニ其役場ノ書類ニ封印ヲ爲ス可シ

第五十九條 公證人免職辭職轉職又ハ他ノ役場ニ轉シタル場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ前任者ト立會ヒ書類ノ提要目錄ヲ作り共ニ署名捺印シテ授受ス可シ

第六十條 公證人免職辭職轉職又ハ他ノ役場ニ轉シタル場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ管轄始審裁判所ノ官吏ト立會ヒ提要目錄ヲ作り受取ル可シ

第六十一條 公證人免職辭職轉職又ハ他ノ役場ニ轉シタル場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ管轄始審裁判所ノ官吏ト立會ヒ提要目錄ヲ作り受取ル可シ

第六十二條 公證人免職辭職轉職又ハ他ノ役場ニ轉シタル場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ管轄始審裁判所ノ官吏ト立會ヒ提要目錄ヲ作り受取ル可シ

第四節 兼任及書類ノ授受

第六十三條 公證人免職辭職轉職又ハ他ノ役場ニ轉シタル場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ管轄始審裁判所ノ官吏ト立會ヒ提要目錄ヲ作り受取ル可シ

第六十四條 公證人免職辭職轉職又ハ他ノ役場ニ轉シタル場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ管轄始審裁判所ノ官吏ト立會ヒ提要目錄ヲ作り受取ル可シ

第六十五條 公證人免職辭職轉職又ハ他ノ役場ニ轉シタル場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ管轄始審裁判所ノ官吏ト立會ヒ提要目錄ヲ作り受取ル可シ

第六十六條 公證人免職辭職轉職又ハ他ノ役場ニ轉シタル場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ管轄始審裁判所ノ官吏ト立會ヒ提要目錄ヲ作り受取ル可シ

第六十七條 公證人免職辭職轉職又ハ他ノ役場ニ轉シタル場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ管轄始審裁判所ノ官吏ト立會ヒ提要目錄ヲ作り受取ル可シ

第六十八條 公證人免職辭職轉職又ハ他ノ役場ニ轉シタル場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ管轄始審裁判所ノ官吏ト立會ヒ提要目錄ヲ作り受取ル可シ

第六十九條 公證人免職辭職轉職又ハ他ノ役場ニ轉シタル場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ管轄始審裁判所ノ官吏ト立會ヒ提要目錄ヲ作り受取ル可シ

第七十條 公證人免職辭職轉職又ハ他ノ役場ニ轉シタル場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ管轄始審裁判所ノ官吏ト立會ヒ提要目錄ヲ作り受取ル可シ

第七十一條 公證人免職辭職轉職又ハ他ノ役場ニ轉シタル場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ管轄始審裁判所ノ官吏ト立會ヒ提要目錄ヲ作り受取ル可シ

第七十二條 公證人免職辭職轉職又ハ他ノ役場ニ轉シタル場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ管轄始審裁判所ノ官吏ト立會ヒ提要目錄ヲ作り受取ル可シ

第七十三條 公證人免職辭職轉職又ハ他ノ役場ニ轉シタル場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ管轄始審裁判所ノ官吏ト立會ヒ提要目錄ヲ作り受取ル可シ

第七十四條 公證人免職辭職轉職又ハ他ノ役場ニ轉シタル場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ管轄始審裁判所ノ官吏ト立會ヒ提要目錄ヲ作り受取ル可シ

第七十五條 公證人免職辭職轉職又ハ他ノ役場ニ轉シタル場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ管轄始審裁判所ノ官吏ト立會ヒ提要目錄ヲ作り受取ル可シ



者之ヲ擔當ス可シ兼任者ハ停職者ノ役場ニ於テ其職務ヲ行フ可シ

第六十一條 兼任者引繼ノ書類ヲ更ニ他ノ公證人ニ引渡ストキハ其命ヲ受ケタル日ヨリ三日以内ニ自

己ノ引繼キタルトキノ目錄ニ依テ引渡ヲ爲シ其始末書ヲ作り受繼人ト共ニ署名捺印ス可シ

受繼人ハ始末書ヲ作りタル日ヨリ一月以内ニ其寫一通ヲ作り管轄始審裁判所ニ差出ス可シ

第六十二條 停職者復任スルトキハ管轄始審裁判所ヨリ兼任者ニ解任ヲ命ス

第六十三條 前任者ノ作りタル原本ニ依テ後任者正本又ハ謄本ヲ渡ストキハ兼任者タル旨及其受繼人

タル旨ヲ附記ス可シ

本任者ノ作りタル原本ニ依テ兼任者正本又ハ謄本ヲ渡ストキハ兼任者タル旨ヲ附記ス可シ

第四章 手数料及旅費日當

第六十四條 公證人ハ此章ニ定メタル程限ニ從ヒ囑託人ヨリ手数料及旅費日當ヲ受ケルコトヲ得

第六十五條 手数料ハ原本一枚ニ付キ貳拾五錢正本及謄本ハ一枚ニ付キ拾錢但シ一行二十字二十行ヲ

以テ一枚トシ十行以上ハ一枚十行以下ハ半枚ヲ以テ算ス

第六十六條 囑託人ノ求メニ依リ先ヅ證書ノ草案ヲ渡シ後其原本ヲ作りタルトキハ草案ノ手数料ヲ別

ニ請求スルコトヲ得ス但シ其原本ヲ作ラサルトキハ原本手数料ノ半額ヲ受ケルコトヲ得

第六十七條 公證人其役場ヨリ一里以外ノ地ニ住テ職務ヲ行フトキハ往返トモ旅費トシテ一里毎ニ貳

拾錢ヲ受ケルコトヲ得其職務ヲ行フ爲メ或ハ災變 爲メニ其場所又ハ途中ニ滞留スルトキハ日當七

錢ヲ受ケルコトヲ得

第六十八條 兼任者本任者ニ代リテ其職務ヲ行フトキハ其手数料ハ總テ兼任者之ヲ受ケ可シ

第六十九條 手数料ノ外證券印紙並ニ罫紙ノ代價ハ囑託人ヨリ之ヲ受ケルコトヲ得

第七十條 囑託人ノ求メアルトキハ手数料等ノ計算書ヲ與フ可シ

第七十一條 手数料等ニ係リ争ノ生シタルトキハ其金額ニ拘ラズ管轄始審裁判所ニ訴フ可シ

第五章 懲罰

第七十二條 公證人此規則ヲ犯シタルトキハ管轄始審裁判所ニ於テ第七十三條ヨリ第七十六條マテニ

定メタル規定ニ依リ處分ス可シ

第七十三條 左ノ違犯ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ過料ニ處ス

第八條ニ違ヒタル時

第十一條ニ違ヒタル時

第十三條ニ違ヒタル時

第三十條ノ第一第二第三第四ノ規定ニ違ヒタル時

第三十一條ノ第二項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第三十二條ノ第一項ニ違ヒタル時

公證人規則



第三十五條ニ違ヒタル時

第四十條ニ違ヒタル時

第四十一條ニ違ヒタル時

第四十二條ニ違ヒタル時

第四十四條ノ第二項ニ違ヒタル時

第四十六條ニ違ヒタル時

第五十二條ニ違ヒタル時

第五十三條ニ違ヒタル時

第五十四條ニ違ヒタル時

第五十五條ニ違ヒタル時

第五十九條ノ第四項ニ違ヒタル時

第六十一條ニ違ヒタル時

第六十三條ニ違ヒタル時

第七十四條 左ノ違犯ハ二圓以上五圓以下ノ過料ニ處ス

第四十三條ニ違ヒタル時

第四十四條ノ第一項ニ違ヒタル時

第四十五條ノ第二項ニ違ヒタル時

第四十八條ノ第二項ニ違ヒタル時

第四十九條ノ第一項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第七十五條 左ノ違犯ハ五圓以上三十圓以下ノ過料ニ處ス

第二條ニ違ヒタル時

第七條ニ違ヒタル時

第十條ノ第二項ニ違ヒタル時

第二十八條ニ違ヒタル時

第三十條ノ第五ノ規定ニ違ヒタル時

第三十三條ニ違ヒタル時

第三十四條ノ第二項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第三十六條ニ違ヒタル時

第三十七條ニ違ヒタル時

第三十八條ニ違ヒタル時

第三十九條ニ違ヒタル時

第七十六條 左ノ違犯ハ一月以上四月以下ノ停職ニ處ス



第四條ノ第一項ニ違ヒタル時

第十五條ニ違ヒタル時

第十六條ニ違ヒタル時

第十七條ニ違ヒタル時

第七十七條 公證人前數條ニ掲ケタル懲罰處分ニ對シ不服アルトキハ管轄控訴院ニ抗告スルコトヲ得  
但抗告ハ其處分ノ執行ヲ停止スルノ効力ナキモノトス

第七十八條 公證人停職ニ當ル所爲三度ニ及ヒタルトキハ司法大臣其職ヲ免ス

第二十條ノ第一第二第三ニ記載シタル處分ヲ受ケ又ハ身許保證金ヲ差入レサルトキ亦前項ニ同シ

第七十九條 公證人此規則ヲ犯シタルニ依リ他人ニ損害ヲ生セシメタルトキハ之ヲ賠償ス可シ

〔参照〕

十九年司法省令甲第二號施行條例

同年同省令甲第三號抗告手續

## 第二章 刑事

### ●刑法

明治十三年七月  
布告第三十六號

#### 刑法

第一條 凡法律ニ於テ罰ス可キ罪分テ三種ト爲ス

一 重罪

二 輕罪

三 違警罪

第二條 法律ニ正條ナキ者ハ何等ノ所爲ト雖之ヲ罰スルコトヲ得ス

第三條 法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスコトヲ得ス

若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ス

第四條 此刑法ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ罰ス可キ者ニ適用スルコトヲ得ス

第五條 此刑法ニ正條ナクシテ他ノ法律規則ニ刑名アル者ハ各其法律規則ニ從フ

若シ他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ設ケサル者ハ此刑法ノ總則ニ從フ

### 第二章 刑例

#### 第一節 刑名

第六條 刑ハ主刑及附加刑ト爲ス

主刑ハ之ヲ宣告ス

附加刑ハ法律ニ於テ其宣告スル者ト宣告セサル者トヲ定ム

第七條 左ニ規定シタル者ヲ以テ重罪ノ主刑ト爲ス



- 一 死刑
  - 二 無期徒刑
  - 三 有期徒刑
  - 四 無期徒刑
  - 五 有期徒刑
  - 六 重懲役
  - 七 輕懲役
  - 八 重禁錮
  - 九 輕禁錮
- 第八條 左ニ記載シタル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス
- 一 重禁錮
  - 二 輕禁錮
  - 三 罰金
- 第九條 左ニ記載シタル者ヲ以テ違警罪ノ主刑ト爲ス
- 一 拘留
  - 二 科料

第十條 左ニ記載シタル者ヲ以テ附加刑ト爲ス

- 一 剝奪公權
- 二 停止公權
- 三 (民法施行法第十四條ヲ以テ削除)
- 四 監視
- 五 罰金
- 六 沒收

第十一條 刑ヲ執行シ及犯人ヲ檢束スル方法細目ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

第二節 主刑處分

- 第十二條 死刑ハ絞首ス但規則ニ定ムル所ノ官吏臨檢シ獄内ニ於テ之ヲ行フ
- 第十三條 死刑ハ司法卿ノ命令アルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス
- 第十四條 大祀令節國祭ノ日ハ死刑ヲ行フコトヲ禁ス
- 第十五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懐胎ナル時ハ其執行ヲ止メ分娩後一百日ヲ經ルニ非サレハ刑ヲ行ハス
- 第十六條 死刑ノ遺骸ハ親屬故舊請フ者アレハ之ヲ下付ス但式ヲ用ヒテ葬ルコトヲ許サス
- 第十七條 徒刑ハ無期有期ヲ分タス島地ニ發遣シ定役ニ服ス



有期徒刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

第十八條 徒刑ノ婦女ハ島地ニ發遣セス内地ノ懲役場ニ於テ定役ニ服ス

第十九條 徒刑ノ囚六十歳ニ滿ル者ハ通常ノ定役ヲ免シ其體力相當ノ定役ニ服ス

第二十條 流刑ハ無期有期ヲ分タス島地ノ獄ニ幽閉シ定役ニ服セス

有期徒刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

第二十一條 無期流刑ノ囚五年ヲ經過スレハ行政ノ處分ヲ以テ幽閉ヲ免シ島地ニ於テ地ヲ限り居住セシムルコトヲ得

有期徒刑ノ囚三年ヲ經過スル者亦同シ

第二十二條 懲役ハ内地ノ懲役場ニ入レ定役ニ服ス但六十歳ニ滿ル者ハ第十九條ノ依ニ從フ

重懲役ハ九年以上十一年以下輕懲役ハ六年以上八年以下ト爲ス

第二十三條 禁獄ハ内地ノ獄ニ入レ定役ニ服セス

重禁獄ハ九年以上十一年以下輕禁獄ハ六年以上八年以下ト爲ス

第二十四條 禁錮ハ禁錮場ニ留置シ重禁錮ハ定役ニ服シ輕禁錮ハ定役ニ服セス

禁錮ハ重輕ヲ分タス十一日以上五年以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス

第二十五條 定役ニ服スル囚人ノ工錢ハ監獄ノ規則ニ從ヒ其幾分ヲ獄舎ノ費用ニ供シ其幾分ヲ囚人ニ給與ス但現役百口以内ハ給與ノ限ニ在ラス

第二十六條 罰金ハ二圓以上ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス

第二十七條 罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ完納セシム若シ限内完納セサルモノハ一圓ヲ一日ニ折算シ之ヲ輕禁錮ニ換フ其一圓ニ滿サル者ト雖モ仍ホ一日ニ折算ス

罰金ヲ禁錮ニ換フル者ハ更ニ裁判ヲ用ヒス檢察官ノ求ニ因リ裁判官之ヲ命ス但禁錮ノ期限ハ二年ニ過クルコトヲ得ス

若シ禁錮限内罰金ヲ納メタル時ハ其輕過シタル日數ヲ扣除シテ禁錮ヲ免ス親屬其他ノ者代テ罰金ヲ納メタル時亦同シ

第二十八條 拘留ハ拘留所ニ留置シ定役ニ服セス其刑期ハ一日以上十日以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス

第二十九條 科料ハ五錢以上一圓九十五錢以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス

第三十條 科料ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ完納セシム若シ限内完納セサル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ之ヲ拘留ニ換フ

第三節 附加刑處分

第三十一條 剝奪公權ハ左ノ權ヲ剝奪ス

一 國民ノ特權

二 官吏ト爲ルノ權



三 勳章年金位記貴號恩給ヲ有スルノ權

四 外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權

五 兵籍ニ入ルノ權

六 裁判所ニ於テ證人ト爲ルノ權但單ニ事實ヲ陳述スルハ此限ニ在ラス

七 後見人ト爲ルノ權但親屬ノ許可ヲ得テ子孫ノ爲メニスルハ此限ニ在ラス

八 分散者ノ管財人ト爲リ又ハ會社及ヒ共有財産ヲ管理スルノ權

九 學校長及ヒ教師學監ト爲ルノ權

第三十二條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス終身公權ヲ剝奪ス

第三十三條 禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス現任ノ官職ヲ失ヒ及ヒ其刑期間公權ヲ行フコトヲ停止ス

トヲ停止ス

第三十四條 輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ付シタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス監視ノ期間間公權ヲ行フコトヲ停止ス

止ス

主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル者亦同シ

第三十五條 (民法施行法第十四條ヲ以テ削除)

第三十六條 (同上)

第三十七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス各本刑ノ短期三分ノ一二等シキ時間監視

ニ付ス

第三十八條 輕罪ノ刑ニ附加スル監視ハ之ヲ宣告ス但各本條ニ記載スルノ外監視ニ付スルコトヲ得ス

第二十九條 死刑及無期刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス五年間監視ニ付ス

第四十條 監視ノ期限ハ主刑ノ終リタル日ヨリ起算ス主刑ノ期滿免除ヲ得タルトキハ其捕ニ就キタル日ヨリ起算ス

若シ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル時ハ其裁判確定ノ日ヨリ起算ス

第四十一條 監視ニ付セラレタル者ハ其情狀ニ因リ行政ノ處分ヲ以テ假ニ監視ヲ免スルコトヲ得

第四十二條 附加ノ罰金ハ之ヲ宣告ス若シ一月内ニ完納セサルトキハ第二十七條ノ例ニ照シ輕禁錮ニ

換ヘ主刑滿限ノ後之ヲ執行ス

第四十三條 左ニ記載シタル物件ハ宣告シテ官ニ沒收ス但法律規則ニ於テ別ニ沒收ノ例ヲ定メタルモノハ各其法律規則ニ從フ

一 法律ニ於テ禁制シタル物件

二 犯罪ノ用ニ供シタル物件

三 犯罪ニ因テ得タル物件

第四十四條 法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收ス犯罪ノ用ニ供シ及犯罪ニ因テ得タル物件ハ犯人所有ニ係リ又ハ所有主ナキ時ノ外之ヲ沒收スルコトヲ得ス



第四節 徵償處分

第四十五條 刑事ノ裁判費用ハ其全部又ハ幾分ヲ犯人ニ科ス但其費用ノ額ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム  
第四十六條 犯人刑ニ處セラレ又ハ放免セラルト雖被害者ノ請求ニ對シ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ免  
カルルコトヲ得ス

第四十七條 數人共犯ニ係ル裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ共犯人ヲシテ之ヲ連帶セシム

第四十八條 裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ被害者ノ請求ニ因リ刑事裁判所ニ於テ之ヲ審判スルコ  
トヲ得若シ贓物犯人ノ手ニ在ル時ハ請求ナシト雖直チニ之ヲ被害者ニ還付ス

第五節 刑期計算

第四十九條 刑期ヲ計算スルニ一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年  
ト稱スルハ曆ニ從フ

受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス一日ニ算入シ放免ノ日ハ刑期ニ算入セス

第五十條 刑ハ裁判確定シタル後ニ非サレハ之ヲ執行スルコトヲ得ス

第五十一條 刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算ス若シ上訴ヲ爲シタル者ハ左ノ例ニ從フ

一 犯人自ラ上訴シテ其上訴正當ナル時ハ前判宣告ノ日ヨリ起算ス若シ其上訴不當ナル時ハ後判宣  
告ノ日ヨリ起算ス

二 檢察官ノ上訴ニ係ル者ハ其上訴正當ナルト否トヲ分タス前判宣告ノ日ヨリ起算ス

三 上訴中保釋ヲ得又ハ責付セラレタル者ハ其日數ヲ刑期ニ算入スルコトヲ得ス

第五十二條 刑期限内逃走シ再ヒ捕ニ就キタル者ハ其逃走ノ日數ヲ除キ前後受刑ノ日ヲ計算ス

第六節 假出獄

第五十三條 重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者獄則ヲ謹守シ悔改ノ狀アル時ハ其刑期四分ノ三ヲ經過ス  
ルノ後行政ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコトヲ得

無期徒刑ノ囚ハ十五年ヲ經過スルノ後亦同シ

流刑ノ囚ハ第二十一條ニ照シ幽閉ヲ免スルノ外假出獄ノ例ヲ用ヒス

第五十四條 徒刑ノ囚ハ假出獄ヲ許サルト雖仍ホ島地ニ居留セシム

第五十五條 假出獄ヲ許サレタル者ハ本刑期限内特別ニ定メタル監視ニ付ス(民法施行法第十四條ヲ  
以テ本條中削除)

第五十六條 假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入ス  
ルコトヲ得ス

第五十七條 刑期限内更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ假出獄ヲ許サス

第七節 期滿免除

第五十八條 刑ノ執行ヲ遁レタル者法律ニ定メタル期限ヲ經過スルニ因テ期滿免除ヲ得

第五十九條 主刑ハ左ノ年限ニ從テ期滿免除ヲ得



- 一 死刑ハ三十年
- 二 無期徒刑ハ二十五年
- 三 有期徒刑ハ二十年
- 四 重懲役重禁獄ハ十五年
- 五 輕懲役輕禁獄ハ十年
- 六 禁錮罰金ハ七年
- 七 拘留科料ハ一年

第六十條 剝奪公權停止公權及ヒ監視ハ期滿免除ヲ得ス  
 附加ノ罰金ハ主刑ト共ニ期滿免除ヲ得

沒收ハ五年ヲ經テ期滿免除ヲ得但禁制物ハ期滿免除ノ限ニ在ラス

第六十一條 期滿免除ハ刑ノ執行ヲ遁レタル日ヨリ起算ス若シ捕ニ就キ再ヒ逃走シタル時ハ其逃走ノ日ヨリ起算シ闕席裁判ニ係ル時ハ其宣告ノ日ヨリ起算ス

第六十二條 刑ノ執行ヲ遁レタル者ニ對シ逮捕ヲ命シタル時ハ最終ノ令狀ヲ出シタル日ヨリ期滿免除ヲ起算ス

第八節 復權

第六十三條 公權ヲ剝奪セラレタル者ハ主刑ノ終リタル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後其情狀ニ因リ將來

ノ公權ヲ復スルコトヲ得

主刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ監視ニ付シタル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後亦同シ

第六十四條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ直チニ復權ヲ得特赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ赦狀中記載スルニ非サレハ復權ヲ得ス

赦ニ因テ復權ヲ得タル者ハ自ラ監視ヲ免シタル者トス

第六十五條 復權ハ勅裁ニ非サレハ之ヲ得可カラス

第三章 加減例

第六十六條 法律ニ於テ刑ヲ加重減刑スヘキ時ハ後ノ數條ニ記載シタル例ニ照シテ加減ス但加ヘテ死刑ニ入ルコトヲ得ス

第六十七條 重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

- 一 死刑
- 二 無期徒刑
- 三 有期徒刑
- 四 重懲役
- 五 輕懲役

第六十八條 國事ニ關スル重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス



- 一 死刑
- 二 無期流刑
- 三 有期流刑
- 四 重禁獄
- 五 輕禁獄

第六十九條 輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス  
輕禁獄ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

第七十條 禁錮罰金ニ該ル者減輕ス可キ時ハ各本條ニ記載シタル刑期金額ノ四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲シ其加重ス可キ時ハ亦四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一等ト爲ス  
輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルコトヲ得ス但禁錮ハ加ヘテ七年ニ至ルコトヲ得

第七十一條 禁錮ヲ減盡シタル時ハ拘留ニ處シ罰金ヲ減盡シタル時ハ科料ニ處ス禁錮罰金ヲ減シテ其短期十日以下寡數一圓九十五錢以下ニ及フ時ハ亦拘留科料ニ處スルコトヲ得

第七十二條 拘留科料ニ該ル者加減ス可キ時ハ禁錮罰金ノ例ニ照シ其四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲ス

違警罪ノ刑ハ加ヘテ輕罪ニ入ルコトヲ得ス但拘留ハ加ヘテ十二日ニ至ルコトヲ得減シテ一日以下ニ降スコトヲ得ス科料ハ加ヘテ二圓四十錢ニ至ルコトヲ得減シテ五錢以下ニ降スコトヲ得ス

第七十三條 禁錮拘留ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿サル者ハ之ヲ除棄ス  
第七十四條 附加ノ罰金ハ主刑ニ從テ加減シ其金額ノ四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲ス若シ減盡シタル時ハ止テ主刑ヲ科ス

第四章 不論罪及ヒ減輕

第一節 不論罪及ヒ宥恕減輕

第七十五條 抗拒ス可カラサル強制ニ遇ヒ其意ニ非サルノ所爲ハ其罪ヲ論セス

天災又ハ意外ノ變ニ因リ避ク可カラサル危難ニ遇ヒ自己若ハ親屬ノ身體ヲ防衛スルニ出タル所爲亦同シ

第七十六條 本屬長官ノ命令ニ從ヒ其義務ヲ以テ爲シタル者ハ其罪ヲ論セス

第七十七條 罪ヲ犯ス意ナキノ所爲ハ其罪ヲ論セス但法律規則ニ於テ別ニ罪ヲ定メタル者ハ此限ニ在ラス

罪ト爲ル可キ事實ヲ知ラスシテ犯シタル者ハ其罪ヲ論セス

罪本重カル可クシテ犯ス時知ラサル者ハ其重キニ從テ論スルコトヲ得ス

法律規則ヲ知ラサルヲ以テ犯スノ意ナシト爲スコトヲ得ス

第七十八條 罪ヲ犯ス時知覺精神ノ喪失ニ因テ是非ヲ辨別セサル者ハ其罪ヲ論セス

第七十九條 罪ヲ犯ス時十二歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ論セス但滿八歳以上ノ者ハ情狀ニ因リ十六歳ニ過



キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルコトヲ得

第八十條 罪ヲ犯ス時滿十二歳以上十六歳ニ滿サル者ハ其所爲是非ヲ辨別シタルト否トヲ審案シ辨別ナクシテ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス但情狀ニ因リ滿二十歳ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルコトヲ得

若シ辨別アリテ犯シタル時ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等ヲ減ス

第八十一條 罪ヲ犯ス時滿十六歳以上二十歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減ス

第八十二條 瘡啞者罪ヲ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス但情狀ニ因リ五年ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルコトヲ得

第八十三條 違警罪ハ滿十六歳以上二十歳ニ滿サル者ト雖モ其罪ヲ宥恕スルコトヲ得ス

滿十二歳以上十六歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減ス十二歳ニ滿サル者及ヒ瘡啞者ハ其罪ヲ論セス

第八十四條 此節ニ記載スルノ外特別ノ不論罪宥恕減輕ハ各本條ニ於テ之ヲ記載ス

第二節 自首減輕

第八十五條 罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ニ一等ヲ減ス但謀殺故殺ニ係ル者ハ自首減輕ノ限ニ在ラス

第八十六條 財産ニ對スル罪ヲ犯シタル者自首シテ其贓物ヲ還給シ損害ヲ賠償シタル時ハ自首減輕等ノ

外仍ホ本刑ニ二等ヲ減ス其全部ヲ還償セスト雖モ半數以上ヲ還償シタル時ハ一等ヲ減ス

第八十七條 財産ニ對スル罪ヲ犯シ被害者ニ首服シタル者ハ官ニ自首スルト同ク前二條ノ例ニ照シテ處斷ス

第八十八條 此節ニ記載スルノ外本條別ニ自首ノ例ヲ掲ケタル者ハ各其本條ニ從フ

第三節 酌量減輕

第八十九條 重罪輕罪違警罪ヲ分タス所犯情狀原諒ス可キ者ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スルコトヲ得

法律ニ於テ本刑ヲ加重シ又ハ減輕ス可キ者ト雖モ其酌量ス可キ時ハ仍ホ之ヲ減輕スルコトヲ得

第九十條 酌量減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第五章 再犯加重

第九十一條 先ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯重罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

第九十二條 先ニ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯輕罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

第九十三條 先ニ違警罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯違警罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ但一年内再ヒ其違警罪裁判所ノ管轄地内ニ於テ犯シタル時ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス

第九十四條 再犯加重ハ初犯ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ論スルコトヲ得ス

第九十五條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯スニ因リ刑ヲ宣告シタルトキハ先ツ其定役ニ服ス可キ者ヲ執行シ定役ニ服セサル者ヲ後ニス若シ初犯再犯共ニ定役ニ服スル刑ニ該ル時又ハ共ニ定役ニ服セサル刑ニ該



ル時ハ先ツ其重キ者ヲ執行ス

罰金科料ニ該ル者ハ順次ニ拘ラス各之ヲ徴收ス

第九十六條 陸海軍裁判所ニ於テ判決ヲ得タル者再ヒ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ初犯ノ罪常律ニ從ヒ處斷シタル者ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス

第九十七條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ再ヒ罪ヲ犯スト雖モ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス

第九十八條 三犯以上ノ者ト雖モ其加重ノ法ハ再犯ノ例ニ同シ

第六章 加減順序

第九十九條 犯罪ノ情狀ニ因リ總則ニ照シ同時ニ本刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ左ノ順序ニ從テ其刑名ヲ定ム但從犯及ヒ未遂犯罪ノ減等其他各本條ニ記載スル特別ノ加重減輕ハ其加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス

一 再犯加重

二 宥恕減輕

三 自首減輕

四 酌量減輕

第七章 數罪俱發

第一百條 重罪輕罪ヲ犯シ未タ判決ヲ經スニ罪以上俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從テ處斷ス

重罪ノ刑ハ刑期ノ長キ者ヲ以テ重ト爲シ刑期ノ等シキ者ハ定役アル者ヲ以テ重ト爲ス

輕罪ノ刑ハ其所犯情狀重キ者ニ從テ處斷ス

第一百一條 違警罪二罪以上俱ニ發シタル時ハ各其刑ヲ科ス若シ重罪又ハ輕罪ト俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從フ

第一百二條 一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ其輕ク若クハ等シキ者ハ之ヲ論セス其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算ス但前發ノ刑罰金科料ニ該リ已ニ納完シタル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ折算シテ後發ノ刑期ニ通算ス若シ前發ノ罪ヲ判決スル時未タ發セサル罪再犯ノ罪ト俱ニ發シタル者ハ其再犯ト比較シ一ノ重キニ從ヒ前發ノ刑ヲ通算セス

第一百三條 數罪俱ニ發シ一ノ重キニ從フ時ト雖モ其沒收及ヒ徵償ノ處分ハ各本法ニ從フ

第八章 數人共犯

第一節 正犯

第一百四條 二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科ス

第一百五條 人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ亦正犯ト爲ス

第一百六條 正犯ノ身分ニ因リ別ニ刑ヲ加重ス可キ時ハ他ノ正犯從犯及ヒ教唆者ニ及ホスコトヲ得ス

第一百七條 犯人ノ多數ニ因リ刑ヲ加重ス可キ時ハ教唆者ヲ算入シテ多數ト爲スコトヲ得ス

第一百八條 專ヲ指定シテ犯罪ヲ教唆スルニ當リ犯人教唆ニ乘シ其指定シタル以外ノ罪ヲ犯シ又ハ其現



ニ行フ所ノ方法教唆者ノ指定シタル所ト殊ナル時ハ左ノ例ニ照シテ教唆者ヲ處斷ス

- 一 所犯數唆シタル罪ヨリ重キ時ハ止タ其指定シタル罪ニ從テ刑ヲ科ス
- 二 所犯數唆シタル罪ヨリ輕キ時ハ現ニ行フ所ノ罪ニ從テ刑ヲ科ス

第二節 從犯

第九九條 重罪輕罪ヲ犯スコトヲ知テ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シ其他豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタルモノハ從犯ト爲シ正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス但正犯現ニ行フ所ノ罪從犯ノ知ル所ヨリ重キ時ハ止タ其知ル所ノ罪ニ照シ一等ヲ減ス

第一百條 身分ニ因リ刑ヲ加重スヘキ者從犯ト爲ル時ハ其重キニ從テ一等ヲ減ス

正犯ノ身分ニ因リ刑ヲ減免ス可キ時ト雖モ從犯ノ刑ハ其輕キニ從テ減免スルコトヲ得ス

第九章 未遂犯罪

第一百一條 罪ヲ犯サンコトヲ謀リ又ハ其豫備ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル者ハ本條別ニ刑名ヲ記載スルニ非サレハ其刑ヲ科セス

第一百二條 罪ヲ犯サンコトシテ已ニ其事ヲ行フト雖モ犯人以外ノ障礙若クハ升錯ニ因リ未タ遂ケサル時ハ已ニ遂ケタル者ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第一百三條 重罪ヲ犯サンコトシテ未タ遂ケサル者ハ前條ノ例ニ照シテ處斷ス

輕罪ヲ犯サンコトシテ未タ遂ケサル者ハ本條別ニ記載スルニ非サレハ前條ノ例ニ照シテ處斷スルコト

ヲ得ス

違警罪ヲ犯サンコトシテ未タ遂ケサル者ハ其罪ヲ論セス

第十章 親屬例

第一百四條 此刑法ニ於テ親屬ト稱スルハ左ニ記載シタル者ヲ云フ

- 一 祖父母父母夫妻
- 二 子孫及ヒ其配偶者
- 三 兄弟姊妹及ヒ其配偶者
- 四 兄弟姊妹ノ子乃ヒ其配偶者
- 五 父母ノ兄弟姊妹及ヒ其配偶者
- 六 父母ノ兄弟姊妹ノ子
- 七 配偶者ノ祖父母父母
- 八 配偶者ノ兄弟姊妹及ヒ其配偶者
- 九 配偶者ノ兄弟姊妹ノ子
- 十 配偶者ノ父母ノ兄弟姊妹

第一百五條 祖父母ト稱スルハ高曾祖父母外祖父母同シ父母ト稱スルハ繼父母嫡母同シ子孫ト稱スル

ハ庶子曾玄孫同シ兄弟姊妹ト稱スルハ異父異母ノ兄弟姊妹同シ



養子其養家ニ於ケル親屬ノ例ハ實子ニ同シ

第二編 公益ニ關スル重罪輕罪

第一章 皇室ニ對スル罪

第一百十六條 天皇、皇后、皇太子ニ對シ、危害ヲ加ヘ、又ハ加ヘントシタルモノハ死刑ニ處ス

第一百十七條 天皇、皇后、皇太子ニ對シ、不敬ノ所爲アルモノハ三月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ、二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

皇陵ニ對シ、不敬ノ所爲アルモノハ亦同シ

第一百十八條 皇族ニ對シ、危害ヲ加ヘタルモノハ死刑ニ處ス、其危害ヲ加ヘントシタルモノハ無期徒刑ニ處ス

第一百十九條 皇族ニ對シ、不敬ノ所爲アルモノハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ、十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第一百二十條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯シ、輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ附ス

第二章 國事ニ關スル罪

第一節 内亂ニ關スル罪

第一百二十一條 政府ヲ顛覆シ、又ハ邦土ヲ僭竊シ、其他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的ト爲シ、内亂ヲ起シタル者ハ左ノ區別ニ從ヒ處斷ス

一、首魁及教唆者ハ死刑ニ處ス

二、群集ノ指揮ヲ爲シ、其他樞要ノ職務ヲ爲シタル者ハ無期徒刑ニ處シ、其情輕キ者ハ有期徒刑ニ處ス

三、兵器、金穀ヲ資給シ、又諸般ノ職務ヲ爲シタルモノハ有期徒刑ニ處ス

四、教唆ニ乘シテ附和隨行シ、又ハ指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第一百二十二條 内亂ヲ起スノ目的ヲ以テ、兵器、彈藥、船舶、金穀、其他軍備ノ物品ヲ劫掠シタル者ハ已ニ内亂ヲ起シタル者ノ刑ニ同シ

第一百二十三條 政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ、人ヲ謀殺シタル者ハ兵ヲ擧グルニ至ラスト雖モ内亂ト同シク論シ、其教唆者及ヒ下手者ヲ死刑ニ處ス

第一百二十四條 前三條ノ罪ハ未遂犯罪ノ時ニ於テ乃チ本刑ヲ科ス

第一百二十五條 兵隊ヲ招募シ、又ハ兵器、金穀ヲ準備シ、其他内亂ノ豫備ヲ爲シタル者ハ第一百二十一條ノ例ニ照シ、各一等ヲ減ス

内亂ノ陰謀ヲ爲シ、未タ豫備ニ至ラサル者ハ各二等ヲ減ス

第一百二十六條 内亂ノ豫備、又ハ陰謀ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ヲ免シ、六月以上三年以下ノ監視ニ附ス

第一百二十七條 内亂ノ情ヲ知テ犯人ニ集會所ヲ給與シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス



第二百二十八條 内亂ニ乘シテ人ノ身體財産ニ對シ内亂ノ目的ニ關セサル重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ通常ノ刑ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第二節 外患ニ關スル罪

第二百二十九條 外國ニ與シテ本國ニ抗敵シ又ハ外國ト公戰中同盟國ニ抗敵シ其他本國ニ背反シテ敵兵ニ附屬シタルモノハ死刑ニ處ス

第二百三十條 交戰中敵兵ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若クハ本國及ヒ同盟國ノ都府城塞又ハ兵器彈藥船艦其他軍事ニ關スル土地家屋物件ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百三十一條 本國及同盟國ノ軍情機密ヲ敵國ニ漏泄シ若クハ兵隊屯集ノ要地又ハ道路ノ險夷ヲ敵國ニ通知シタル者ハ無期流刑ニ處ス

敵國ノ間諜ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若クハ之ヲ藏匿シタル者亦同シ

第二百三十二條 陸海軍ヨリ委任ヲ受ケ物品ヲ供給シ及ヒ工作ヲ爲ス者交戰ノ際敵國ニ通謀シ又ハ其賂遺ヲ收受シテ命令ニ違背シ軍備ノ缺乏ヲ致シタル時ハ有期流刑ニ處ス

第二百三十三條 外國ニ對シ私ニ戰端ヲ開キタル者ハ有期流刑ニ處ス其豫備ニ止ル者ハ一等又ハ二等ヲ減ス

第二百三十四條 外國交戰ノ際本國ニ於テ局外中立ヲ布告シタル時其布告ニ違背シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十五條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三章 靜謐ヲ害スル罪

第一節 兇徒聚衆ノ罪

第二百三十六條 兇徒多衆ヲ嘯聚シテ暴動ヲ謀リ官吏ノ説諭ヲ受クルト雖モ仍ホ解散セサル者首魁及ヒ教唆者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス附和隨行シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百二十七條 兇徒多衆ヲ嘯聚シテ官廳ニ喧鬧シ官吏ニ強迫シ又ハ村市ヲ騷擾シ其他暴動ヲ爲シタル者首魁及教唆者ハ重懲役ニ處ス其嘯聚ニ應シ煽動シテ勢ヲ助ケタル者ハ輕懲役ニ處シ其情輕キ者ハ一等ヲ減ス附加隨行シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百二十八條 暴動ノ際人ヲ殺死シ若クハ家屋船舶倉庫等ヲ燒燬シタル時ハ現ニ手ヲ下シ及ヒ火ヲ放ツ者ヲ死刑ニ處ス

首魁及教唆者情ヲ知テ制セサル者亦同シ

第二節 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル者

第二百二十九條 官吏其職務ヲ以テ法律規則ヲ執行シ又ハ行政司法官署ノ命令ヲ執行スルニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其官吏ニ抗拒シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

暴行脅迫ヲ以テ其官吏ノ爲ス可カラザル事件ヲ行ハシメタル者亦同シ



第四百十條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ官吏ヲ毆傷シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

第四百十一條 官吏ノ職務ニ對シ其目前ニ於テ形容若クハ言語ヲ以テ侮辱シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
其目前ニ非スト雖モ刊行ノ文書圖書又ハ公然ノ演說ヲ以テ侮辱シタルモノ亦同シ

第三節 囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪

第四百十二條 已決ノ囚徒逃走シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス若シ獄舎獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シテ逃走シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第四百十三條 已決ノ囚徒逃走ノ罪ヲ犯スト雖モ再犯ヲ以テ論セス其刑期限内再ヒ逃走シタル者ハ再犯ヲ以テ論ス

第四百十四條 未決ノ囚徒入監中逃走シタル者ハ第四百十二條ノ例ニ同シ但原犯ノ罪ヲ判決スル時ニ於テ數罪俱發ノ例ニ照シテ處斷ス

第四百十五條 囚徒三人以上通謀シテ逃走シタル時ハ第四百十二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第四百十六條 囚徒ヲ逃走セシムル爲メ兇器其他ノ器具ヲ給與シ又ハ逃走ノ方法ヲ指示シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス因テ囚徒ノ逃走ヲ致シタル時ハ一等ヲ加フ

第四百十七條 囚徒ヲ劫奪シ又ハ暴行脅迫ヲ以テ囚徒ノ逃走ヲ助ケタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ輕懲役ニ處ス

第四百十八條 囚徒ヲ看守シ又ハ護送スル者囚徒ヲ逃走セシメタル時ハ亦前條ノ例ニ同シ

第四百十九條 前數條ニ記載シタル輕罪ヲ犯ントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第四百五十條 看守又ハ護送者其懈怠ニ因リ囚徒ノ逃走ヲ覺ラサル時ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百一十一條 犯罪人又ハ逃走ノ囚徒及ヒ監視ニ附セラレタル者ナルコトヲ知テ之ヲ藏匿シ若クハ隠避セシメタル者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ一等ヲ加フ

第四百一十二條 他人ノ罪ヲ免カレシメンコトヲ圖リ其罪證ト爲ル可キ物件ヲ隱蔽シタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百一十三條 前二條ノ罪ヲ犯シタル者犯人ノ親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

第四節 附加刑ノ執行ヲ遁ルル罪

第四百一十四條 公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタル者私ニ其權ヲ行ヒタル時ハ一月以上一年



以下ノ重禁錮ニ處シ、二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス。

第一百五十五條 監視ニ付セラレタル者其規則ニ違背シタル時ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス。

第一百五十六條 前二條ノ罪ハ其刑期限内再ヒ犯シタル時ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス。

第五節 私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪

第一百五十七條 官命ヲ受ケス又ハ官許ヲ得スシテ陸海軍ノ用ニ供スル銃砲彈藥其他破裂質ノ物品ヲ製造シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ、二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス、其之ヲ輸入シタル者亦同シ。

前項ノ物品ヲ私ニ販賣シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ、十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス。

第一百五十八條 前條ノ罪ヲ犯スト雖モ職工又ハ雇人ニシテ止タ正犯ノ使令ニ供シタル者ハ各本刑ニ照シ、二等ヲ減ス。

第一百五十九條 前二條ノ罪ヲ犯ントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス。

第一百六十條 第一百五十七條ニ記載シタル物品ヲ私ニ所有シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス。

第一百六十一條 第一百五十七條ニ記載シタル物品ノ製造ニ供シタル器械ニシテ單ニ其用ニ供スヘキ者ハ何人ハ所有ヲ問ハズ之ヲ沒收ス。

第六節 往來通信ヲ妨害スル罪

第一百六十二條 道路橋梁河溝港埠ヲ損壞シテ往來ヲ妨害シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ、二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス。

第一百六十三條 偽計又ハ威力ヲ以テ郵便ヲ妨害シ若クハ之ヲ阻止シタル者ハ亦前條ニ同シ。

第一百六十四條 電信ノ器械柱木ヲ損壞シ又ハ條線ヲ切斷シテ電氣ヲ不通ニ致シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ、五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス。

若シ器械柱木條線ヲ損壞シテ電信ノ妨害ヲ爲スト雖モ不通ニ至ラザル時ハ一等ヲ減ス。

第一百六十五條 汽車ノ往來ヲ妨害スル爲メ鐵道及ヒ其標識ヲ損壞シ其他危險ナル障礙ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス。

第一百六十六條 船舶ノ往來ヲ妨害スル爲メ燈臺浮標其他航海ノ安寧ヲ保護スル標識ヲ損壞シ又ハ詐僞ノ標識ヲ點示シタル者ハ亦前條ニ同シ。

第一百六十七條 前數條ニ記載シタル罪其事務ニ關スル官吏及ヒ雇人職工自ラ犯シタル時ハ各本條ニ照シテ一等ヲ加フ。

第一百六十八條 第一百六十二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ殺傷シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ、重ニ從テ處斷ス。

第一百六十九條 第一百六十五條、第一百六十六條ノ罪ヲ犯シ、因テ汽車ヲ顛覆シ又ハ船舶ヲ覆没シタル時ハ無



期、徒刑ニ處シ人ヲ死ニ致シタル時ハ死刑ニ處ス

第七十條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ來タ、遂サケル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第七節 人ノ住所ヲ侵ス罪

第七十一條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入りタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ左ニ記載シタル所爲アルトキハ一等ヲ加フ

- 一、門戶牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キテ入タル時
- 二、兇器其他犯罪ノ用ニ供スヘキ物品ヲ携帯シテ入りタル時
- 三、暴行ヲ爲シテ入りタル時
- 四、二人以上ニテ入りタル時

第七十二條 夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入りタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ前條ニ記載シタル加重スヘキ所爲アル時ハ一等ヲ加フ

第七十三條 故ナク皇居禁苑離宮行在所及ヒ皇陵内ニ入りタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第八節 官ノ封印ヲ破棄スル罪

第七十四條 官署ノ處分ニ因リ特別ニ家屋倉庫其他ノ物件ニ施シタル封印ヲ破棄シタル者ハ二月以

上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ看守者自ヲ犯シタル時ハ一等ヲ加フ

第七十五條 官ノ封印ヲ破棄シテ其物件ヲ盜取シ又ハ毀壞シタル者ハ盜罪及ヒ毀壞ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第七十六條 看守者其懈怠ニ因リ封印ヲ破棄シ又ハ其物件ヲ盜取毀壞スル犯人アルコトヲ覺ラサル時ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九節 公務ヲ行フヲ拒ム罪

第七十七條 陸海軍ノ將校タル者出兵ヲ要求スル權アル官署ヨリ其要求ヲ受ケ故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七十八條 陸海軍ノ徵兵ニ編入セラル可キ者身體ヲ毀傷シテ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ以テ免役ヲ圖リタル時ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ他人ニ屬託シ其姓名ヲ詐稱シ代テ徵募ニ應セシメタル者亦同シ其屬託ヲ受ケテ徵募ニ應シタル者ハ第二百三十一條ノ例ニ照シテ處斷ス

第七十九條 醫師化學家其他職業ニ因リ官署ヨリ解剖分析又ハ鑑定ヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十條 裁判所ヨリ證人トシテ證據ヲ陳述スルコトヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル



時亦前條ニ同シ

第百八十一條 傳染病流行ノ際又ハ傳染病ノ疑アル船舶入港スルニ當リ醫師其病患ヲ検査シ又ハ消滅ノ方法ヲ陳述スルヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

獸類傳染病流行ノ際獸醫此條ノ罪ヲ犯シタル時ハ一等ヲ減ス

第四章 信用ヲ害スル罪

第一節 貨幣ヲ偽造スル罪

第百八十二條 內國通用ノ金銀貨及紙幣ヲ偽造シテ行使シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第百八十三條 內國ニ於テ通用スル外國ノ金銀貨ヲ偽造シテ行使シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第百八十四條 官許ヲ得テ發行スル銀行ノ紙幣ヲ偽造シ若クハ變造シテ行使シタル者ハ内外國ノ區別ニ從ヒ前二條ノ例ニ照シテ處斷ス

第百八十五條 內國通用ノ銅貨ヲ偽造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第百八十六條 前數條ニ記載シタル貨幣ノ偽造變造已ニ成テ未タ行使セサル者ハ各本刑ニ照シ一等ヲ減シ其未タ成ラサル者ハ二等ヲ減ス

若シ偽造ノ器械ヲ豫備シテ未タ着手セサル者ハ各三等ヲ減ス

第百八十七條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ雇ヲ受ケタル職工ハ前數條ニ記載シタル犯人ノ受ク可キ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

若シ職工ノ補助ヲ爲シテ雜役ニ供シタル者ハ職工ノ刑ニ照シ一等又ハ二等ヲ減ス

第百八十八條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者ハ偽造變造ノ各本刑ニ照シ二等ヲ減ス

第百八十九條 偽造變造ノ貨幣ヲ內國ニ輸入シタル者ハ偽造變造ノ刑ニ同シ

第百九十條 偽造變造ノ情ヲ知テ其貨幣ヲ收受シ之ヲ行使シタル者ハ偽造變造シテ行使シタル者ハ刑ニ照シ各二等ヲ減ス

其未タ行使セサル者ハ各三等ヲ減ス

第百九十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第百九十二條 貨幣ヲ偽造變造シ及ヒ輸入收受シタル者未タ行使セサル前ニ於テ官ニ自首シタル時ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス

若シ職工雜役及ヒ房屋ヲ給與シタル者未タ行使セサル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

第百九十三條 貨幣ヲ收受スルノ後ニ於テ偽造又ハ變造ナルコトヲ知り之ヲ行使シタル者ハ其價格ニ



倍ノ罰金ニ處ス但其罰金ハ二圓以下ニ降スコトヲ得ス

第二節 官印ヲ偽造スル罪

第九十四條 御璽國璽ヲ偽造シ又ハ偽璽ヲ使用シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第九十五條 各官署ノ印ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ重懲役ニ處ス

第九十六條 產物商品等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ輕懲役ニ處ス

書籍什物等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ一年以上三年以下ノ重懲役ニ處ス

第九十七條 御璽國璽官印記號印章ノ影蹟ヲ盜用シタルモノハ前數條ニ記載シタル偽造ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

第九十八條 官ヨリ發行スル各種ノ印紙界紙及ヒ郵便切手ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重懲役ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十九條 已ニ貼用シタル各種ノ印紙及ヒ郵便切手ヲ再ヒ貼用シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

第二百一、一條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三節 官ノ文書ヲ偽造スル罪

第二百二、一條 詔書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第二百三、一條 官ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

其官ノ文書ヲ毀棄シタル者亦同シ

第二百四、一條 公債證書地券其他官吏ノ公證シタル文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

役ニ處ス

若シ無記名ノ公債證書ニ係ル時ハ二等ヲ加フ

第二百五、一條 官吏其管掌ニ係ル文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

其文書ヲ毀棄シタル者亦同シ

第二百六、一條 官ノ文書ヲ偽造スルニ因テ官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル者ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ重

キニ從テ處斷ス

第二百七、一條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ減輕ニ因テ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ

附ス



第四節 私印私書ヲ偽造スル罪

第二百八條 他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ他人ノ印影ヲ盜用シタル者ハ一等ヲ減ス

第二百九條 爲替手形其他裏書ヲ以テ賣買ス可キ證書若クハ金額ト交換ス可キ約定手形ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其手形證書ニ詐僞ノ裏書ヲ爲シテ行使シタル者亦同シ

第二百十條 賣買貸借贈遺交換其他權利義務ニ關スル證書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其餘ノ私書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百十一條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百十二條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第五節 免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル罪

第二百十三條 官ノ免狀又ハ鑑札ヲ偽造シテ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル時ハ偽造官印ノ各本條ニ照シテ處斷ス

第二百十四條 屬籍身分氏名ヲ詐稱シ其他詐僞ノ所爲ヲ以テ免狀鑑札ヲ受ケタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

官吏情ヲ知テ其免狀鑑札ヲ付與シタル者ハ一等ヲ加フ

第二百十五條 公務ヲ免ル可キ爲メ醫師ノ氏名ヲ用ヒ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル者ハ自己ノ爲ニシ他人ノ爲ニスルヲ分タス一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

醫師囑託ヲ受ケテ其詐僞ノ證書ヲ造リタル者ハ二等ヲ加フ

第二百十六條 陸海軍ノ徵兵ヲ免カル可キ爲メ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル者及ヒ囑託ヲ受ケテ其詐僞ノ證書ヲ造リタル醫師ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第二百十七條 免狀鑑札及ヒ疾病ノ證書ヲ増減變換シテ行使シタル者ハ亦偽造ノ刑ニ同シ

第六節 偽證ノ罪

第二百十八條 刑事ニ關スル證人トシテ裁判所ニ呼出サレタル者被告人ヲ曲庇スル爲メ事實ヲ掩蔽シテ偽證ヲ爲シタル時ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス

一、重罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

二、輕罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス



三、違警罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ違警罪ノ本條ニ因テ處斷ス

第二百十九條 偽證ノ爲メ被告人正當ノ刑ヲ免レタル時ハ偽證者ノ刑前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第二百二十條 被告人ヲ陷害スル爲メ偽證ヲ爲シタル者ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス

一、重罪ニ陷ラシムル爲メ偽證シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ

罰金ヲ附加ス

二、輕罪ニ陷ラシムル爲メ偽證シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ

罰金ヲ附加ス

三、違警罪ニ陷ラシムル爲メ偽證シタル者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ

罰金ヲ附加ス

第二百二十一條 偽證ノ爲メ被告人刑ニ處セラシタル後ニ於テ偽證ノ罪發覺シタル時ハ偽證者ヲ其刑

ニ反坐ス若シ反坐ノ刑前條ニ記載シタル偽證ノ刑ヨリ輕キ時ハ前條ノ例ニ照シテ處斷ス

其刑期限内ニ於テ偽證ノ罪發覺シタル時ハ現ニ經過シタル日數ニ照シテ反坐ノ刑期ヲ減スルコトヲ

得但減シテ前條偽證ノ刑ヨリ降スコトヲ得ス

第二百二十二條 偽證ノ爲メ被告人死刑ニ處セラレタル時ハ反坐ノ刑一等ヲ減ス其未タ死刑ヲ執行セ

サル前ニ於テ發覺シタル時ハ二等ヲ減ス

若シ被告人ヲ死ニ陷ルルノ目的ヲ以テ偽證ヲ爲シタル時ハ死刑ニ反坐ス其未タ刑ヲ執行セサル前ニ

於テ發覺シタル時ハ一等ヲ減ス

第二百二十三條 民事商事又ハ行政裁判ニ關シテ偽證ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處

シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百二十四條 鑑定又ハ通事ノ爲メ裁判所ニ呼出サレタル者詐僞ノ陳述ヲ爲シタル時ハ前數條ニ記

載シタル偽證ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百二十五條 賄賂其他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐僞ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者ハ亦

偽證ノ例ニ同シ

第二百二十六條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者其事件ノ裁判宣告ニ至ラサル前ニ於テ自首シタル

時ハ本刑ヲ免ス

第七節 度量衡ヲ偽造スル罪

第二百二十七條 度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シテ販賣シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓

以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但官ノ記號印章ヲ偽造又ハ盜用シタル者ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ

重キニ從テ處斷ス

第二百二十八條 偽造變造ノ情ヲ知テ其度量衡ヲ販賣シタル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ減ス

第二百二十九條 商賈農工定規ヲ増減シタル度量衡ヲ所有シタル時ハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處

シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス



若シ其度量衡ヲ使用シテ利ヲ得タル者ハ詐僞取財ヲ以テ論ス  
第二百三十條 人ノ囑託ヲ受ケテ度量衡ヲ僞造シ又ハ變造シタル者ハ其囑託シタル犯人ノ刑ニ照シテ各一等ヲ減ス

第八節 身分ヲ詐稱スル罪

第二百三十一條 官署ニ對シ文書又ハ言語ヲ以テ其屬籍身分氏名年齢職業ヲ詐稱シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス  
第二百三十二條 官職位階ヲ詐稱シ又ハ官ノ服飾徽章若クハ内外國ノ勳章ヲ借用シタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九節 公選ノ投票ヲ僞造スル罪

第二百三十三條 公選ノ投票ヲ僞造シ又ハ其數ヲ増減シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
第二百三十四條 賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメ又ハ賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
第二百三十五條 投票ヲ檢査シ及ヒ其數ヲ計算スル者其投票ヲ僞造シ又ハ増減シタル時ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
第二百三十六條 調書ヲ造リ投票ノ結局ヲ報告スル者其數ヲ増減シ其他詐僞ノ所爲アル時ハ一年以上

五年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五章 健康ヲ害スル罪

第一節 阿片烟ニ關スル罪

第二百三十七條 阿片煙ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル者ハ有期徒刑ニ處ス  
第二百三十八條 阿片煙ヲ吸食スルノ器具ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル者ハ輕懲役ニ處ス  
第二百三十九條 税關官吏情ヲ知テ阿片煙及ヒ其器具ヲ輸入セシメタル者ハ前二條ノ刑ニ照シ各一等ヲ加フ  
第二百四十條 阿片煙ヲ吸食スル爲メ屏屋ヲ給與シテ利ヲ圖ル者ハ輕懲役ニ處ス人ヲ引誘シテ阿片煙ヲ吸食セシメタル者亦同シ  
第二百四十一條 阿片煙ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス  
第二百四十二條 阿片烟及ヒ吸食ノ器具ヲ所有シ又ハ受寄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二節 飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪

第二百四十三條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能サルニ至ラシメタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
第二百四十四條 人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ用ヒテ水質ヲ變シ又ハ腐敗セシメタル者ハ一月以上一年



以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
第二百四十五條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪

第二百四十六條 傳染病豫防ノ爲メ設ケタル規則ニ違背シテ入港ノ船舶ヨリ上陸シ又ハ物品ヲ陸地ニ運搬シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス  
第二百四十七條 船長自ラ前條ノ罪ヲ犯シ又ハ人ノ犯スコトヲ知テ制セサル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ加フ  
第二百四十八條 傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ流行地方ヨリ他處ニ出タル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス  
第二百四十九條 獸類ノ傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ獸類ヲ他處ニ出シタル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四節 危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造ノ規則ニ關スル罪

第二百五十條 官許ヲ得スシテ危害ヲ生ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス  
若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス  
第二百五十一條 官許ヲ得テ前條ニ記載シタル製造所ヲ創設スト雖モ危害ヲ豫防シ健康ヲ保護スル規

則ニ違背シタル者ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

第二百五十二條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第五節 健康ヲ害スヘキ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪

第二百五十三條 人ノ健康ヲ害スヘキ物品ヲ飲食物ニ混和シテ販賣シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス  
第二百五十四條 規則ニ違背シテ毒藥劇藥ヲ販賣シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス  
第二百五十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第六節 私ニ醫業ヲ爲ス罪

第二百五十六條 官許ヲ得スシテ醫業ヲ爲シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス  
第二百五十七條 前條ノ犯人治療ノ方法ヲ誤リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第六章 風俗ヲ害スル罪

第二百五十八條 公然猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス  
第二百五十九條 風俗ヲ害スル冊子圖書其他猥褻ノ物品ヲ公然陳列シ又ハ販賣シタル者ハ四圓以上四



十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百六十條 賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招結シタル者ハ三月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十一條 財物ヲ賭シテ現ニ博奕ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者亦同シ但飲食物ヲ賭スル者ハ此限ニ在ラス賭博ノ器具財物其現場ニ在ル者ハ之ヲ沒收ス

第二百六十二條 財物ヲ醜集シ富籤ヲ以テ利益ヲ僥倖スルノ業ヲ興行シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十三條 神祠佛堂墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ所爲アル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ説教又ハ禮拜ヲ妨害シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七章 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪

第二百六十四條 埋葬ス可キ死屍ヲ毀棄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十五條 墳墓ヲ發掘シテ棺槨又ハ死屍ヲ見ハシタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ死屍ヲ毀棄シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十六條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯ントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第八章 商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪

第二百六十七條 偽計又ハ威力ヲ以テ穀類其他衆人ノ需用ニ缺ク可カラサル食用物ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ニ記載シタル以外ノ物品ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ一等ヲ減ス

第二百六十八條 偽計又ハ威力ヲ以テ糶賣又ハ入札ヲ妨害シタル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十九條 偽計又ハ威力ヲ以テ農工ノ業ヲ妨害シタル者ハ亦前條ニ同シ

第二百七十條 農工ノ雇人其雇賃ヲ増サシメ又ハ農工業ノ景況ヲ變セシムル爲メ雇主及ヒ他ノ雇人ニ對シ偽計威力ヲ以テ妨害ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十一條 雇主其雇賃ヲ減シ又ハ農工業ノ景況ヲ變スル爲メ雇人及ヒ他ノ雇主ニ對シ偽計威力ヲ以テ妨害ヲ爲シタル者亦前條ニ同シ

第二百七十二條 虛偽ノ風説ヲ流布シテ穀類其他衆人需用物品ノ價值ヲ昂低セシメタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス



第九章 官吏瀆職ノ罪

第一節 官吏公益ヲ害スル罪

第二百七十三條 官吏其管掌ニ係ル法律規則ヲ公布施行セス又ハ他ノ官吏ノ公布施行ヲ妨害シタル者ハ二月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十四條 兵隊ヲ要求シ及ヒ之ヲ使用スル權アル官吏地方ノ騷擾其他兵權ヲ以テ鎮撫ス可キ時ニ當リ其處分ヲ爲ササル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十五條 官吏規則ニ違背シテ商業ヲ爲シタル者ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二節 官吏人民ニ對スル罪

第二百七十六條 官吏擅ニ威權ヲ用ヒ人ヲシテ其權利ナキ事ヲ行ハシメ又ハ其爲ス可キ權利ヲ妨害シタル者ハ十一月以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十七條 人ノ身體財產ヲ妨害スルノ犯人アルニ當リ豫審判事檢察官吏其報告ヲ受ケテ速ニ保護ノ處分ヲ爲ササル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十八條 逮捕官吏法律ニ定メタル程式規則ヲ遵守セスシテ人ヲ逮捕シ又ハ不正ニ人ヲ監禁シタル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但監禁日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ

第二百七十九條 司獄官吏程式規則ヲ遵守セスシテ囚人ヲ出獄セシム可キノ時ニ至リ之ヲ放免セサル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第二百八十條 前二條ニ記載シタル官吏又ハ護送者囚人ニ對シ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス囚人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

第二百八十一條 水火震災ノ際官吏囚人ノ監禁ヲ解クコトヲ怠リ囚人死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加フ

第二百八十二條 裁判官檢察官及警察官吏被告人ニ對シ罪狀ヲ陳述セシムル爲メ暴行ヲ加ヘ又ハ凌虐ノ所爲アル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

囚人被告人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

第二百八十三條 裁判官檢察官故ナクシテ刑事ノ訴ヲ受理セス又ハ遷延シテ審理セサル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其民事ノ訴ニ係ル者亦同シ

第二百八十四條 官吏人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

囚人不正ノ處分ヲ爲シタル時ハ一等ヲ加フ



第二百八十五條 裁判官民事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ不正ノ裁判ヲ爲シタル時ハ一等ヲ加フ  
第二百八十六條 裁判官檢察官官吏刑事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ被告人ヲ曲庇シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ枉斷シタル所ノ刑此刑ヨリ重キ時ハ第二百二十一條第二百二十二條ノ例ニ照シテ反坐ス

第二百八十七條 裁判官檢察官官吏賄賂ヲ收受聽許セスト雖モ情ニ徇カヒ又ハ怨ヲ挾サミ被告人ヲ曲庇陷害シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第二百八十八條 前數條ニ記載シタル賄賂ヲ已ニ收受シタル者ハ之ヲ沒收シ費消シタル者ハ其價ヲ追徵ス

第三節 官吏財産ニ對スル罪

第二百八十九條 官吏自ラ監守スル金穀物件ヲ竊取シタル者ハ輕懲役ニ處ス

因テ官ノ文書簿冊ヲ増減變換シ又ハ毀棄シタル時ハ第二百五條ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百九十條 租稅其他諸般ノ入額ヲ徵收スル官吏正數外ノ金穀ヲ徵收シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百九十一條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三編 身體財産ニ對スル重罪輕罪

第一章 身體ニ對スル罪

第一節 謀殺故殺ノ罪

第二百九十二條 豫メ謀テ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ノ罪ト爲シ死刑ニ處ス

第二百九十三條 毒物ヲ施用シテ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ヲ以テ論シ死刑ニ處ス

第二百九十四條 故意ヲ以テ人ヲ殺シタル者ハ故殺ノ罪爲シ無期徒刑ニ處ス

第二百九十五條 支解折割其他慘刻ノ所爲ヲ以テ人ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百九十六條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免カラル爲メ人ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百九十七條 人ヲ殺スノ意ニ出テ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ死ニ致シタル者ハ故殺ヲ以テ論シ其豫メ謀ル者ハ謀殺ヲ以テ論ス

第二百九十八條 謀殺故殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺シタル者ハ仍ホ謀故殺ヲ以テ論ス

第二節 毆打創傷ノ罪

第二百九十九條 人ヲ毆打創傷シ因テ死ニ致シタル者ハ重懲役ニ處ス

第三百條 人ヲ毆打創傷シ其兩目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ又ハ兩肢ヲ折リ及ヒ舌ヲ斷チ陰陽ヲ毀敗シ若ク



ハ知覺精神ヲ喪失セシメ篤疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處ス  
其一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ又ハ一肢ヲ折リ其他身體ヲ殘廢シ癱疾ニ致シタル者ハ二年以上五年以下ハ  
重禁錮ニ處ス

第三百一條 人ヲ毆打創傷シ二十日以上ノ時間疾病ニ罹リ又ハ職業ヲ營ムコト能ハサルニ至ラシメタ  
ル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

其疾病休業ノ時間二十日ニ至ラサル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス疾病休業ニ至ラスト雖モ  
身體ニ創傷ヲ成シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百二條 豫メ謀テ人ヲ毆打創傷シ休業癱篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ前數條ニ記載シタル刑ニ照シ  
各一等ヲ加フ

第三百三條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免カルル爲メ人ヲ毆打創傷シタル  
者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第三百四條 毆打ニ因リ誤テ他人ヲ創傷シタル者ハ仍ホ毆打創傷ノ本刑ヲ科ス

第三百五條 二人以上共ニ人ヲ毆打創傷シタル者ハ現ニ手ヲ下シ傷ヲ成スノ輕重ニ從テ各自ニ其刑ヲ  
科ス若シ共毆シテ傷ヲ成スノ輕重ヲ知ルコト能ハサル時ハ其重傷ノ刑ニ照シ一等ヲ減ス但教唆者ハ  
減等ノ限ニ在ラス

第三百六條 二人以上共ニ人ヲ毆打スルニ當リ自ラ人ヲ傷セスト雖モ幫助シテ傷ヲ成サシメタル者ハ

現ニ傷ヲ成シタル者ノ刑ニ一等ヲ減ス

第三百七條 健康ヲ害ス可キ物品ヲ施用シテ人ヲ疾苦セシメタル者ハ豫メ謀テ毆打創傷スルノ例ニ照  
シテ處斷ス

第三百八條 人ヲ殺スノ意ニ非スト雖モ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ因テ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創  
傷ヲ以テ論ス

第三節 殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪

第三百九條 自己ノ身體ニ暴行ヲ受クルニ因リ直チニ怒ヲ發シ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス  
但不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラス

第三百十條 毆打シテ互ニ創傷シ其手ヲ下スノ先後ヲ知ルコト能ハサル者ハ各其罪ヲ宥恕スルコトヲ得

第三百十一條 本夫其妻ノ姦通ヲ覺知シ姦所ニ於テ直チニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕  
ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ此限ニ在ラス

第三百十二條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戶牆壁ヲ踰越損壞セントスル者ヲ防止  
スル爲メ之ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス

第三百十三條 前數條ニ記載シタル宥恕ス可キ罪ハ各本刑ニ照シ二等又ハ三等ヲ減ス

第三百十四條 身體生命ヲ正當ニ防衛シ已ムコトヲ得サルニ出テ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ自己ノ爲ニ  
シ他人ノ爲ニスルヲ分タス其罪ヲ論セス但不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラス



第二百十五條 左ノ諸件ニ於テ已ムコトヲ得サルニ出テ人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ論セス

一 財産ニ對シ放火其他暴行ヲ爲ス者ヲ防止スルニ出テタル時

二 盜犯ヲ防止シ又ハ盜賊ヲ取還スルニ出テタル時

三 夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戶牆壁ヲ踰越損壞スル者ヲ防止スルニ出タル時

第二百十六條 身體財産ヲ防衛スルニ出ルト雖モ已ムコトヲ得サルニ非スシテ害ヲ暴行人ニ加ヘタル時

危言已ニ去リタル後ニ於テ勢ニ乘シ仍ホ害ヲ暴行人ニ加ヘタル者ハ不論罪ノ限ニ在ラス但情狀ニ因

リ第二百十三條ノ例ニ照シ其罪ヲ宥恐スルコトヲ得

第四節 過失殺傷ノ罪

第二百十七條 疏忽懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セス過失ニ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ二十圓以上二百圓

以下ノ罰金ニ處ス

第二百十八條 過失ニ因テ人ヲ創傷シ疾病休業ニ至ラシメタル者ハ二十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五節 自殺ニ關スル罪

第二百二十條 人ヲ教唆シテ自殺セシメ又ハ囑託ヲ受ケテ自殺人ノ爲メニ手ヲ下シタル者ハ六月以上

三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其他自殺ノ補助ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス

第二百二十一條 自己ノ利ヲ圖リ人ヲ教唆シテ自殺セシメタル者ハ重懲役ニ處ス

第六節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪

第二百二十二條 擅ニ人ヲ逮捕シ又ハ私家ニ監禁シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓

以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但監禁日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ

第二百二十三條 擅ニ人ヲ監禁制縛シテ毆打拷責シ又ハ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施シタル

者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百二十四條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從

テ處斷ス

第二百二十五條 擅ニ人ヲ監禁シ水火震災ノ際其監禁ヲ解クコトヲ怠リ因テ死傷ニ致シタル者モ亦前

條ノ例ニ同シ

第七節 脅迫ノ罪

第二百二十六條 人ヲ殺サント脅迫シ又ハ人ノ住居シタル家屋ニ放火セント脅迫シタル者ハ一月以上

六月以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

毆打創傷其他暴行ヲ加ント脅迫シ又ハ財産ニ放火シ及ヒ毀壞劫掠セント脅迫シタル者ハ十一日以上

二月以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百二十七條 兇器ヲ持シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

第二百二十八條 親屬ニ害ヲ加フ可キ事ヲ以テ脅迫シタル者ハ亦前二條ノ例ニ同シ



第三百二十九條 此節ニ記載シタル罪ハ脅迫ヲ受ケタル者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第八節 墮胎ノ罪

第三百三十條 懷胎ノ婦女藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス  
第三百三十一條 藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎セシメタル者亦前條ニ同シ因テ婦女ヲ死ニ致シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十二條 醫師穩婆又ハ藥商前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

第三百二十三條 懷胎ノ婦女ヲ威逼シ又ハ誑騙シテ墮胎セシメタル者ハ一年以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十四條 懷胎ノ婦女ナルコトヲ知テ毆打其他暴行ヲ加ヘ因テ墮胎ニ至ラシメタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス其墮胎セシムルノ意ニ出タル者ハ輕懲役ニ處ス

第三百三十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ廢篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第九節 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪

第三百三十六條 八歳ニ滿サル幼者ヲ遺棄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス  
自ラ生活スル能ハサル老者疾病者ヲ遺棄シタル者亦同シ

第三百三十七條 八歳ニ滿サル幼者又ハ老疾者ヲ寥爾無人ノ地ニ遺棄シタル者ハ四月以上四年以下ノ

重禁錮ニ處ス

第三百三十八條 給料ヲ得テ人ノ寄託ヲ受ケ保養ス可キ者前二條ノ罪ヲ犯シタル時ハ各一等ヲ加フ

第三百三十九條 幼者老疾者ヲ遺棄シ因テ癡疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ重懲役ニ處シ死ニ至シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

第三百四十條 自己ノ所有地又ハ看守ス可キ地内ニ遺棄セラレタル幼者老疾者アルコトヲ知テ之ヲ扶助セス又ハ官署ニ申告セサル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス  
若シ疾病ニ罹リ昏倒スル者アルコトヲ知テ扶助セス又ハ申告セサル者亦同シ

第十節 幼者ヲ略取誘拐スル罪

第三百四十一條 十二歳ニ滿サル幼者ヲ略取シ又ハ誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十二條 十二歳以上二十歳ニ滿サル幼者ヲ略取シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十三條 略取誘拐シタル幼者ナルコトヲ知テ自己ノ家屬僕婢トナシ又ハ其他ノ名稱ヲ以テ之ヲ收受シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

第三百四十四條 前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但略取誘拐セラ



レタル幼者式ニ從テ婚姻ヲ爲シタル時ハ告訴ノ効ナシ  
第三百四十五條 二十歳ニ滿サル幼者ヲ略取誘拐シテ外國人ニ交付シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第十一節 猥褻姦淫重婚ノ罪

第三百四十六條 十二歳ニ滿サル男女ノ對シ猥褻ノ所行ヲ爲シ又ハ十二歳以上ノ男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ重懲役ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十七條 十二歳ニ滿サル男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ重懲役ニ處シ四十圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十八條 十二歳以上ノ婦女ヲ強姦シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第三百四十九條 十二歳ニ滿サル幼者ヲ姦淫シタル者ハ輕懲役ニ處ス若シ強姦シタル者ハ重懲役ニ處ス

第三百五十條 前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第三百五十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス但強姦ニ因テ癩篤疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第三百五十二條 十六歳ニ滿サル男女ノ淫行ヲ勸誘シテ媒合シタル者ハ一月以上六月以下ノ重懲役ニ處シ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百五十三條 有夫ノ婦姦通シタル者ハ六月以上二年以下ノ重懲役ニ處ス其相姦スル者亦同シ

此條ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但本夫先ニ姦通テ縱容シタル者ハ告訴ノ効ナシ

第三百五十四條 配偶者アル者重テ婚姻ヲ爲シタル時ハ六月以上二年以下ノ重懲役ニ處シ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十二節 誣告及ヒ誹毀ノ罪

第三百五十五條 不實ノ事ヲ以テ人ヲ誣告シタル者ハ第二百二十條ニ記載シタル偽證ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百五十六條 誣告ヲ爲スト雖モ被告人ノ推問ヲ始メサル前ニ於テ誣告者自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

第三百五十七條 誣告ニ因テ被告人刑ニ處セラレタル時ハ第二百二十一條第二百二十二條ニ記載シタル例ニ照シテ處斷ス

第三百五十八條 惡事醜行ヲ摘發シテ人ヲ誹毀シタル者ハ事實ノ有無ヲ問ハス左ノ條ニ照シテ處斷ス  
一、公然ノ演說ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ十一日以上三月以下ノ重懲役ニ處シ三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス



二、書類圖畫ヲ公布シ又ハ雜劇偶像ヲ作爲シテ人ヲ誹毀シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百五十九條 死者ヲ誹毀シタル者ハ誣罔ニ出タルニ非サレハ前條ノ例ニ照シテ處斷スルコトヲ得ス

第三百六十條 醫師藥商穩婆又ハ代言人辯護人代書人若クハ神官僧侶其身分職業ニ於テ委託ヲ受ケタル事ニ因リ知得タル陰私ヲ漏告シタル者ハ誹毀ヲ以テ論シ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但裁判所ノ呼出ヲ受ケテ事實ヲ陳述スル者ハ此限ニ在ラス

第三百六十一條 此節ニ記載シタル誹毀ノ罪ハ被害者又ハ死者ノ親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第十二節 祖父母父母ニ對スル罪

第三百六十二條 子孫其祖父母父母ヲ謀殺故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

其自殺ニ關スル罪ハ凡人ノ刑ニ照シ二等ヲ加フ

第三百六十三條 子孫其祖父母父母ニ對シ毆打創傷ノ罪其他監禁脅迫遺棄誣告誹毀ノ罪ヲ犯シタル者ハ各本條ニ記載シタル凡人ノ刑ニ照シ二等ヲ加フ但癱疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス

第三百六十四條 子孫其祖父母父母ニ對シ衣食ヲ供給セス其他必要ナル奉養ヲ缺キタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第三百六十五條 祖父母父母ニ對シタル殺傷ノ罪ハ特別ノ宥恕及ヒ不論罪ノ例ヲ用フルコトヲ得ス但其犯ス時知ラサル者ハ此限ニ在ラス

第二章 財産ニ對スル罪

第一節 竊盜ノ罪

第三百六十六條 人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百六十七條 水火震災其他ノ變ニ乘シテ竊盜ヲ犯シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百六十八條 門戶牆壁ヲ踰越損壞シ若クハ鎖鑰ヲ開キ邸宅倉庫ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ亦前條ニ同シ

第三百六十九條 二人以上共ニ前三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

第三百七十條 兇器ヲ携帯シテ人ノ住居シタル邸宅ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第三百七十一條 自己ノ所有物ト雖モ典物トシテ他人ニ交付シ又ハ官署ノ命令ニ因リ他人ノ看守シタル時之ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論ス

第三百七十二條 田野ニ於テ穀類菜菓其他ノ產物ヲ竊取シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百七十三條 山林ニ於テ竹木礦物其他ノ產物ヲ竊取シ又ハ川澤池沼湖海ニ於テ人ノ生養シ若クハ營業ニ關スル產物ヲ竊取シタル者ハ亦前條ニ同シ



第三百七十四條 牧場ニ於テ、牧畜ノ獸類ヲ竊取シタル者ハ、二月以上、二年以下ノ重禁錮ニ處ス。

第三百七十五條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ、未ダ遂ケサル者ハ、未遂犯ノ例ニ照シテ處斷ス。

第三百七十六條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ、輕罪ノ刑ニ處スル者ハ、六月以上、二年以下ノ監視ニ付ス。

第三百七十七條 祖父母、父母、夫妻、孫及ヒ其配偶者又ハ同居ノ兄弟姊妹互ニ其財物ヲ竊取シタル者ハ、竊盜ヲ以テ論スルノ限ニ在ラス。

若シ他人共ニ犯シテ財物ヲ分チタル者ハ、竊盜ヲ以テ論ス。

第二節 強盜ノ罪

第三百七十八條 人ヲ脅迫シ又ハ暴行ヲ加ヘテ財物ヲ強取シタル者ハ、強盜ノ罪ト爲シ、輕懲役ニ處ス。

第三百七十九條 強盜左ニ記載シタル情狀アル者ハ、一個毎ニ一等ヲ加フ。

一、二人以上共ニ犯シタル時。

二、兇器ヲ携帯シテ犯シタル時。

第三百八十條 強盜人ヲ傷シタル者ハ、無期徒刑ニ處シ、死ニ致シタル者ハ、死刑ニ處ス。

第三百八十一條 強盜婦女ヲ強姦シタル者ハ、無期徒刑ニ處ス。

第三百八十二條 竊盜財ヲ得テ其取還ヲ拒ク爲メ臨時暴行脅迫ヲ爲シタル者ハ、強盜ヲ以テ論ス。

第三百八十三條 藥酒等ヲ用ヒ人ヲ醉迷セシメ其財物ヲ盜取シタル者ハ、強盜ヲ以テ論シ、輕懲役ニ處ス。

第三百八十四條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ、減輕ニ因テ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ、六月以上、二年以下ノ監視ニ付ス。

第三節 遺失物埋藏物ニ關スル罪

第三百八十五條 遺失及ヒ漂流ノ物品ヲ拾得テ、隱匿シ所有主ニ還付セス又ハ官署ニ申告セサル者ハ、十日以上、三月以下ノ重禁錮ニ處シ、又ハ二圓以上、二十圓以下ノ罰金ニ處ス。

第三百八十六條 他人ノ所有地内ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘得テ、隱匿シタル者ハ、亦前條ニ同シ。

第三百八十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者、第三百七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係ル時ハ、其罪ヲ論セス。

第四節 家資分散ニ關スル罪

第三百八十八條 家資分散ノ際、其財産ヲ藏匿、脱漏シ、又ハ虛偽ノ負債ヲ增加シタル者ハ、二月以上、四年以下ノ重禁錮ニ處ス。

情ヲ知テ、虛偽ノ契約ヲ承諾シ、若クハ其媒介ヲ爲シタル者ハ、一等ヲ減ス。

第三百八十九條 家資分散ノ際、牒簿ノ類ヲ藏匿、毀棄シ、若クハ分散決定ノ後、債主中ノ一人又ハ數人ニ其負債ヲ私償シテ、他ノ債主ヲ害シタル者ハ、一月以上、二年以下ノ重禁錮ニ處ス。

第五節 詐欺取財ノ罪及ヒ委寄財物ニ關スル罪

第三百九十條 人ヲ欺罔シ、又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ、詐欺取財ノ罪ト爲シ、二



月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ、四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス、

固テ官私ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ、偽造ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス、

第三百九十一條 幼者ノ知慮淺薄又ハ人ノ精神錯亂シタルニ乘シテ其財物若クハ證書類ヲ授與セシメタル者ハ、詐欺取財ヲ以テ論ス、

第三百九十二條 物件ヲ販賣シ又ハ交換スルニ當リ其物質ヲ變シ若クハ分量ヲ偽テ人ニ交付シタル者ハ、詐欺取財ヲ以テ論ス、

第三百九十三條 他人ノ動産不動産ヲ冒認シテ販賣交換シ又ハ抵當典物ト爲シタル者ハ、詐欺取財ヲ以テ論ス、

自己ノ不動産ト雖モ已ニ抵當典物ト爲シタルヲ欺隱シテ他人ニ賣與シ又ハ重子テ抵當典物ト爲シタル者亦同シ、

第三百九十四條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ、六月以上二年以下ノ監視ニ附ス、

第三百九十五條 受寄ノ財物借用物又ハ典物其他委託ヲ受ケタル金額物件ヲ費消シタル者ハ、一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス、若シ騙取拐帶其他詐欺ノ所爲アル者ハ、詐欺取財ヲ以テ論ス、

第三百九十六條 自己ノ所有ニ係ルト雖モ官署ヨリ差押ヘタル物件ヲ藏匿脱漏シタル者ハ、一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス、但家資分散ノ際此罪ヲ犯シタル者ハ、第三百八十八條ノ例ニ照シテ所斷ス、

第三百九十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ、未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス、

第三百九十八條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者、第三百七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係ル時ハ、其罪ヲ論セズ、

第六節 贓物ニ關スル罪

第三百九十九條 強窃盜ノ贓物ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ、一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ、三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス、

第四百條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ、六月以上二年以下ノ監視ニ付ス、

第四百一條 詐欺取財其他ノ犯罪ニ關シタル物件ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ、十一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ、二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス、

第七節 放火失火ノ罪

第四百二條 火ヲ放テ人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬シタル者ハ、死刑ニ處ス、

第四百三條 火ヲ放テ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ燒燬シタル者ハ、無期徒刑ニ處ス、

第四百四條 火ヲ放テ廢屋及ヒ柴草肥料等ヲ貯フル屋舎ヲ燒燬シタル者ハ、重懲役ニ處ス、

第四百五條 火ヲ放テ人ヲ乘載シタル船舶汽車ヲ燒燬シタル者ハ、死刑ニ處ス、

其人ヲ乘載セサル船舶汽車ニ係ル時ハ、重懲役ニ處ス、

第四百六條 火ヲ放テ山林ノ竹木田野ノ穀麥又ハ露積シタル柴草竹木其他ノ物件ヲ燒燬シタル者ハ、輕懲役ニ處ス、



第四百七條 火ヲ放テ自己ノ家屋ヲ燒燬シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第四百八條 放火ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第四百九條 火ヲ失シテ人ノ家屋財產ヲ燒燬シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百十條 火藥其他激發ス可キ物品又ハ煤氣井蒸氣罐ヲ破裂セシメテ人ノ家屋財產ヲ毀壞シタル者ハ其故意ニ出ルト過失トチ分子放火失火ノ例ニ照シテ處斷ス

第八節 洪水ノ罪

第四百十一條 堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞シテ人ノ住居シタル家屋ヲ漂失シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

若シ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ漂失シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四百十二條 堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シテ田圃礦坑牧場等ヲ荒廢シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第四百十三條 他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ヲ圖ル爲メ堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シ其他水利ヲ妨害シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百十四條 過失ニ因テ水害ヲ起シタル者ハ失火ノ例ニ照シテ處斷ス

第九節 船舶ヲ覆沒スル罪

第四百十五條 衝突其他ノ所爲ヲ以テ人ヲ乘載シタル船舶ヲ覆沒シタル者ハ死刑ニ處ス但船中死亡ナキ時ハ無期徒刑ニ處ス

第四百十六條 前條ノ所爲ヲ以テ人ヲ乘載セサル船舶ヲ覆沒シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

第四百十七條 人ノ家屋其他ノ建造物ヲ毀壞シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第四百十八條 人ノ家屋ニ屬スル牆壁及ヒ園池ノ裝飾又ハ田圃ノ樊圍牧場ノ柵欄ヲ毀壞シタル者ハ十日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百十九條 人ノ稼穡竹木其他需用ノ植物ヲ毀損シタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百二十條 土地ノ經界ヲ表シタル物件ヲ毀壞シ又ハ移轉シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百二十一條 人ノ器物ヲ毀壞シタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百二十二條 人ノ牛馬ヲ殺シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百二十三條 前條ニ記載シタル以外ノ家畜ヲ殺シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス但被



害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第四百二十四條 人ノ權利義務ニ關スル證書類ヲ毀棄滅盡シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四編 違警罪

第四百二十五條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

- 一、規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破裂ス可キ物品ヲ市街ニ運搬シタル者
- 二、規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破裂ス可キ物品又ハ自ラ火ヲ發ス可キ物品ヲ貯藏シタル者
- 三、官許ヲ得スシテ烟火ヲ製造シ又ハ販賣シタル者
- 四、人家稠密ノ場所ニ於テ濫リニ烟火其他火器ヲ玩ヒタル者
- 五、蒸氣器械其他烟筒火竈ヲ建造修理シ及ヒ掃除スル規則ニ違背シタル者
- 六、官許ヲ得スシテ死屍ヲ解剖シタル者
- 八、自己ノ所有地内ニ死屍アルコトヲ知テ官署ニ申告セス又ハ他所ニ移シタル者
- 九、人ヲ毆打シテ創傷疾病ニ至ラサル者
- 十、密ニ竇注ヲ爲シ又ハ其媒合容止ヲ爲シタル者
- 十一、人ノ住居セサル家屋内ニ潜伏シタル者

十二、定リタル住居ナク平常營生ノ産業ナクシテ諸方ニ徘徊スル者

十三、官許ノ墓地外ニ於テ私ニ埋葬シタル者

十四、違警罪ノ犯人ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者但被告人偽證ノ爲メ刑ヲ免レタル時ハ第二百十九條ノ例ニ從フ

第四百二十六條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

- 一、人家ノ近接又ハ山林田野ニ於テ濫リニ火ヲ焚ク者
- 二、水火其他ノ變ニ際シ官吏ヨリ防禦ス可キノ求ヲ受ケ傍觀シテ之ヲ肯セサル者
- 三、不熟ノ菓物又ハ腐敗シタル飲食物ヲ販賣シタル者
- 四、健康ヲ保護スル爲メ設ケタル規則又ハ傳染病豫防規則ニ違背シタル者
- 五、人ノ通行ス可キ場所ニ在ル危險ノ井溝其他凹所ニ蓋又ハ防圍ヲ爲ササル者
- 六、路上ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ噬シ又ハ驚逸セシメタル者
- 七、發狂人ノ看守ヲ怠リ路上ニ徘徊セシメタル者
- 八、狂犬猛獸ノ繫鎖ヲ怠リ路上ニ放チタル者
- 九、變死人ノ檢視ヲ受ケスシテ埋葬シタル者
- 十、墓碑及ヒ路上ノ神佛ヲ毀損シ又ハ汚瀆シタル者



- 十一、 神祠佛堂其他公ノ建造物ヲ汚損シタル者
  - 十二、 公然人ヲ罵詈嘲弄シタル者但訴テ待テ其罪ヲ論ス
- 第四百二十七條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

- 一、 濫リニ馬車ヲ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 二、 制止ヲ肯セスシテ人ノ群集シタル場所ニ車馬ヲ牽キタル者
- 三、 夜中燈火ナクシテ車馬ヲ疾驅スル者
- 四、 木石等ヲ道路ニ推積シテ防圍ヲ設ケス又ハ標識ノ點燈ヲ怠リタル者
- 五、 瓦礫ヲ道路家屋圍圍ニ投擲シタル者
- 六、 禽獸ノ死屍ヲ道路ニ棄擲シ又ハ取除カサル者
- 七、 汚穢物ヲ道路家屋圍圍ニ投擲シタル者
- 八、 警察ノ規則ニ違背シテ工商ノ業ヲ爲シタル者
- 九、 醫師穩婆事故ナクシテ急病人ノ招キニ應セサル者
- 十、 死亡ノ申告ヲ爲サスシテ埋葬シタル者
- 十一、 流言浮説ヲ爲シテ人ヲ誑惑シタル者
- 十二、 妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱符呪等ヲ爲シ人ヲ惑ハシテ利ヲ謀ル者

- 十三、 私有地外へ濫リニ家屋欄壁ヲ設ケ又ハ軒楹ヲ出シタル者
  - 十四、 官許ヲ得スシテ路傍又ハ河岸ニ床店等ヲ開キタル者
  - 十五、 路上ノ植木市街ノ常燈及ヒ廁場等ヲ毀損シタル者
  - 十六、 道路橋梁其他ノ場所ニ榜示シタル通行禁止及ヒ指道標ノ類ヲ毀棄汚損シタル者
- 第四百二十八條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス
- 一、 官署ヨリ價額ヲ定メタル物品ヲ定價以上ニ販賣シタル者
  - 二、 渡船橋梁其他ノ場所ニ於テ定價以上ノ通行錢ヲ取り又ハ故ナク通行ヲ妨ケタル者
  - 三、 渡船橋梁其他ノ通行錢ヲ拂フ可キ場所ニ於テ其定價ヲ出サスシテ通行シタル者
  - 四、 路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲シタル者
  - 五、 官許ヲ得スシテ劇場其他觀物場ヲ開キ及ヒ其規則ニ違背シタル者
  - 六、 溝渠下水ヲ毀損シ又ハ官署ノ督促ヲ受ケテ溝渠下水ヲ浚ハサル者
  - 七、 制止ヲ肯セスシテ路傍ニ食物其他ノ商品ヲ羅列シタル者
  - 八、 官許ヲ得スシテ獸類ヲ官有地ニ放チ又ハ牧畜シタル者
  - 九、 身體ニ刺文ヲ爲シ及ヒ之ヲ業トスル者
  - 十、 他人ノ繫キタル牛馬其他ノ獸類ヲ解放シタル者
  - 十一、 他人ノ繫キタル舟筏ヲ解放シタル者



- 第四百二十九條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス
- 一、橋梁又ハ堤防ノ害ト爲ル可キ場所ニ舟筏ヲ繫キタル者
  - 二、牛馬諸車其他物件ヲ道路ニ横タヘ又ハ木石薪炭等ヲ堆積シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
  - 三、車馬ヲ並ヘ牽テ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
  - 四、水路ニ於テ舟ヲ並ヘ通船ノ妨害ヲ爲シタル者
  - 五、氷雪塵芥等ヲ路上ニ投棄シタル者
  - 六、官署ノ督促ヲ受ケテ道路ノ掃除ヲ爲ササル者
  - 七、制止ヲ背セスシテ路上ニ遊戯ヲ爲シ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
  - 八、牛馬ヲ牽キ又ハ繫クコトヲ忽カセニシテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
  - 九、出入ヲ禁止シタル場所ニ濫リニ出入シタル者
  - 十、通行禁止ノ榜示ヲ犯シテ通行シタル者
  - 十一、道路ニ於テ放歌高聲ヲ發シテ制止ヲ背セサル者
  - 十二、酩酊シテ路上ニ喧噪シ又ハ醉臥シタル者
  - 十三、路上ノ常燈ヲ消シタル者
  - 十四、人家ノ牆壁ニ貼紙及樂書シタル者
  - 十五、邸宅ノ番號標札招牌又ハ貸家賣家ノ貼紙其他廣告ノ榜標等ヲ毀損シタル者

- 十六、他人ノ田野園圃ニ於テ菜葉ヲ採食シ又ハ花卉ヲ採折シタル者
  - 十七、公園ノ規則ヲ犯シタル者
  - 十八、通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ牛馬ヲ牽入レタル者
- 第四百三十條 前數條ニ記載スルノ外各地方ノ便宜ニヨリ定ムル處ノ違警罪ヲ犯シタル者ハ其罰則ニ從テ處斷ス

〔参照〕

十四年第六十七號布告刑罰附則

●軍人制服着用夜中無燈乘馬ノ件

明治十五年四月  
太政官第二十二號達

軍人制服着用夜中無燈乘馬ノ件

刑法第四百二十七條第三項夜中燈火ナクシテ車馬ヲ疾驅スル者ト有之候處軍人制服ヲ着用乘馬シタル者ハ右ノ限ニ無之候條此旨相達候事

●憲兵犯罪處斷方

明治十五年十二月  
第七十三號布告

憲兵犯罪處斷方

憲兵卒其職務ニ關シ罪ヲ犯シタル者ハ官吏犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

憲兵犯罪處斷方



憲兵卒ノ職務ニ對シ罪ヲ犯シタル者ハ官吏ニ對スル犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

●陸軍上等卒犯罪處斷方

明治十五年八月  
司法省丁第四十一 達

陸軍上等卒犯罪處斷方

今般太政官ヨリ左ノ通御達有之候條此旨相達候事

明治十五年八月十五日太政官達

陸軍上等卒ニシテ刑法特ニ官吏ノ爲メニ定メタル罪ヲ犯シタル時ハ都テ官吏ニ準シ候儀ト可心得  
此旨相達候事

●公署公吏並公署ノ印文書及免狀鑑札ニ關スル件

明治二十三年十月  
法律第百號

公署公吏並公署ノ印文書及免狀鑑札ニ關スル件

刑法中官廳官署ニ關スル條項ハ公署ニ適用シ官吏ニ關スル條項ハ公吏ニ適用シ官ノ印文書及免狀鑑札ニ關スル條項ハ公署ノ印文書及免狀鑑札ニ適用ス

●命令ノ條項違犯ニ關スル件

明治二十三年九月  
法律第百八十四號

命令ノ條項違犯ニ關スル件

命令ノ條項ニ違犯スル者ハ各其ノ命令ノ規定スル所ニ從ヒ二百圓以内ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

●省令廳令府縣令警察令ノ罰則ニ關スル件

明治二十三年九月  
製令第百八號

省令廳令府縣令警察令ノ罰則ニ關スル件

第一條 各省大臣ハ法律ヲ以テ特ニ規定シタル場合ヲ除クノ外其ノ發スル所ノ省令ニ二十五圓以内ノ罰金若ハ二十五日以下ノ禁錮ノ罰則ヲ附スルコトヲ得  
第二條 地方長官及警視總監ハ其發スル所ノ命令ニ十圓以内ノ罰金若ハ拘留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

●諸罰例處斷方

明治十四年十二月  
第七十二號布告

明治十五年一月一日ヨリ刑法施行候ニ付法律規則中罰例ニ係ルモノハ左ノ例ニ照シテ處斷スヘシ

第一條 凡懲役ハ十一日以上ヲ重禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

第二條 凡禁獄及禁錮ハ十一日以上ヲ輕禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

第三條 凡罰金及科料ハ貳圓以上ヲ罰金ニ處シ貳圓未滿ヲ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四條 法ニ照シ律ニ照シ若ハ違令違式ニ照シ處斷ストアリ及ヒ咎可申付トアルハ總テ二圓以上百圓

以下ノ罰金ニ處ス

諸罰例處斷方



第五條 法律規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第六條 法律規則中罰例アリト雖モ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依テ處斷ス

第七條 (二十三年法律第六號ニ因リ消滅)

●議會並議員保護法

明治二十二年十一月  
法律第二十八號

第一條 法律ヲ以テ組織シタル議會ニ對シ公然誹謗侮辱シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ  
十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス但議會ノ告訴ヲ俟テ其罪ヲ論ス

第二條 前條議會ノ議員ニ對シ其公務上ノ言論行爲ニ付公然誹謗侮辱シタル者又ハ議員ニ暴行ヲ加ヘ  
タル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條 議員其公務ヲ行フニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其言論行爲ヲ妨害シタル者ハ四月以上四年以下ノ重  
禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四條 議員ノ職ヲ辭セシムルノ目的又ハ其公務上ノ言論行爲ヲ妨害セムトスル目的ヲ以テ議員ヲ脅  
迫シ又ハ恐喝シタルモノハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
但被害者ノ告訴ヲ俟テ其罪ヲ論ス

第五條 第二條第三條ノ罪ヲ犯シ因テ職員ヲ毆傷シタル者ハ刑法毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ  
重キニ從テ處斷ス

●富籤賣買等處分方

明治十五年五月  
第三十五號布告

富籤賣買等處分方

第一條 凡富籤賣買ノ牙保若クハ補助ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十  
圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條 凡富籤ヲ購買シタル者ハ其價ヲ拂ヒタルト未タ拂ハサルトナ問ハス二十日以上四月以下ノ重  
禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス他人ノ名ヲ借リテ購買シタル者及他人ヨリ讓受ケタ  
ル者亦同シ

第三條 第一條第二條ノ罪ヲ再犯シタル者ハ同條ニ定メタル刑期金額ノ二倍ニ處ス但初犯ニ科シタル  
刑期金額ニ下ルコトヲ得ス

第四條 富籤ニ關スル犯罪ヲ告發シタル者ニハ其徵スル所ノ罰金ノ半額ヲ給與ス

第五條 富籤ニ關スル犯罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ其罪ヲ免ス  
再犯ニ係ル者ハ自首スト雖其罪ヲ免セス

第六條 富籤ニ關スル犯罪ニ因テ得タル財物ハ之ヲ沒收ス  
自首ニ因テ罪ヲ免シタル者ト雖財物沒收ハ仍ホ前項ニ依ル

〔參照〕

富籤賣買等處分方



明治元年十二月ノ布告ニテ當行ヲ禁ス

決闘罪處分法

明治二十二年十二月 法律第三十四號

決闘罪處分法

- 第一條 決闘ヲ挑ミタル者又ハ其挑ニ應シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 第二條 決闘ヲ行ヒタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 第三條 決闘ニ依テ人ヲ殺傷シタル者ハ刑法ノ各本條ニ照シテ處斷ス
- 第四條 決闘ノ立會ヲ爲シ又ハ立會ヲ爲スコトヲ約シタル者ハ證人介添人等何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 第五條 決闘ノ場所ヲ貸與シ又ハ供用セシメタル者ハ罰前項ニ同シ
- 第六條 決闘ノ挑ニ應セサルノ故ヲ以テ人ヲ誹謗シタル者ハ刑法ニ照シ誹謗ノ罪ヲ以テ論ス
- 第六條 前數條ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ其重キモノハ重キニ從テ處斷ス

屋外竊盜處分法

明治二十三年十月 法律第九十九號

屋外竊盜處分法

- 第一條 家屋其ノ他ノ建造物外ニ於テ犯シタル竊盜ニシテ未タ遂ケサル者又ハ已ニ遂ケタルモ其贖額五圓ニ滿サル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處ス
- 第二條 田野山林川澤池沼湖海ニ於テ其產物ヲ竊取セントシ又ハ牧場ニ於テ其獸類ヲ竊取セントシテ未タ遂ケサル者又ハ已ニ竊取シタルモ其贖額五圓ニ滿サル者亦前條ニ同シ
- 第三條 前二條ニ記載シタル贖額ハ犯罪ノ地及ヒ其時ニ於ケル物價ニ依リ裁判所之ヲ定ム但贖物現存セサルトキハ其中等ノ價格ニ據ルヘシ

陸軍刑法

明治十四年十二月 第六十九號布告

陸軍刑法

第一編 總則

第一章 法例

- 第一條 此刑法ニ於テ罰ス可キ罪別テ二種ト爲ス
    - 一 重罪
    - 二 輕罪
  - 第二條 此刑法ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスコトヲ得ス
- 若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ス



第三條 軍人ト稱スルハ將官及ヒ同等官上長官士官下士諸卒ヲ謂フ

第四條 軍屬ト稱スルハ陸軍出仕ノ文官其他總ヘテ宣誓若クハ讀法ノ式ニ由リ陸軍ニ從事スル者ヲ謂フ

第五條 司令官ト稱スルハ一軍一團其他一部隊ト雖モ總テ其司令ニ任スル者ヲ謂フ

第六條 哨兵ト稱スルハ儀仗若クハ警戒ノ爲メ守地ニ在ル者ヲ云フ

第七條 上官ト稱スルハ官等ノ上ナル者ヲ云フ同等ト雖モ命令ヲ下ス可キ權ヲ有スル者其部下ニ於テハ上官ニ同シ上等卒及ヒ上等卒ノ職ヲ奉スル者其部下ニ於ル亦之ニ準ス

第八條 將校同等ノ軍人ハ總テ將校ニ同シ

第九條 軍屬及ヒ陸軍所屬ノ諸生徒ハ總テ軍人ニ同シ

第十條 親屬ト稱スルハ普通刑法第百十四條第百十五條ニ記載スル者ヲ謂フ

第十一條 豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ召集中ノ外此刑法ニ依テ處斷スルコトヲ得ス但此刑法ニ特例アル者ハ此限ニ在ラス

第十二條 第八十條第八十一條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第一項第九十五條第百五條第百十一條第百十二條第百十三條第百十四條第百十五條第百十六條ニ掲グル所ノ罪ヲ犯ス者ハ軍人ニ非スト雖モ此刑法ニ依テ處斷ス

第百六條第百七條第百十七條第百十八條第百十九條第百二十條ノ罪ヲ犯サシムル者ハ軍人ニ非スト

雖モ亦軍人ト同ク論ス

第十三條 敵前軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テ第五十三條第五十四條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條ニ掲グル所ノ罪ヲ犯ス者ハ軍人ニ非スト雖モ此刑法ニ依テ處斷ス但其豫備若クハ陰謀ニ止マル者ハ第六十二條第六十三條ニ照シテ處斷ス  
第十四條 此刑法ノ罪ヲ犯スニ依リ人ヲ殺傷スル者ハ普通刑法第三編第一章ニ照シ重キニ從テ處斷ス但此刑法ニ特例アル者ハ此限ニ在ラス

第二章 刑例

第十五條 刑ハ主刑及ヒ附加刑ト爲ス

主刑ハ之ヲ宣告ス

附加刑ハ此刑法ニ於テ其宣告スル者ト宣告セサル者トヲ定ム

第十六條 左ニ掲グル者ヲ以テ重罪ノ主刑ト爲ス

- 一 死刑
- 二 無期徒刑
- 三 有期徒刑
- 四 無期流刑
- 五 有期流刑



- 六 重懲役
- 七 輕懲役
- 八 重禁獄
- 九 輕禁獄

第十七條 左ニ掲グル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス

- 一 重禁錮
- 二 輕禁錮

第十八條 左ニ掲グル者ヲ以テ附加刑ト爲ス

- 一 剝奪公權
- 二 剝官
- 三 停止公權
- 四 (二十一年法律第十一號ヲ以テ削除)
- 五 監視
- 六 沒收

第十九條 陸軍法衙ニ於テ死刑ニ處スル者ハ皆之ヲ銃殺ス

第二十條 死刑ハ陸軍卿ノ命令アルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

軍中若クハ合圍ノ地ニ於テ特權ヲ有スル者アル時ハ其命令ヲ以テ之ヲ行フコトヲ得

第二十一條 徒刑ハ無期有期ヲ分タス島地ニ發遣シ定役ニ服ス

有期徒刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

第二十二條 流刑ハ無期有期ヲ分タス島地ノ獄ニ幽閉シ定役ニ服セス

有期徒刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

第二十三條 懲役ハ懲役場ニ入レ定役ニ服ス

重懲役ハ九年以上十一年以下輕懲役ハ六年以上八年以下ト爲ス

第二十四條 禁獄ハ獄ニ入レ定役ニ服セス

重禁獄ハ九年以上十一年以下輕禁獄ハ六年以上八年以下ト爲ス

第二十五條 禁錮ハ禁錮場ニ入レ重禁錮ハ定役ニ服シ輕禁錮ハ定役ニ服セス

禁錮ハ重輕ヲ分タス十一月以上五年以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス

第二十六條 普通刑法第十四條第十五條第十六條第十八條第十九條第二十一條第二十二條第二十五條

ニ記載スル所ノ主刑處分ノ例ハ此刑法ニ於テ之ヲ適用ス

第二十七條 陸軍法衙ニ於テ普通刑法ニ依リ罰金科料ニ處スル者限内納完セス禁錮拘留ニ換フル時ハ

更ニ裁判ヲ用ヒス理事ノ求メニ因リ裁判長之ヲ命ス

第二十八條 剝奪公權ハ普通刑法第三十一條ニ記載スル所ノ權ヲ剝奪ス



第二十九條 重罪ノ刑ニ處スル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス終身公權ヲ剝奪ス

第三十條 劊官ハ宣告シテ將校ノ官職ヲ褫奪ス

下士上等卒軍屬其他ノ官吏此刑法ノ罪ヲ犯シ將校ニ在テ劊官ヲ附加スル刑ニ該ル時ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其官職ヲ失フ

第三十一條 禁錮ニ處スル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其刑期間公權ヲ行フコトヲ停止ス

第三十二條 普通刑法第二十四條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十三條第

四十四條ニ記載スル所ノ附加刑處分ノ例ハ此刑法ニ於テ之ヲ適用ス(三十一年法律第十一號ヲ以テ改正)

第三十三條 下士上等卒ハ此刑法及ヒ普通刑法若クハ海軍刑法ニ依リ禁錮ニ處シ官職ヲ失フト雖モ兵役ヲ免セス其失フ所ノ官職ハ主刑終ルノ月ヨリ六月ヲ經過スルノ後行政ノ處分ヲ以テ之ヲ復スルコトヲ得

第三十四條 下士諸卒ハ此刑法及ヒ普通刑法海軍刑法ノ輕罪ヲ犯シ監視ニ付シ若クハ主刑ヲ免レテ止メ監視ニ付ス可キト雖モ監視ニ付セス

第三十五條 普通刑法第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條ニ記載スル所ノ刑期計算假出獄期滿免除復權ノ例ハ此刑法ニ於テ之ヲ適用ス

第三章 加減例

第三十六條 此刑法ニ於テ加重減輕ス可キ時ハ後ノ數條ニ掲グル所ノ例ニ照シテ加減ス但加ヘテ死刑ニ入ルコトヲ得ス

第三十七條 第八十七條第八十八條第八十九條第一百八條第一百十九條第二百十條第二百十一條ニ掲グル所ノ重罪ノ刑加減ス可キ時ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス(二十三年法律第十五號ヲ以テ改正)

- 一 死刑
- 二 無期徒刑
- 三 有期徒刑
- 四 重懲役
- 五 輕懲役

第三十八條 第二編第一章第二章第三章第四章第七章及ヒ第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十六條ニ掲グル所ノ重罪ノ刑加減ス可キ時ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス(同上)



四 重禁獄

第三十九條 輕懲役ニ該ル者輕減ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

輕禁獄ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

第四十條 重罪ノ刑ヲ減輕シテ禁錮ニ處スル時將校ハ劊官ヲ附加ス

第四十一條 禁錮ニ該ル者加重ス可キ時ハ其刑期四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一等ト爲ス其減輕ス可キ時亦四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲ス

禁錮ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルコトヲ得ス但加ヘテ七年ニ至リ減シテ十日以下ニ降スコトヲ得其減シ盡ス時ト雖モ仍ホ一日以上十日以下ノ禁錮ニ處ス

若シ減輕シテ十日以下ニ處スル時ハ重禁錮ト雖モ定役ニ服セス

第四十二條 禁錮ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿サル者ハ之ヲ除棄ス

第四十三條 劊官ハ其主刑ヲ減輕スル時ト雖モ仍ホ之ヲ附加ス但十日以下ノ禁錮ニ處スル時ハ此限ニ在ラス

第四十四條 普通刑法第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十五條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十四條第九十五條第九十七條第九十八條第九十九條ニ記載スル所ノ不諭罪減輕再犯加重加減順序ノ例ハ此刑法ニ於テ之ヲ適用ス但

此刑法ニ特例アル者ハ此限ニ在ラス

第四十五條 再犯加重ハ再ヒ此刑法ノ罪ヲ犯スニ非サレハ之ヲ論スルコトヲ得ス

第四章 數罪俱發

第四十六條 二罪以上俱ニ發スル時若クハ一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經餘罪後ニ發スル時ハ普通刑法第百條第百一條第百二條第百三條ニ記載スル所ノ數罪俱發ノ例ヲ適用ス但此刑法劊官ヲ附加セザル禁錮ト劊官ヲ附加スル禁錮及ヒ海軍刑法劊官ヲ附加スル禁錮若クハ普通刑法ノ禁錮ノ罪ト俱ニ發シ劊官ヲ附加セザル禁錮ニ處スル時ト雖モ將校ハ仍ホ劊官ヲ附加シ下士上等卒軍屬其他ノ官吏ハ別ニ宣告ヲ用ヒテ其官職ヲ失フ

第五章 數人共犯

第四十七條 軍人二人以上共ニ此刑法ノ罪ヲ犯ス時ハ普通刑法第百四條第百五條第百六條第百七條第百八條第百九條第百十條ニ記載スル所ノ數人共犯ノ例ヲ適用ス但第六十七條第七十七條第七十八條第八十一條第八十三條第八十四條第八十五條第百十九條第百二十五條ニ掲グル所ノ罪ヲ論スル時從犯ハ首魁ニ非サル正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス(同上)

第四十八條 軍人ト軍人ニ非サル者ト共犯ニ係ル時軍人ハ此刑法ニ依リ處斷スト雖モ軍人ニ非サル者ハ普通刑法ニ照シテ其罪ヲ論ス但第十二條第十三條ニ依リ此刑法ヲ以テ處斷ス可キ者ハ此限ニ在ラス



第六章 未遂犯罪

第四十九條 此刑法ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ普通刑法第百十一條第百十二條第百十三條ニ記載スル所ノ未遂犯罪ノ例ヲ適用ス

第二編 重罪輕罪

第一章 反亂

第五十條 軍人黨ヲ結ヒ擲ニ兵器ヲ執リ反亂ヲ爲ス者首魁教唆者及ヒ群衆ノ指揮ヲ爲シ若クハ樞要ノ職務ニ從事スル者ハ死刑ニ處ス其指揮ヲ爲シ樞要ノ職務ニ從事スト雖モ情狀輕キ者ハ無期流徒ニ處ス

諸般ノ職務ヲ司リ若クハ兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ資給スル者ハ有期流刑ニ處シ其情狀輕キ者ハ重禁獄ニ處ス

附和シテ其事ニ服行スル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第五十一條 軍人反亂ヲ爲スコトヲ謀リ兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ劫掠スル者ハ前條ノ刑ニ同シ

第五十二條 軍人前二條ノ罪ヲ犯スニ因リ故ヲニ鎮撫ノ官吏ヲ殺ス者ハ死刑ニ處ス

第五十三條 軍人敵ヲ利スル爲メ部下ノ兵隊若クハ軍事ニ關スル土地家屋船舶及ヒ兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ敵ニ付スル者ハ死刑ニ處ス

第五十四條 軍人敵ヲ利スル爲メ土地道路ノ要害險夷ヲ指示シ若クハ攻守ノ用ニ供ス可キ圖書及ヒ時

號記號ヲ開示シ若クハ秘密ヲ要スル兵器彈藥ノ製法其他軍機軍情ヲ漏洩スル者ハ死刑ニ處ス(二十年法律第三號ヲ以テ改正)

第五十四條 軍人敵圍ヲ受クルハ地ニ於テ其司令官ヲ要シ敵ニ下ラシメントシテ黨ヲ爲ス者ハ死刑ニ處ス

第五十六條 軍人敵前ニ在テ隊兵ノ潰走ヲ誘起シ若クハ其連絡集合ヲ妨害スル者ハ死刑ニ處ス

第五十七條 軍人敵ノ爲メニ兵ヲ募ル者ハ死刑ニ處ス

第五十八條 軍人敵ヲ利スル爲メ軍事ニ關スル家屋船舶及ヒ壘柵兵器彈藥其他軍需ノ物品若クハ戰鬥ノ用ニ供ス可キ道路橋梁森林瀛軍電線ヲ毀壞シ若クハ火ヲ放テ之ヲ燒燬スル者ハ死刑ニ處ス

第五十九條 軍人敵ヲ利スル爲メ兵器彈藥其他軍需物品ノ缺乏ヲ致ス者ハ死刑ニ處ス

第六十條 軍人敵ヲ利スル爲メ叫呼喧噪シ若クハ造言飛語ヲ爲ス者ハ死刑ニ處ス

第六十一條 軍人間諜ヲ誘導助成隱匿シ若クハ敵ヲ利スル爲メ俘虜降人ヲ逃走セシメ及ヒ劫奪スル者ハ死刑ニ處ス

敵ヲ利スル爲メ音信ヲ敵ニ通スル者亦同シ

第六十二條 軍人前數條ニ掲グル所ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者及ヒ其豫備ヲ爲ス者ハ各本條ニ照シ一等ヲ減ス

其陰謀ヲ爲シ未タ豫備ニ至ラサル者ハ二等ヲ減ス



第六十三條 軍人前數條ニ掲グル所ノ罪ヲ犯サントシテ其豫備若クハ陰謀ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ自首スル者ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第六十四條 軍人情ヲ知テ前數條ニ掲グル所ノ犯人集會ノ爲メ家屋ヲ貸ス者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第六十五條 軍人此章ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第二章 抗命

第六十六條 軍人命令ヲ下ス可キ權アル者ノ命令ニ抗シ若クハ服從セサル者敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其他ノ地ニ在テハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第六十七條 軍人二人以上共ニ前條ノ罪ヲ犯ス者敵前ニ在テハ皆死刑ニ處ス

軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ首魁ハ重禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其他ノ地ニ在テハ首魁ハ輕禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第六十八條 軍人暴行ヲ爲スニ當リ官之ヲ制止シ其命ニ從ハサル者ハ二月以上四年以下ノ輕禁錮ニ附加ス

處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第三章 擅權

第六十九條 司令官講和ノ告示若クハ停戰ノ命令ヲ受ケ仍ホ戰鬪ノ所爲ヲ止メサル者ハ死刑ニ處ス

第七十條 司令官命令ニ背キ若クハ權外ノ事ニ於テ已ムコトヲ得サルノ理由ナクシテ擅ニ兵隊ヲ進退スル者ハ死刑ニ處ス

第七十一條 司令官擅ニ人ヲ募リ部伍ニ充メ者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

第四章 辱職

第七十二條 要塞司令官若クハ要塞特命司令官其盡ス可キ處ヲ盡サスシテ敵ニ降リ若クハ所轄ノ地ヲ敵ニ付スル者ハ死刑ニ處ス

堡砦ノ地ニ於テ其司令官之ヲ犯ス者亦同シ

第七十三條 司令官野戰ノ時ニ在テ隊兵ヲ必ヒ敵ニ降ル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス若シ其盡ス可キ處ヲ盡サスシテ降ル者ハ死刑ニ處ス

第七十四條 將校敵前ニ在テ盡ス可キ處ヲ盡サスシテ遁走スル者ハ死刑ニ處ス

第七十五條 將校其部下ノ兵徒黨犯罪ノ事アルニ當リ鎮定ノ力ヲ盡ササル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

第五章 暴行



第七十六條 軍人上官ニ對シ暴行ヲ爲ス者ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第七十七條 軍人二人以上共ニ前條ノ罪ヲ犯ス者首魁ハ重禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第七十八條 軍人上官ノ公務ヲ行フニ當リ前二條ノ罪ヲ犯ス者ハ一等ヲ加フ

第七十九條 軍人上官ニ對シ兵器若クハ兇器ヲ用ヒ暴行ヲ爲ス者ハ死刑ニ處ス

上官ノ軍務ヲ行フニ當リ之ニ對シ暴行ヲ爲ス者亦同シ

第八十條 軍人哨兵ニ對シ暴行ヲ爲ス者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用ユル者ハ有期流刑ニ處ス

第八十一條 軍人二人以上共ニ前條ノ罪ヲ犯ス者首魁ハ重禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用フル者首魁ハ死刑ニ處シ其他ノ犯人ハ有期流刑ニ處ス

首魁自ラ兵器若クハ兇器ヲ用ヒスト雖モ指示シテ之ヲ用ヒシムル時ハ死刑ニ處ス

第八十二條 軍人同等若クハ下等ノ者軍務ヲ行フニ當リ之ニ對シ暴行ヲ爲ス者ハ三月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用フル者ハ重禁錮ニ處ス

第八十三條 軍人二人以上共ニ前條ノ罪ヲ犯ス者首魁ハ輕禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ三月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用フル者首魁ハ有期流刑ニ處シ其他ノ犯人ハ有期流刑ニ處ス

首魁自ラ兵器若クハ兇器ヲ用ヒスト雖モ指示シテ之ヲ用ヒシムル時ハ有期流刑ニ處ス

第八十四條 軍人多衆相集リ暴行ヲ爲ス者首魁ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第八十五條 軍人多衆結合シテ相鬪斃スル者首魁ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第八十六條 軍人俘虜降人ヲ劫奪シ若クハ暴行脅迫ヲ以テ其逃走ヲ助グル者ハ重禁錮ニ處ス

第八十七條 軍人戰場ニ於テ創傷人ノ衣服財物ヲ褫奪スル者ハ重懲役ニ處シ因テ殺傷スル者ハ死刑ニ處ス

第八十八條 軍人軍用ノ工廠船舶及ヒ軍需ノ物品ヲ貯藏スル倉庫若クハ現ニ戰鬪ノ用ニ供スル家屋壘柵橋梁瀛車電線ヲ毀壞スル者ハ重懲役ニ處シ火ヲ放テ之ヲ燒燬スル者ハ死刑ニ處ス

第八十九條 軍人敵前軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テ火ヲ放テ露積スル所ノ兵器彈藥軍糧陣營具被服燒燬スル者ハ死刑ニ處ス

其他ノ地ニ在テハ重懲役ニ處ス

第九十條 軍人兵器彈藥軍糧陣營具被服ヲ棄毀シ若クハ軍用ノ馬匹ヲ殺傷スル者ハ一月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス



其官給ニ係ル物品ヲ棄毀スル者ハ十一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第九十一條 軍人操練ノ際若クハ禮砲號砲ヲ發スル時瓦石等ヲ裝填シテ發射スル者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

哨兵衛兵安リニ銃砲ヲ發スル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

本條第一項ノ罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス(二十三年法律第十五號ヲ以テ改正)

第九十二條 軍人專權ヲ妄用シテ人ヲ監禁制縛シ其他凌虐ノ所爲アル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス(同上)

第六章 侮辱

第九十三條 軍人上官ヲ罵詈若クハ侮慢スル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス  
上官ノ公務ヲ行フ時ニ於テスル者ハ一等ヲ加フ

第九十四條 軍人文書圖畫ヲ流布シ若クハ多衆ヲ會シ演說ヲ爲シテ上官ヲ誹毀スル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第九十五條 軍人哨兵ヲ罵詈若クハ侮慢スル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第九十六條 軍人同等若クハ下等ノ者軍務ヲ行フニ當リ之ニ對シ罵詈若クハ侮慢スル者ハ十一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第七章 違令

第九十七條 軍人哨兵ニ對シ哨令ヲ犯ス者敵前ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ一年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其他ノ地ニ在テハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第九十八條 軍人擅ニ哨令ヲ變更シ若クハ之ニ違フ者敵前ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ一年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其他ノ地ニ在テハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第九十九條 哨兵擅ニ其守地ヲ離ルル者敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ一年以上三年以下ノ輕禁錮ニ處ス

其他ノ地ニ在テハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第一百條 哨兵睡眠若クハ酩酊シテ事ヲ省セサル者敵前ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス



ニ在テハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス  
其他ノ地ニ在テハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス  
長官之ヲ犯ス時ハ各一等ヲ加フ

第二百二條 軍人戰時軍中若クハ合圍ノ地ニ在テ急呼ノ號報アル時故ナク來會セサル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第二百三條 軍人戰時軍中若クハ合圍ノ地ニ在テ兵器彈藥軍糧ノ運搬支給ヲ掌リ故ナク其缺乏ヲ致ス者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第二百四條 司令官命令ニ從フヲ得サル時部署若クハ其命セラルル所ノ事ヲ變更シ直チニ之ヲ申報セサル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス  
其事變ニ因リ暗號記號ヲ改メ直チニ之ヲ申報セサル者亦同シ

第二百五條 軍人秘密ヲ要スル圖書兵器彈藥ノ製法其他軍事ニ關スル機密ヲ漏洩スル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス(二十一年法律第五號ヲ以テ改正)

第二百六條 軍人允許ヲ得テ他方ニ赴キ故ナク歸着ノ期ニ後レ十日ヲ過ル者ハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

戰時ニ在テ五日ヲ過ル者ハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第二百七條 徵兵故ナク徵集ノ期ニ後レ十日ヲ過ル者ハ十一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ戰時ニ在テ

五日ヲ過ル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者故ナク召集ノ期ニ後レ十日ヲ過ル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ戰時ニ在テ五日ヲ過ル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第二百八條 軍人前條ノ罪ヲ犯サシムル者ハ數人共犯ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百九條 軍人反亂ノ罪ヲ犯サントスル者アルヲ知テ申告セサル者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第二百十條 軍人政治ニ關スル事項ヲ上書建白シ又ハ講談論說シ若クハ文書ヲ以テ之ヲ廣告スル者ハ一月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第二百十一條 軍人敵前軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テ造言飛語ヲ爲ス者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第二百十二條 軍人俘虜降人ヲ逃走セシムル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス  
看守護送者之ヲ犯ス時ハ重禁獄ニ處ス

第二百十三條 軍人俘虜降人ヲ逃走セシムル爲メ兵器其他ノ器具ヲ給與シ若クハ逃走ノ方法ヲ指示スル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

看守護送者之ヲ犯ス時ハ輕禁獄ニ處ス  
百十四條 軍人前二條ニ掲グル所ノ輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷



第百十五條 軍人俘虜降人ヲ看守若クハ護送シ懈怠ニ因リ其逃走ヲ致ス者ハ十一日以上一月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第百十六條 軍人逃走ノ俘虜降人タルヲ知テ之ヲ藏匿シ若クハ隱避セシムル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス但犯人ノ親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

第八章 逃亡(二十三年法律第十五號ヲ以テ本軍中輕禁錮トアルヲ輕懲役ニ輕禁錮トアルヲ重禁錮ニ改ム)

第百十七條 軍人擅ニ職役若クハ屯營本隊ヲ離レ六日ヲ過ル者ハ逃亡ト爲シ二月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス新兵入營三月ニ滿サル者ハ一等ヲ減ス

戰時軍中若クハ合圍ノ地ニ在テ三日ヲ過クル者ハ逃亡ト爲シ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第百十八條 軍人敵前ニ在テ擅ニ職役若クハ屯營本隊ヲ離ルル者ハ逃亡ト爲シ輕懲役ニ處ス

第百十九條 軍人四人以上共ニ逃亡ノ罪ヲ犯ス者首魁ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス戰時軍中若クハ合圍ノ地ニ在テハ輕懲役ニ處シ敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

其他ノ犯人ハ第百十七條第百十八條ニ照シテ處斷ス

第百二十條 軍人敵ニ奔ル者ハ死刑ニ處ス

第九章 詐偽

第百二十一條 軍人糧食ノ支給ヲ掌リ健康ヲ害ス可キ食料飲料ヲ配付スル者ハ輕懲役ニ處シ因テ死ニ致ス者ハ有期徒刑ニ處ス

第百二十二條 軍人斥候偵察ノ命ヲ受ケ詐偽ノ報告ヲ爲シ若クハ傳令使命令ヲ詐リ傳フル者ハ五月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第百二十三條 陸軍警官其職務ヲ以テ疾病傷疾及ヒ身軀強弱ノ偽證ヲ爲ス者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

其屬托ヲ爲シタル軍人亦同シ

第百二十四條 軍人疾病ヲ作爲シ身軀ヲ毀傷シ兵役ヲ免ルルコトヲ圖ル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者戰時ニ於テ前項ノ所爲ヲ以テ召集ヲ免ルルコトヲ圖ル者亦同シ

第十章 結黨(二十三年法律第十五號ヲ以テ追加)

第百二十五條 軍人黨ヲ結ヒ軍事ニ關スル規則命令ノ施行ヲ妨ケ若クハ之ヲ妨ケント謀リ其他服従法ニ違フ者首魁ハ二年以下ノ輕禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第百二十六條 軍人前條ニ記載スル所爲ヲ首唱教唆シ未タ黨ヲ爲スニ至ラサルトキハ其首唱教唆者ノ刑ハ前條首魁ノ刑ニ一等若クハ二等ヲ減シ將校ハ剝官ヲ附加ス



# 海軍刑法

明治十四年十二月  
第七十號布告

## 海軍刑法

### 第一編 總則

#### 第一章 法例

第一條 此刑法ニ於テ罰ス可キ罪別テ二種ト爲ス

一 重罪

二 輕罪

第二條 此刑法ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスコトヲ得ス

若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ス

第三條 第八十二條第九十二條第九十三條第九十八條第九十九條第一百二條第一百四條第一百五條第一百六條

第一百七條第一百八條第一百二十七條第一百二十八條第一百二十九條第一百三十條第一百三十一條第一百三十二條ニ

記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ軍人ニ非スト雖モ此刑法ニ依テ處斷ス教唆若クハ幫助シテ第三百二十二

條第三百二十四條第三百三十五條ノ罪ヲ犯サシメタル者ハ軍人ト同シク論ス(二十一年法律第四號ヲ以

テ改正)

第四條 敵前軍中ニ在テ第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條

第六十七條第六十八條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ軍人ニ非スト雖モ此刑法ニ依テ處斷ス

但其豫備若クハ陰謀ニ止マル者ハ第六十九條第七十條ニ照シテ處斷ス

第五條 此刑法ノ罪ヲ犯スニ依リ人ヲ殺傷シタル者ハ普通刑法第三編第一章ニ照シ重キニ從テ處斷ス

但第五十九條第九十九條第一百二十七條ニ記載シタル者ハ此限ニ在ラス

### 第二章 刑例

#### 第一節 刑名

第六條 刑ハ主刑及ヒ附加刑ト爲ス

第七條 左ニ記載シタル者ヲ以テ重罪ノ主刑ト爲ス

一 死刑

二 無期徒刑

三 有期徒刑

四 無期流刑

五 有期流刑

六 重懲役

七 輕懲役

八 重禁獄



九 輕禁獄

第八條 左ニ記載シタル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス

一 重禁錮

二 輕禁錮

第九條 左ニ記載シタル者ヲ以テ附加刑ト爲ス

一 剝奪公權

二 剝官

三 停止公權

四 (二十一年法律第十一號ヲ以テ削除)

五 監視

六 沒收

第二節 主刑處分

第十條 主刑ハ之ヲ宣告ス

第十一條 死刑ハ銃ヲ以テ射殺ス普通刑法ニ從ヒ海軍法衙ニ於テ死刑ニ處スル者亦同シ

第十二條 海軍法衙ニ於テ死刑ニ處スル者ハ海軍卿ノ命令アルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス  
若シ臨時死刑ヲ行フ權ヲ付與セラレタル者アル時ハ其命令ヲ以テ之ヲ行フコトヲ得

第十三條 前二條ニ記載シタルノ外死刑ノ處分ハ普通刑法第十四條第十五條第十六條ノ例ニ同シ

第十四條 徒刑流刑懲役禁獄及ヒ禁錮ハ普通刑法第十七條第十八條第十九條第二十條第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條ノ例ニ同シ

第十五條 定役ニ服スル囚人ニ工錢ヲ分與スルノ法ハ普通刑法第二十五條ノ例ニ同シ但此刑法及普通刑法陸軍刑法ノ禁錮ニ處シ職役ヲ免セサル者ハ工錢ヲ與フルノ限ニ在ラス

第三節 附加刑處分

第十六條 附加刑ハ此刑法ニ於テ其宣告スル者ト宣告セサル者トヲ定ム

第十七條 剝奪公權ハ普通刑法第三十一條第三十二條ノ例ニ同シ

第十八條 剝官ハ將校ノ刑トシテ之ヲ宣告ス

軍屬其他ノ官吏剝官ヲ附加スル刑ニ該ルトキハ別ニ宣告ヲ用ヒス官職ヲ失フ

第十九條 將校重禁錮ニ處スル者ハ剝官ヲ附加ス輕禁錮ニ處スル者ハ各本條ニ記載シタルノ外之ヲ附加スルコトヲ得ス其剝官ヲ附加スル者ハ主刑ヲ減刑スル時ト雖モ仍ホ之ヲ附加ス

第二十條 普通刑法及陸軍刑法ニ從ヒ禁錮ニ處スル者ト雖モ下士卒ハ其職役ヲ免セス

第二十一條 禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其刑期間公權ヲ行フコトヲ停止ス

第二十二條 (同上ヲ以テ削除)

第二十三條 監視ハ普通刑法第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條ノ例ニ同シ



輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ付シタル者及ヒ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル者ハ普通刑法第三十四條ノ例ニ同シ

第二十四條 下士卒ハ此刑法及ヒ普通刑法陸軍刑法ノ輕罪ヲ犯シ監視ニ付シ若クハ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付ス可キ時ト雖モ監視ニ付セス

第二十五條 沒收ハ普通刑法第四十三條第四十四條ノ例ニ同シ

第四節 刑期計算

第二十六條 刑期計算ハ普通刑法第四十九條第五十條第五十一條第五十二條ノ例ニ同シ

第五節 假出獄

第二十七條 假出獄ハ普通刑法第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條ノ例ニ同シ

第六節 期滿免除

第二十八條 期滿免除ハ普通刑法第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條ノ例ニ同シ

第七節 復權

第二十九條 復權ハ普通刑法第六十三條第六十四條第六十五條ノ例ニ同シ

第三章 加減例

第三十條 此刑法ニ於テ刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ後ノ數條ニ記載シタル例ニ照シテ加減ス但加ヘテ死刑ニ入ルコトヲ得ス

第三十一條 第九十九條第四百條第五百條第六條第七條第二百二十三條第二百三十四條第二百三十五條

第三百三十七條ニ記載シタル重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス(二十八法律第十九條ヲ以テ改正

一 死刑

二 無期徒刑

三 有期徒刑

四 重懲役

五 輕懲役

第三十二條 前條ニ記載シタル各條ノ外重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一 死刑

二 無期徒刑

三 有期徒刑

四 重禁獄

五 輕禁獄

第三十三條 輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス  
輕禁獄ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

第三十四條 禁錮ニ該ル者減輕ス可キ時ハ各本條ニ記載シタル刑期四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲シ其加重ス可キ者ハ四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一等ト爲ス但加ヘテ重罪ニ入ルコトヲ得ス



禁錮ハ加ヘテ七年ニ至リ減シテ十日以下ニ降スコトヲ得其減シ盡ス時ト雖モ仍ホ一日以上十日以下ノ禁錮ニ處ス但重禁錮ト雖モ十日以下ニ處スル時ハ定役ニ服セス

第三十五條 禁錮ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿サル時ハ之ヲ除棄ス

第三十六條 重罪ノ刑ヲ減輕シテ禁錮ニ處スル時將校ハ劊官ヲ附加ス

輕罪ノ刑ヲ減輕スル時ト雖モ本刑劊官ヲ附スル者ハ仍ホ之ヲ附加ス但減シテ十日以下ノ禁錮ニ處スル時ハ此限ニ在ラス

第四章 不論罪及減輕

第一節 不論罪及宥恕減輕

第二十七條 不論罪及宥恕減輕ハ普通刑法第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條ノ例ニ同シ

第二十八條 此節ニ記載シタルノ外特別ノ不論罪ハ各本條ニ於テ之ヲ記載ス

第二節 自首減輕

第二十九條 自首減輕ハ普通刑法第八十五條第八十八條ノ例ニ同シ

第三節 酌量減輕

第四十條 重罪輕罪ヲ分タス所犯情狀原諒ス可キ者ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スルコトヲ得

此刑法ニ於テ本刑ヲ加重シ又ハ減輕ス可キ者ト雖モ其酌量ス可キ時ハ仍ホ之ヲ減輕スルコトヲ得

其酌量減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第五章 再犯加重

第四十一條 再犯加重ハ普通刑法第九十一條第九十二條第九十四條第九十五條第九十七條第九十八條ノ例ニ同シ

第四十二條 再犯ハ初犯ノ罪此刑法ニ從ヒ處斷シタル者ニ非サレハ之ヲ論スルコトヲ得ス

第六章 加減順序

第四十三條 加減順序ハ普通刑法第九十九條ノ例ニ同シ

第七章 數罪俱發

第四十四條 數罪俱發ハ普通刑法第一百條第一百三條ノ例ニ同シ

第四十五條 此刑法ノ罪ト普通刑法又ハ陸軍刑法ノ罪ト俱ニ發シタル時亦一ノ重キニ從ニ處斷ス

第四十六條 此刑法ノ劊官ヲ附加セサル禁錮ニ該ル罪ト劊官ヲ附加スル禁錮及ヒ陸軍刑法ノ劊官ヲ附加スル禁錮若クハ普通刑法ノ禁錮ニ該ル罪ト俱ニ發シタル時ニ在テハ劊官ヲ附加セサル禁錮ニ處スルト雖モ仍ホ劊官ヲ附加シ軍屬其他ノ官吏ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其官職ヲ失フ

第八章 數人共犯

第四十七條 數人共犯ハ普通刑法第一百四條第一百五條第一百六條第一百七條第一百八條第一百九條第一百十條ノ例ニ同シ但此刑法第八十條第八十九條第九十條第九十三條第九十五條第九十六條第九十七條第一百三



第十四條ニ記載シタル罪ヲ論スル時從犯ハ首魁ニ非サル正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス

第四十八條 軍人ト軍人ニ非サル者ト共犯ニ係ル時軍人ハ此刑法ニ依リ處斷スト雖モ軍人ニ非サル者ハ普通刑法ニ照シテ其罪ヲ論ス但第三條第四條ニ依リ此刑法ヲ以テ處斷ス可キ者ハ此限ニ在ラス

第九章 未遂犯罪

第四十九條 未遂犯罪ハ普通刑法第百一十一條第百十二條第百十三條ノ例ニ同シ

第十章 名稱例

第五十條 軍人ト稱スルハ將官及同等官上長官士官下士卒ヲ謂フ

將校同等ノ軍人ハ總テ將校ニ同シ

豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ召集中ノ外此刑法ニ依テ處斷スルコトヲ得ス但此刑法ニ特例アル者ハ此限ニ在ラス(二十二年法律第十三號ヲ以テ追加)

第五十一條 軍屬ト稱スルハ海軍出仕ノ文官其他海軍ニ從事スル者ヲ謂フ

軍屬及ヒ海軍所屬ノ生徒ハ總テ軍人ニ同シ

第五十二條 司令官ト稱スルハ數隻又ハ一隻ノ艦船數所又ハ一所ノ屯營ヲ指揮スル者及ヒ分遣ノ兵隊若クハ數隻ノ端舟ヲ指揮スル者ヲ謂フ

第五十三條 上官ト稱スルハ官等ノ上ナル者ヲ云フ同等ト雖モ命令ヲ下ス可キ權ヲ有スル者其部下ニ於テハ上官ニ同シ卒ニシテ臨時下士ノ職ヲ奉スル者其部下ニ於ケル亦之ニ準ス

第五十四條 守兵ト稱スルハ儀仗若クハ警戒ノ爲メ守地ニ在ル者ヲ謂フ

第五十五條 親屬ト稱スルハ普通刑法第百十四條第百十五條ノ例ニ同シ

第二編 重罪輕罪

第一章 反亂

第五十六條 軍人黨ヲ結ヒ擲ニ兵器ヲ執リ反亂ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一、首魁教唆者及ヒ群衆ノ指揮ヲ爲シ若クハ樞要ノ職務ニ從事シタル者ハ死刑ニ處ス其指揮ヲ爲シ樞要ノ職務ニ從事スト雖モ情狀輕キ者ハ無期流刑ニ處ス

二、諸般ノ職務ヲ司トリ若クハ艦船兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ資給シタル者ハ有期流刑ニ處シ其情狀輕キ者ハ重禁獄ニ處ス

三、附和シテ其事ニ服行シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第五十七條 軍人反亂ヲ爲スト謀リ艦船兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ劫掠シタル者ハ前條ノ刑ニ同シ

第五十八條 軍人前二條ノ罪ヲ犯スニ因リ故サラニ鎮撫ノ官吏ヲ殺シタル者ハ死刑ニ處ス

第五十九條 軍人敵ヲ利スル爲メ艦船兵隊港灣堡壘造船所造兵所武庫所火藥庫兵器彈藥糧餉其他軍事ニ關スル土地家屋物件ヲ敵ニ付シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十條 軍人敵ヲ利スル爲メ土地道路ノ要害險夷ヲ指示シ若クハ攻守ノ用ニ供スヘキ圖書及ヒ暗號記號ヲ開示シ若クハ秘密ヲ要スル兵器彈藥ノ製法其他軍機軍情ヲ漏洩シタル者ハ死刑ニ處ス(二



十一年法律第四號ヲ以テ改正

- 第六十一條 軍人敵ヲ利スル爲メ艦船屯營造船所造兵所兵器彈藥糧餉其他軍用ニ供ス可キ物件ヲ毀壞シ又ハ火ヲ放テ之ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス
- 第六十二條 軍人敵ヲ利スル爲メ兵器彈藥糧餉其他軍需物品ノ缺乏ヲ致タル者ハ死刑ニ處ス
- 第六十三條 軍人敵ノ爲メ兵ヲ募リタル者ハ死刑ニ處ス
- 第六十四條 軍人敵ヲ利スル爲メ音信ヲ敵ニ通シタル者ハ死刑ニ處ス
- 第六十五條 軍人敵ノ間諜ヲ誘導助成隱匿シ若クハ敵ヲ利スル爲メ俘虜降人ヲ逃走セシメ又ハ劫奪シタル者ハ死刑ニ處ス
- 第六十六條 軍人黨ヲ結ヒ司令官ヲ要シ敵ニ降ラシメントシタル者ハ死刑ニ處ス
- 第六十七條 軍人敵ヲ利スル爲メ艦船若クハ兵隊ノ聯絡集合ヲ妨害シ又ハ兵隊ノ潰走ヲ誘起シタル者ハ死刑ニ處ス
- 第六十八條 軍人敵ヲ利スル爲メ叫呼喧噪シ若クハ造言飛語ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處ス
- 第六十九條 軍人前數條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者及ヒ其豫備ヲ爲シタル者ハ本條ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス
- 其陰謀ヲ爲シ未タ豫備ニ至ラサル者ハ各二等ヲ減ス
- 第七十條 軍人前數條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ其豫備若クハ陰謀ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ自首シタル者ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監獄ニ附シ將校ハ剝官ヲ附加ス
- 第七十一條 軍人情ヲ知テ前數條ニ記載シタル所ノ犯人集會ノ爲メ家屋ヲ貸シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス
- 第七十二條 軍人此章ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監獄ニ付シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第二章 辱職

- 第七十三條 司令官猶ホ防守スルヲ得ヘキ時ニ於テ敵ニ降リ又ハ其艦船若クハ守地ヲ敵ニ付シタル者ハ死刑ニ處ス
- 第七十四條 司令官戰爭ノ際ニ於テ其盡ス可キ所ヲ盡サスシテ艦船若クハ兵隊ヲ率キ遁走シタル者ハ死刑ニ處ス
- 第七十五條 司令官若クハ艦船ノ乘員其艦船ヲ破亡沈没シタル者ハ死刑ニ處ス其怠慢ニ出タル時ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス
- 第七十六條 司令官其艦船破亡沈没スル時ニ當リ故ナク衆ニ先チテ其艦船ヲ退去シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
  - 一 敵前ニ在テハ死刑ニ處ス
  - 二 軍中ニ在テハ有期流刑ニ處ス



- 三、其他ノ場合ニ在テハ輕禁錮ニ處ス、
- 第七十七條 司令官若クハ艦船ノ乘員其艦船ヲ擱岸坐礁其他危險ニ付シ之ヲ損壞シタル者ハ重禁錮ニ處ス其怠慢ニ出タル時ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス
- 第七十八條 司令官其艦船擱岸坐礁其他危險ノ時ニ當リ救援ノ方略ヲ盡サスシテ之ヲ沈没シ若クハ損壞シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス
- 第七十九條 司令官敵ノ船舶ヲ拿捕ス可キ時ニ於テ故ナク其事ヲ爲ササル者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス
- 敵前ニ在テ我船舶ヲ救援ス可キ時故ナク其事ヲ爲ササル者亦同シ
- 第八十條 司令官若クハ當直士官怠慢ニ因リ敵ヲシテ其艦船ニ乗入ラシメタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス
- 第八十一條 司令官船舶ヲ護衛スルノ命ヲ受ケ其船舶ヲ委棄シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
  - 一、敵前ニ在テハ死刑ニ處ス
  - 二、軍中ニ在テハ重禁錮ニ處ス
  - 三、其他ノ場合ニ在テハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス
- 第八十二條 前條ノ所爲其怠慢ニ出タル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
  - 一、敵前ニ在テハ一年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處ス

- 二、軍中ニ在テハ三月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス
- 三、其他ノ場合ニ在テハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處ス
- 第八十三條 將校其部下ノ兵徒黨犯罪ノ事アルニ當リ鎮定ノ方ヲ盡ササル者ハ一月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス
- 第八十四條 軍人秘密ヲ要スル圖書兵器彈藥ノ製法其他軍事ニ關スル機密ヲ漏洩シタル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス(二十年法律第四號ヲ以テ改正)
- 第八十五條 司令官内外國ノ船舶擱岸坐礁其他危險ノ時救援ノ請求ヲ受ケ故ナク之ヲ肯セサル者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第三章 抗命

- 第八十六條 軍人命令ヲ下ス可キ權アル者ノ命令ニ抗シタル者若クハ服從セサル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
  - 一、敵前ニ在テハ死刑ニ處ス
  - 二、軍中又ハ擱岸坐礁其他艦船救援ノ爲メ緊要ノ方略ヲ爲ス時ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス
  - 三、其他ノ場合ニ在テハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス
- 第八十七條 軍人二人以上相黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス



- 一、敵前ニ在テハ死刑ニ處ス
- 二、軍中又ハ攔岸坐礁其他艦船救護ノ爲メ緊要ノ方略ヲ爲ス時ニ在テハ首魁ハ重禁獄ニ處ス其他ノ者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス
- 三、其他ノ場合ニ在テハ首魁ハ輕禁獄ニ處ス其他ノ者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第四章 暴行

- 第八十八條 軍人上官ニ對シ暴行ヲ爲シタル者ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス
- 第八十九條 軍人二人以上相黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者首魁ハ重禁獄ニ處ス其他ノ者ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス
- 第九十條 軍人上官ノ公務ヲ行フニ當リ前二條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ
- 第九十一條 軍人上官ニ對シ兵器若クハ兇器ヲ用ヒ暴行ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處ス戰場ニ於テ上官ノ公務ヲ行フニ當リ暴行ヲ爲シタル者亦同シ
- 第九十二條 軍人守兵ニ對シ暴行ヲ爲シタル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス其兵器若クハ兇器ヲ用ヒタル者ハ有期流刑ニ處ス

- 第九十三條 軍人二人以上相黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者首魁ハ重禁獄ニ處ス其他ノ者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス
- 其兵器若クハ兇器ヲ用ヒタル者首魁ハ死刑ニ處シ其他ノ者ハ有期流刑ニ處ス
- 首魁目ヲ兵器若クハ兇器ヲ用ヒスト雖モ指示シテ之ヲ用ヒシメタル時ハ死刑ニ處ス
- 第九十四條 軍人戰場ニ於テ同等若クハ下等ノ公務ヲ行フニ當リ暴行ヲ爲シタル者ハ三月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス
- 其兵器若クハ兇器ヲ用ヒタル者ハ重禁獄ニ處ス
- 第九十五條 軍人二人以上相黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者首魁ハ輕禁獄ニ處ス其他ノ者ハ三月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス
- 其兵器若クハ兇器ヲ用ヒタル者首魁ハ有期流刑ニ處シ其他ノ者ハ重禁獄ニ處ス
- 首魁自ラ兵器若クハ兇器ヲ用ヒスト雖モ指示シテ之ヲ用ヒシメタル時ハ有期流刑ニ處ス
- 第九十六條 軍人多衆相集リ暴行ヲ爲シタル者首魁ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ其他ノ者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス
- 第九十七條 軍人多衆結合シテ相闘毆シタル者首魁ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ其他ノ者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス
- 第九十八條 軍人俘虜降人ヲ褫奪シ若クハ暴行脅迫ヲ以テ其逃走ヲ助ケタル者ハ重禁獄ニ處ス



第九十九條 軍人戰場ニ於テ創傷人ノ衣服財物ヲ褫奪シタル者ハ重懲役ニ處シ因テ殺傷シタル者ハ死刑ニ處ス

第五章 侮辱

第一百條 軍人上官ヲ罵詈若クハ侮辱シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス上官ノ公務ヲ行フニ當リ罵詈若クハ侮辱シタル者ハ一等ヲ加フ

第一百一條 軍人文書圖書ヲ流布シ若クハ多衆ヲ會シ演說ヲ爲シテ上官ヲ誹毀シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第一百二條 軍人守兵ヲ罵詈若クハ侮慢シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第一百三條 軍人戰場ニ於テ同等若クハ下等ノ者ノ公務ヲ行フニ當リ罵詈若クハ侮慢シタル者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第六章 燒燬毀壞

第一百四條 軍人火ヲ放テ艦船屯營造船所武庫火藥庫其他戰鬥ノ用ニ供スル屋舎若クハ軍用ニ供スル物品ヲ貯藏スル倉庫ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス

第一百五條 軍人火ヲ放テ露積シタル兵器彈藥機械船具糧餉其他軍用ノ物品ヲ燒燬シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前若クハ軍中ニ在テハ死刑ニ處ス

二 其他ノ場合ニ在テハ重懲役ニ處ス

第一百六條 軍人火藥其他激發ノ可キ物品又ハ蒸氣罐ヲ破裂セシメテ前二條ニ記載シタル物件ヲ毀壞シタル者ハ前二條ノ例ニ照シテ處斷ス

第一百七條 軍人艦船屯營造船所造兵所武庫彈藥庫其他戰鬥ノ用ニ供スル屋舎若クハ軍用ニ供スル物品ヲ貯藏シタル倉庫ヲ毀壞シタル者ハ重懲役ニ處ス

第一百八條 軍人兵器彈藥機械船具糧餉其他軍用ノ物品ヲ棄毀シタル者ハ一月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

第一百九條 軍人官給ノ物品ヲ棄毀シタル者ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第七章 擅權

第一百十條 司令官講和ノ告示若クハ停戰ノ命令ヲ受ケタル後仍ホ戰鬥ノ所爲ヲ止メサル者ハ死刑ニ處ス

第一百一條 司令官命令ニ背キ若クハ權外ニ於テ止ムコトヲ得サルノ理由ナク擅ニ艦船若クハ兵隊ヲ進退シタル者ハ死刑ニ處ス

第一百二條 司令官艦船若クハ兵隊ヲ率キ故ナク其守地若クハ配置セラレタル地ヲ離去シタル者ハ左

ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ニ在テハ死刑ニ處ス



二、軍中ニ在テハ一年以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ、劊官ヲ附加ス、

三、其他ノ場合ニ在テハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ直シ、劊官ヲ附加ス、

第百十三條 將校艦船ノ直ニ在テ其直ヲ離レ若クハ守兵守所ヲ離レ其他軍人緊要ノ職務ニ服シ擅ニ其職務ヲ離レタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス、

一、敵前ニ在テハ死刑ニ處ス、

二、軍中又ハ擱岸坐礁其他艦船救護ノ爲メ緊要ノ方略ヲ爲ス時ニ在テハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ、將校ハ劊官ヲ附加ス、

三、其他ノ場合ニ在テハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ、將校ハ劊官ヲ附加ス、

第百十四條 將校艦船ノ直ニ在テ睡眠若クハ酩酊シテ事ヲ省セサル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス、

一、敵前ニ在テハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス、

二、軍中ニ在テハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス、

三、其他ノ場合ニ在テハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス、

第百十六條 軍人艦船ノ擱岸坐礁其他危險ノ時ニ當リ司令官ノ命ヲ待タス其艦船ヲ退去シ又ハ其命ニ依リ艦船ヲ退去シタル後集合ノ場所ニ來ラス若クハ擅ニ其場所ヲ離去シタル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ、將校ハ劊官ヲ附加ス、

軍人某地ニ滞在スヘキコトヲ命セラレ擅ニ其地ヲ離レ十日ヲ過キタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス、

錮ニ處ス、(二十三年法律第十三號ヲ以テ追加)

第百十七條 軍人守兵ヨリ告示スル禁令ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス、

一、敵前ニ在テハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ、將校ハ劊官ヲ附加ス、

二、軍中ニ在テハ一年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ、將校ハ劊官ヲ附加ス、

三、其他ノ場合ニ在テハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス、

第百十八條 軍人戰鬥ノ號報アル時故ナク其集合場ニ來會セサル者ハ二月以下二年以下ノ輕禁錮ニ處シ、將校ハ劊官ヲ附加ス、

第百十九條 軍人允許ヲ得テ他方ニ赴キ故ナク歸着ノ期限ニ後レ十日ヲ過キタル者ハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス、

第百二十條 歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者故ナク召集ノ期限ニ後レタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス、(同上ヲ以テ改正)

一、出師ノ時ニ在テ五日ヲ過キタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス、

二、其他ノ場合ニ在テ十日ヲ過キタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス、

第百二十一條 徵兵募兵故ナク徵集ノ期限ニ後レタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス、(同上)

一、出師ノ時ニ在テ五日ヲ過キタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス、

二、其他ノ場合ニ在テ十日ヲ過キタル者ハ十一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス、



第二百二十二條 司令官事變ニ因リ已ムコトヲ得ス暗號記號ヲ改メ又ハ配置セラレタル地若クハ其命セ  
ラレタル所ノ事ヲ變更シ直ニ之ヲ申報セサル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第二百二十三條 軍人命ヲ受ケス艦船内ニ商貨ヲ積載シタル者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス但  
破壊若クハ危險ニ罹リタル船舶ノ商貨ヲ保護スル爲メ積載シタル者ハ此限ニ在ラス

第二百二十四條 守兵妄リニ銃砲ヲ發シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第二百二十五條 軍人禮砲號砲其他空砲ヲ發スル時ニ當リ彈丸銅鐵瓦石等ヲ裝填シテ發射シタル者ハ一  
月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

此條ノ罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百二十六條 軍人政治ニ關スル事項ヲ上書建白シ又ハ講談論說シ若クハ文書ヲ以テ之ヲ廣告スル者  
ハ一月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第二百二十七條 軍人敵前軍ヲニ在テ造言飛語ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校  
ハ剝官ヲ附加ス

第二百二十八條 軍人俘虜降人ヲ逃走セシメタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附  
加ス

看守護送者之ヲ犯シタル時ハ重禁錮ニ處ス

第二百二十九條 軍人俘虜降人ヲ逃走セシムル爲メ兵器其ノ他ノ器具ヲ給與シ若クハ逃走ノ方法ヲ指示  
シタル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

看守護送者之ヲ犯シタル時ハ輕禁錮ニ處ス

第二百三十條 軍人前二條ニ記載シタル所ノ輕罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照  
シテ處斷ス

第二百三十一條 軍人俘虜降人ヲ看守若クハ護送シ懈怠ニ因リ其逃走ヲ致シタル者ハ十一日以上一月以  
下ノ輕禁錮ニ處ス

第二百三十二條 軍人逃走ノ俘虜降人ナルコトヲ知テ之ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメタル者ハ一月以上一  
年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス但犯人ノ親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

第九章 逃亡

第二百三十三條 軍人擅ニ艦船屯營本隊若クハ職役ヲ離レタル者ハ左ノ區別ニ從ヒ逃亡ト爲シテ處斷ス  
(二十八法律第十九號ヲ以テ改正)

一 敵前ニ在テハ輕懲役ニ處ス

二 軍中ニ在テ三日ヲ過キタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

三 其他ノ場合ニ在テ六日ヲ過キタル者ハ二月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二百三十四條 軍人四人以上相黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス(同上)

一 敵前ニ在テハ首魁ハ死刑ニ處シ其他ノ者ハ輕懲役ニ處ス

敵前ニ在テハ首魁ハ死刑ニ處シ其他ノ者ハ輕懲役ニ處ス



二、軍中ニ在テ三日ヲ過キタル者ハ首魁ハ輕禁獄ニ處シ其他ノ者ハ六月以上二年以下ハ重禁錮ニ處ス、

三、其他ノ場合ニ在テ六日ヲ過キタルモノハ首魁ハ二年以上五年以下ハ重禁錮ニ處シ其他ノ者ハ二月以上一年以下ハ重禁錮ニ處ス、

軍人故ナク發艦ノ期ニ後レタル者ハ其經過日數ヲ問ハス逃亡ト爲シ前條ノ例ニ從ヒ其四人以上相黨與シタル者ハ本條ノ例ニ從テ處斷ス、(二十三年法律第十三號ヲ以テ追加)

第三百二十五條 軍人敵ニ奔リタル者ハ死刑ニ處ス、

第十章 詐偽

第三百二十六條 軍入敵地若クハ敵情ヲ探偵スルノ命ヲ受ケ詐偽ノ報告ヲ爲シタル者又ハ戰場ニ在テ命令ヲ詐リ傳ヘタル者ハ五月以上五年以下ハ重禁錮ニ處ス、

第三百二十七條 軍人糧食ノ支給ヲ掌リ健康ヲ害ス可キ食料飲料ヲ配付シタル者ハ輕懲役ニ處シ因テ死ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處ス、

第三百二十八條 海軍警官其職務ヲ以テ疾病傷疾及ヒ身體強弱ノ偽證ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ハ重禁錮ニ處ス其囑託ヲ爲シタル軍人亦同シ、

第三百二十九條 軍人疾病ヲ作爲シ身體ヲ毀傷シテ兵役ヲ免ルル事ヲ圖リタル者ハ一月以上一年以下ハ重禁錮ニ處ス、

◎陸海軍法衙ニ於テ罰金科料ニ處スルトキ

換刑處分ノ件

明治十六年十一月第三十七號布告

陸海軍法衙ニ於テ罰金科料ニ處スルトキ換刑處分ノ件

陸海軍法衙ニ於テ罰金科料ニ處スル時ハ直ニ輕禁錮勾留ニ換フルコトヲ得

◎刑事訴訟法(抄)

明治二十三年十月法律第九十六號

刑事訴訟法

第三編 犯罪ノ捜査、起訴及豫審

第三章 豫審

第六節 證人訊問

第一百五條 證人ノ呼出狀ニハ其氏名、住所及ヒ職業ヲ記載ス可シ

又出頭ノ日時、場所及ヒ呼出ニ應セサルトキハ罰金ヲ言渡シ且勾引スルコトアル可キ旨ヲ記載ス可シ

呼出狀ノ送達ト出頭トノ間少クトモ二十四時ノ猶豫アル可シ

第十六條 證人疾病其他正當ノ事故ニ因リ呼出ニ應スル能ハサルコトヲ疏明シタルトキハ豫審判事



其所在ニ就テ之ヲ訊問ス可シ

第一百七七條

證人ト爲ル可キ者豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ナルトキハ其所屬ノ長官又ハ隊長ヲ經由シテ呼出狀ヲ送達ス其長官又ハ隊長ハ即時ニ出頭セシム可キコトヲ認可シ又ハ職務上已ムコトヲ得サル差支アルトキハ其事由ヲ付シテ出頭ノ延期ヲ豫審判事ニ請求ス可シ

第一百八條

豫審判事ハ前二條ニ定メタル差支ノ場合ヲ除ク外證人呼出ニ應セサルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ其不參ニ因リ生シタル費用ノ賠償及ヒ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ言渡ス可シ但其決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行ヲ停止スル効力ヲ有ス  
豫審判事ハ其證人ニ對シ罰金ノ言渡書ト共ニ再度ノ呼出狀ヲ送達シ又ハ直チニ勾引狀ヲ發スルコトヲ得  
若シ證人再度ノ呼出ニ應セサルトキハ費用賠償ノ外ニ倍ノ罰金ヲ言渡ス可シ又勾引狀ヲ發スルコトヲ得

豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對スル罰金ノ言渡及ヒ執行ハ軍事裁判所又ハ所屬ノ長官又ハ隊長ニ囑託シテ之ヲ爲ス可シ其勾引ニ付テモ亦同シ

第一百九條

豫審判事ハ證人罰金言渡書ノ送達アリタルヨリ三日内ニ其出頭セサリシコトヲ正當ノ理由ヲ以テ辯解シタルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ其罰金及ヒ賠償ノ決定ヲ取消ス可シ

第二百十條

證人呼出狀ニ因リ出頭シタルトキハ其呼出狀ヲ差出ス可シ若シ之ヲ遺失シタルトキハ其人違ナキコトヲ疏明ス可シ

人違ナキコトヲ疏明ス可シ

第二百一十一條

豫審判事ハ證人トシテ呼出シタル者ニ對シ其氏名、年齢、職業、住所及ヒ第二百二十三條ニ記載シタル者ナルヤ否ヤヲ問フ可シ

第二百二十二條

豫審判事ハ證人ヲシテ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ黙秘セス又何事ヲモ附加セサル旨ヲ宣誓セシム可シ

裁判所書記ハ證人ニ宣誓書ヲ讀聞カセ之ニ署名捺印セシム若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

第二百二十三條

左ニ記載シタル者ハ證人ト爲ルコトヲ許サス但宣誓ヲ爲サシメスシテ事實參考ノ爲メ其供述ヲ聽クコトヲ得

第一 民事原告人

第二 民事原告人及ヒ被告人ノ親屬但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖モ亦同シ

第三 民事原告人及ヒ被告人ノ後見人又ハ此等ノ者ノ後見ヲ受クル者

第四 民事原告人及ヒ被告人ノ雇人又ハ同居人

第二百二十四條 左ニ記載シタル者亦前條ニ同シ

第一 十六歳未滿ノ幼者

第二 知覺精神ノ不十分ナル者



第三 瘡啞者

第四 公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタル者

第五 重罪事件又ハ重禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪事件ニ付キ公判ニ付セラレタル者

第六 現ニ供述ヲ爲ス可キ事件ニ付キ曾テ訴ヲ受ケ其證據十分ナラサルニ因リ免訴ノ言渡ヲ受ケタル者

第二百二十五條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ證書ヲ拒ムコトヲ得

第一 官吏、公吏又ハ官吏、公吏タリシ者其職務上黙秘ス可キ義務アル事情ニ關スルトキ

第二 醫師、藥商、穩婆、辯護士、辯護人、公證人、神職、僧侶其身分、職業、爲メ委託ヲ受ケタルニ因テ知リタル事實ニシテ黙秘ス可キモノニ關スルトキ

證言ヲ拒ム者ハ拒絕ノ原因タル事實ヲ開示シ且之ヲ疏明ス可シ

第二百二十六條 證人宣誓ヲ肯セス又ハ宣誓シテ供述ヲ肯セサルトキハ豫審判事、檢事ノ意見ヲ聽キ刑法

第二百八十條ニ從ヒ罰金ヲ言渡ス可シ但其決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有ス

豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對スル罰金ノ言渡及ヒ執行ハ軍事裁判所ニ囑託シテ之ヲ爲ス可シ

第二百二十七條 證人ハ他ノ證人及被告人ト各別ニ之ヲ訊問ス可シ但事實發見ノ爲メ必要ナリトスルト

キハ證人ト他ノ證人又ハ被告人ト對質セシムルコトヲ得

第二百二十八條 豫審判事ハ證人ノ供述ヲ確實ナラシムル爲メ必要ナリトスルトキハ犯所又ハ其他ノ場

所ニ同行スルコトヲ得

若シ證人同行スルコトヲ肯セサルトキハ第一百八條ノ規定ニ從フ

第二百二十九條 第百條第百一條ノ規定ハ證人ニ付テモ亦之ヲ適用ス

第二百三十條 皇族證人ナルトキハ豫審判事其所在ニ就キ訊問ヲ爲ス可シ

各大臣ニ付テハ其官廳ノ所在地ニ於テ訊問ス若シ其所在地外ニ滞在スルトキハ其現在地ニ於テ之ヲ

訊問ス可シ

帝國議會ノ議員ニ付テハ開會期間其議會ノ所在地ニ滞在中ハ其所在地ニ於テ之ヲ訊問ス可シ

第二百三十一條 豫審判事ハ證人ニ其供述ノ相違ナキヤ否ヤヲ知ラシムル爲メ裁判所書記ヲシテ調書ヲ

讀聞カセシム可シ

證人ハ其供述ヲ變更増減センコトヲ請求スルヲ得書記ハ其請求アリタルコト及ヒ變更増減ノ條件ヲ

調書ニ記載ス可シ

調書ニハ豫審判事、書記及ヒ證人共ニ署名捺印ス可シ若シ證人署名捺印スルコト能ハサルトキハ其

旨ヲ附記ス可シ

第二百三十二條 豫審判事ハ證人裁判所所在ノ地ニ住セサルトキハ其住居ノ地ノ區裁判所判事ニ訊問ノ



事ヲ囑託スルコトヲ得

若シ證人管轄地外ニ在ルトキハ其所在ノ地ノ豫審判事又ハ區裁判所判事ニ訊問ノ事ヲ囑託スルコトヲ得

第三百三十三條 第三百十八條 第三百十九條及ヒ第三百二十六條ニ掲ケタル證人ニ對スル豫審判事ノ權ハ受託判事ニモ屬ス

第三百二十四條 證人ハ出頭ニ付テノ旅費日當ヲ要ムルコトヲ得

第七節 鑑定

第三百二十五條 豫審判事ハ犯罪ノ性質、方法及ヒ結果ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定ヲ必要ナリトスルトキハ學術、職業ニ因リ鑑定スルコトヲ得ヘキ者一名又ハ數名ヲシテ鑑定ヲ爲サシム可シ

鑑定ノ爲メ必要ナリトスルトキハ死體ノ解剖ヲ命シ又既ニ埋葬シタル死體ヲ解剖シ若クハ檢視スル爲メ墳墓ノ發掘ヲ命スルコトヲ得

第三百二十六條 鑑定ニ付テハ第三百十五條 第三百十八條乃至第三百二十一條 第三百二十三條乃至第三百二十五條及ヒ第三百二十八條ノ規定ヲ準用ス但鑑定人ニ對シテハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得ス

第三百條 第三百一一條ノ規定ハ鑑定人ニ付テモ亦之ヲ適用ス(三十二年法律第七十三號ヲ以テ追加)

第三百二十七條 鑑定人ハ公平且正實ニ鑑定ス可キ宣誓ヲ爲ス可シ其宣誓ハ第三百二十二條ノ式ニ從フ

第三百二十八條 鑑定人宣誓ヲ肯セス又ハ宣誓シテ鑑定ヲ肯セサルトキハ豫審判事檢事ノ意見ヲ聽キ刑

法第三百七十九條ニ從ヒ罰金ヲ言渡ス可シ但其決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有ス

第三百二十九條 豫審判事ハ鑑定人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ鑑定人ヲ増加シ又ハ別人ヲシテ鑑定セシムルコトヲ得

第三百四十條 鑑定人ハ鑑定書ヲ作り其手續、結果及ヒ鑑定ヲ爲シタル時間ヲ詳記ス可シ若シ結果ヲ得サルトキハ其推測スル所ヲ記載ス可シ

鑑定人意見ヲ異ニスルトキハ各自鑑定書ヲ作り又ハ各自ノ意見ヲ一箇ノ鑑定書ニ記載ス可シ 第三百四十一條 鑑定人ハ旅費、日當及ヒ立替金ノ辨濟ヲ要ムルコトヲ得

第四編 公判

第一章 通則

第九十條 第一百五條以下ノ規定ハ公判ノ證人ニ 第三百三十五條以下ノ規定ハ公判ハ鑑定人ニモ亦之ヲ準用ス

●陸軍治罪法(抄)

明治二十一年十月 法律第三號

陸軍治罪法

第五章 審問

陸軍治罪法